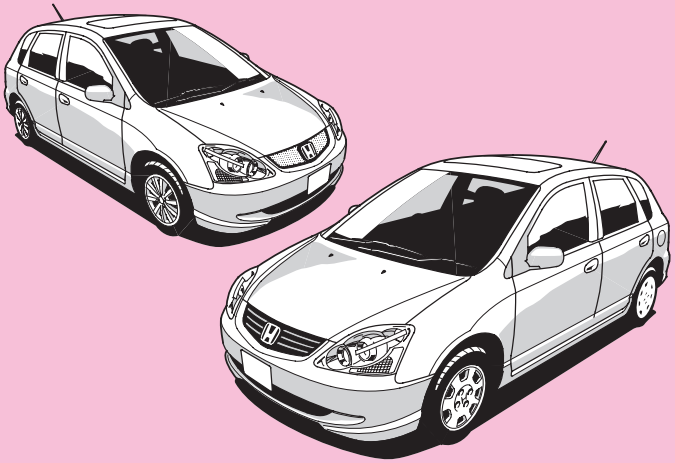
取扱説明書

ご使用の前に
よくお読みください。

CIVIC

このたびはHonda車をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この本は CIVIC の取り扱いについて
必要事項を説明しています。
安全で快適なドライブをお楽しみいただくために、
ご使用前に必ずお読みください。



●運転はルールを守り、マナーよく。 ・シートベルトを着用しましょう。 ・法定速度を守りましょう。 ・子供やお年寄りをいたわりましょう。 ・駐停車は、ルールに従いましょう。 ・迷惑運転はやめましょう。 ・自然環境保護に気をくばりましょう。	●お車に“⚠ 📖”の表示があるところは、ご使用前に本書の記載を確認してください。
	●取扱説明書は、メンテナンスノートと共に、いつもお車に保管してください。
	●お車をゆずられるときは、つぎに所有されるかたのためにこの取扱説明書およびメンテナンスノートを車につけておいてください。
●保証や点検整備に関することはメンテナンスノートに記載しておりますので、ご使用前に必ずお読みください。	●ご不明な点は、担当セールスマンにおたずねください。

車の仕様などの変更により、この本の内容と実車が一致しない場合がありますのでご了承ください。

本書の読みかた

この本はドライバーの動作に沿って各部の取り扱いを説明しています。
また、装備、万一のときの応急処置、お車の手入れなど、必要な情報を説明しています。

「安全ドライブのための必読 6 ポイント」

重要ですので、しっかりお読みください。

安全に関する表示

「運転者や他の人が傷害を受ける可能性のあること」を回避方法と共に、下記の表示で記載しています。これらは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠危険
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至るもの

⚠警告
指示に従わないと、死亡または重大な傷害に至る可能性があるもの

⚠注意
指示に従わないと、傷害を受ける可能性があるもの

その他の表示

お車に関することや、その他のアドバイスは下記の表示を使って記載しています。

アドバイス
お車のために守っていただきたいこと
（車が故障・破損するのを防ぐためのアドバイス、異常事態の処置方法を記載しています）

知 識
知っておいていただきたいこと
知っておくと便利なこと

タイトル
階層ごとにデザインを
変えてあります

ヘッダー
ページの内容を
示しています

**ページ
インデックス**
（→4ページ）

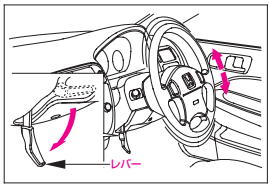
ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング

ハンドルの高さを適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さを適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意

- 走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知 識

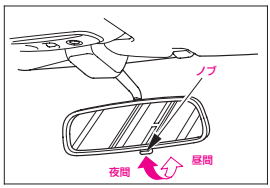
- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

**●長期間使わないで
屋外におくとき**

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

⚠注意

- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

説明文
装置／機構について

解説
▼
操作方法

に分けて記載しています。

安全に関する表示

※このページはサンプルページですので、記載されている内容と実車は異なります。

本書の上手な使いかた

知りたい項目の説明がすぐ探せるように、いろいろな引きかたが用意されています。



タイトルから探すとき

目次(P.5)

ページインデックス:
目次と対応しているので、目的のページが辞書を引くように探せます。



スイッチ類などの名称が
わからないとき

ビジュアル目次
(P.6〜9)



名称から探すとき

さくいん
(P.280〜289)

目　次

◆安全ドライブのための必読 6 ポイント　11

1．お出かけまえに 12
2．お子さまに思いやりを 14
3．正しい知識で最適運転 18
4．オートマチック車の注意ポイント 20
5．駐車や停車はしっかりと 24
6．こんなことにも注意をしよう 26

1. 車を運転する前に　31



・各部の開閉 32
・ハンドル・バックミラーの調節 60
・チャイルドシート固定装置 74
・シートの調節 50
・シートベルト 64

2. 車を運転するときに　79



・メーター 80
・スイッチの使いかた 96
・表示灯 84
・運転のしかた 104
・警告灯 88

3. 安全装備　127



・SRSエアバッグシステム 128
・シートベルトプリテンショナー 146
・四輪駆動機構（4WD） 150
・サイドエアバッグシステム 136
・アンチロックブレーキシステム（ABS） 148
・その他の安全装備 151

4. ドライブを快適にする装備　153



・エアコン 154
・オーディオ 164
・室内装備品 186

5. 万一のとき　197



・工具・スペアタイヤ・発炎筒 198
・けん引 204
・電気系統が異常のとき 220
・故障したとき 200
・パンクしたとき 208
・事故が起きたとき 202
・オーバーヒートしたとき 218

6. 車の手入れ　239



・点検・整備について 240
・日常の手入れ 242
・車にあった部品の使用 252

7. 車との上手なつきあいかた　253



・積雪・寒冷時の取り扱い 254
・環境にやさしい省エネドライブをするために 268
・こんなときは 264

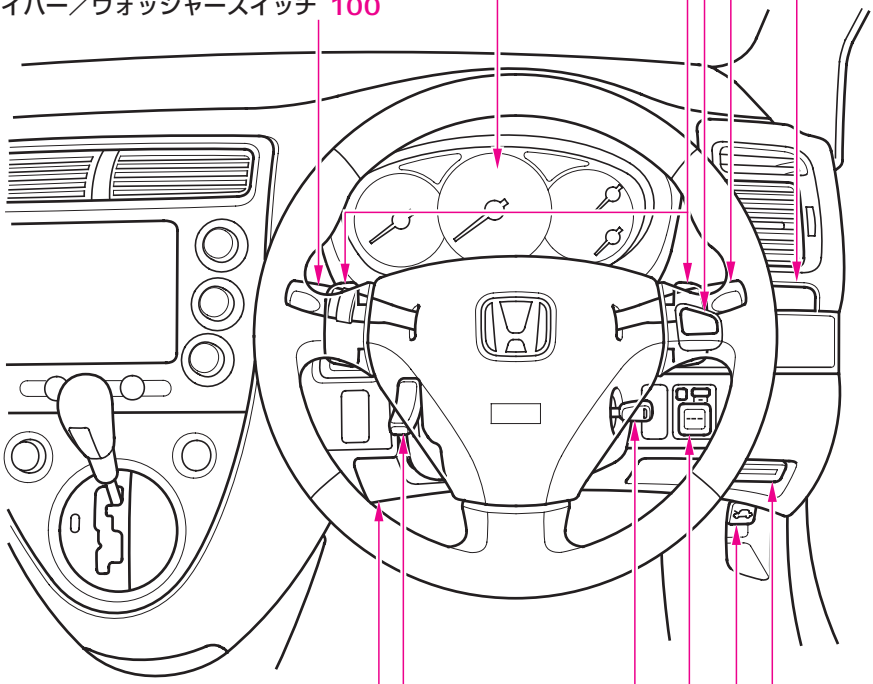
・サービスデータ　272

・さくいん　280

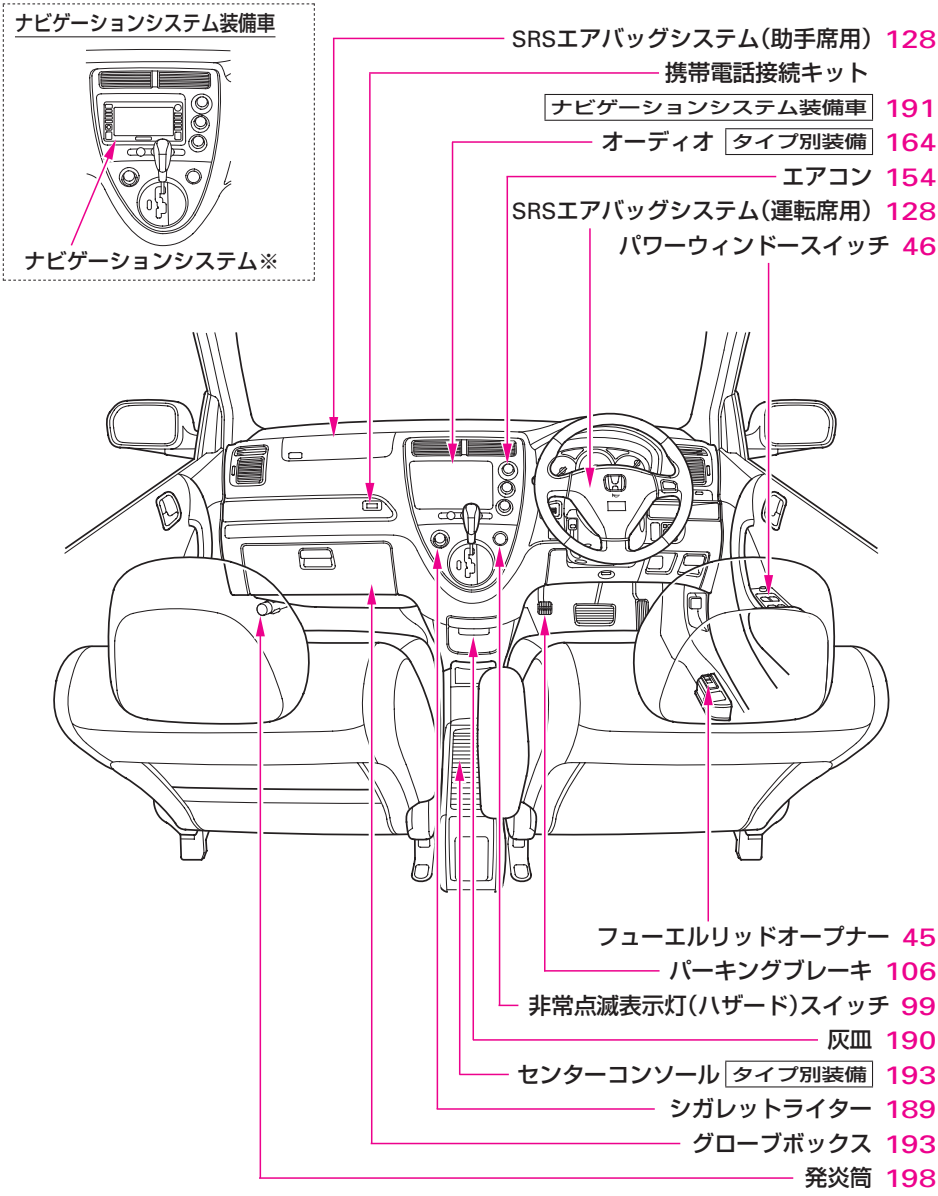
・こんなことでお困りのとき　巻末

名称別ビジュアル目次

運転席カップホルダー 194
ライト／方向指示器(ウィンカー)スイッチ 98
7速モードメインスイッチ タイプ別装備 111
7速モードシフトスイッチ タイプ別装備 111
メーター 80
表示灯 84
警告灯 88
ワイパー／ウォッシャースイッチ 100

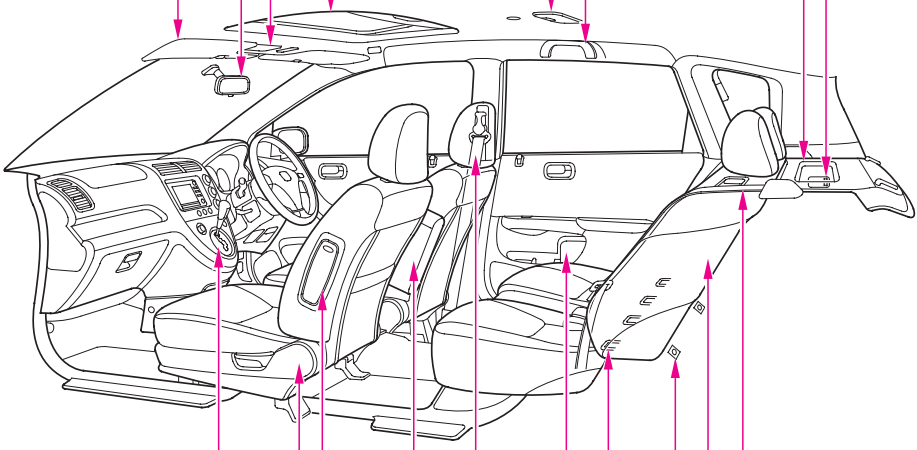


ヒューズボックス 222
チルトステアリングレバー 60
エンジンスイッチ 96
ドアミラー調節スイッチ 62
ボンネット解錠ノブ 40
パーキングブレーキ解除レバー 106



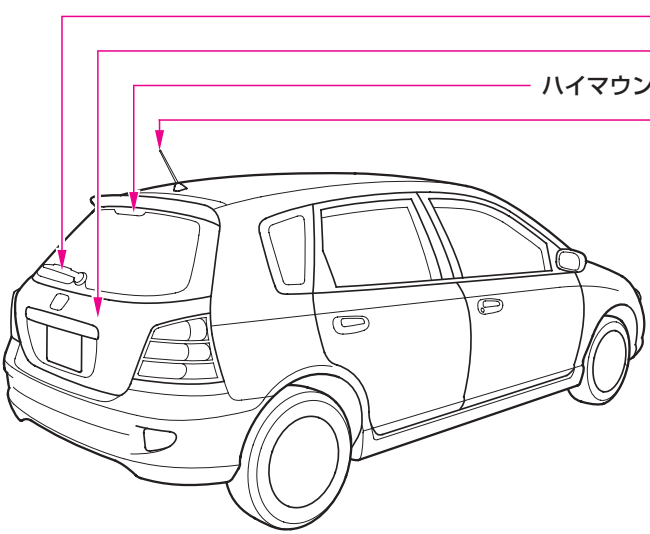
※：ナビゲーションシステム装備車については、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をご覧ください。

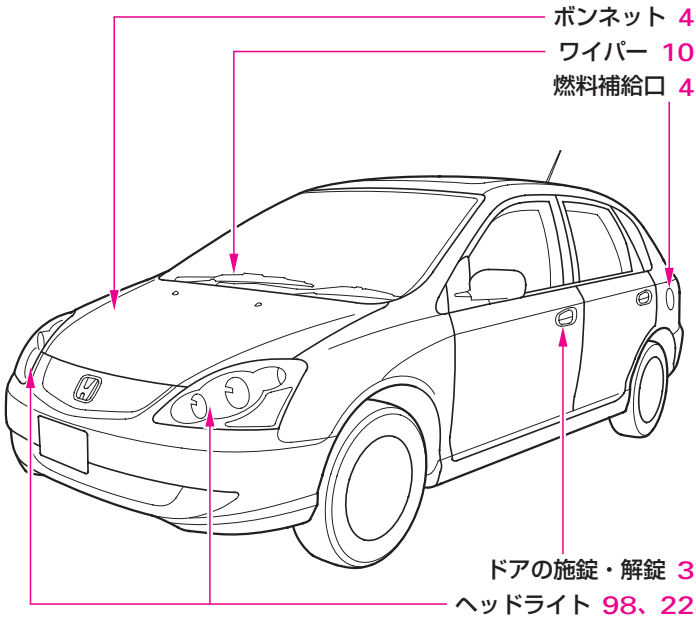
ビジュアル目次



カーゴルーム照明灯 188
リヤシェルフ 192
グラブレール 196
室内灯 186
サンルーフ 注文装備 48
マップランプ
タイプ別装備 187
ルームミラー 61
サンバイザー 190

セレクトレバー 108、114
フロントシート 52
サイドエアバッグシステム
注文装備 136
フロントシートアームレスト 53
シートベルト 64
ボトルホルダー 196
ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置 76
リヤシート 54
シートベルト（チャイルドシート固定機構付き） 74


リヤワイパー 102
テールゲート 42
ハイマウントストップランプ 151
アンテナ 166


ボンネット 40
ワイパー 100
燃料補給口 44
ドアの施錠・解錠 36
ヘッドライト 98、228

安全ドライブのための
必読6ポイント

ご使用の前に知っておいていただきたいこと、
守っていただきたいことをまとめてあります。

POINTS 6

●お出かけまえに …… 12
●お子さまに思いやりを …… 14
●正しい知識で最適運転 …… 18
●オートマチック車の注意ポイント … 20
●駐車や停車はしっかりと …… 24
●こんなことにも注意をしよう …… 26

1 お出かけまえに・・・

点検をわすれずに。
＜メンテナンスノート参照＞

- **道路運送車両法により、法定定期点検と日常点検が義務づけられています。**
  安全・快適にお使いいただくために、Hondaの点検要領に従って必ず点検してください。
  日常点検は車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
- **普段と違う点に気づいたら、ホンダプリモ店で点検を受けてください。（音、におい、ブレーキ液の不足、地面に油のあとが残っている時・・・）**
- **走行中も車の状態に気を配り、いつもと違う音やにおい、運転感覚などを感じたら早めに点検しましょう。**

シートベルトを正しく着用。
＜64ページ参照＞

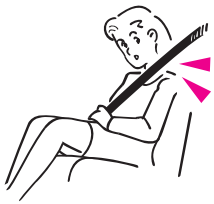
- **運転する人はもちろん、同乗する人にも必ず着用させてください。**
- **シートに深く腰かけ、背もたれは必要以上に倒さないでください。**
- **腰骨のできるだけ低い位置に着用してください。**



- **ベルトにねじれがないか確かめてください。**



- **ベルトがくび、あご、顔などに当たらないようにしてください。**



- **一本のベルトを二人以上で使用しないでください。**



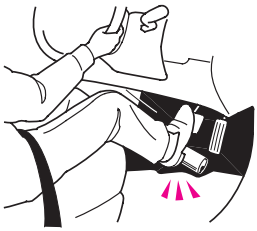
燃料の入った容器やスプレー缶などはのせないで。

引火、爆発のおそれがあります。

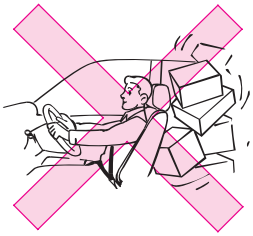


運転のさまたげになるものには注意を。

- **走行中動きやすい物を床にそのまま置かないでください。**
- **フロアマットが、ペダルに引っかからないように注意してください。**
  ブレーキやアクセルのペダル操作が、確実にできないおそれがあります。

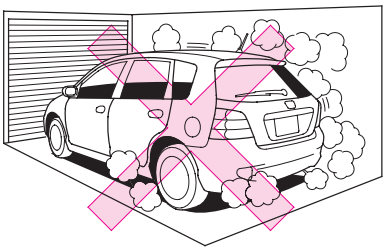


- **手荷物はシートの高さを越えないようにしましょう。**
  後方視界をさまたげたり、急ブレーキのときなどに荷物がとび出すおそれがあります。



排気ガスには十分に気をつけて。

- **排気ガスには無色・無臭で有害な一酸化炭素が含まれているため、吸い込むと一酸化炭素中毒のおそれがあります。**
- **車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。**
  車内や屋内などに排気ガスが充満し一酸化炭素中毒のおそれがあります。



- **排気管に穴や亀裂があったり、排気音の異常に気づいたらホンダプリモ店で点検を受けてください。**
  車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

2 お子さまに思いやりを

お子さまは、うしろの席に。

●助手席にのせるのは避けましょう。

・不意の動作が気になったり、スイッチ・レバー類のいたずらなど運転のさまたげになるおそれがあります。また、事故が起きた場合、後席のほうが安全といわれています。

・インストルメントパネルに手をついたり、顔や胸を近づけた状態での乗車は、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

・サイドエアバッグ装備車では、フロントドアに寄りかかった状態での乗車は、サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受けるおそれがあり危険です。

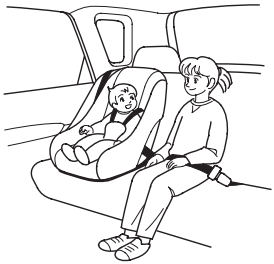
・お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。

●チャイルドプルーフをお使いください。**＜39ページ参照＞**

お子さまにもシートベルトを。

●お子さまにも必ずシートベルトを着用させるか、チャイルドシート※をお使いください。

お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず危険です。



※：乳児用シート、幼児用シート、学童用シートをまとめた総称として「チャイルドシート」と呼んでいます。

●**お子さまのくびやあごにシートベルトがあたる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。**

・シートベルトをそのまま使うと衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。

・チャイルドシートは安全装備です。国土交通大臣が型式を指定または認定したマークが付いているもの、もしくはアメリカやヨーロッパなどの安全基準に合格しているものを必ず選んでください。

・シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。

・この車には、ISO FIXテザータイプのチャイルドシートを固定するための専用バーとテザーアンカー（アンカープレートアタッチメント取り付けナット）が装備されています。
この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。

ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→76ページ

・Honda純正品をご用意しています。ご購入、ご使用に際してはホンダプリモ店にご相談ください。

《選択の目安》
詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIXタイプを除く

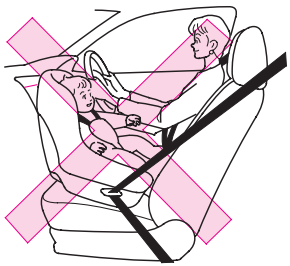
	体重（kg）	参考身長（cm）	参考年令
乳児用（ベビー）シート	～10	～75	～12か月
幼児用（チャイルド）シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用（ジュニア）シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIXテザータイプ

	体重（kg）	参考身長（cm）	参考年令
乳児用（ベビー）シート	～9	～70	～9か月
幼児用（チャイルド）シート	9～18	70～100	9か月～4才

●**チャイルドシートは確実に取り付けてください。**
お子さまを乗せるときは、チャイルドシートが車に確実に取り付けられていることを確認してください。
また、お子さまの体をチャイルドシートにきちんと固定してください。
・ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シートベルトの種類やチャイルドシートの種類と取り付けの向きによっては、固定金具(ロッキングクリップ)が必要になることがあります。
シートベルトの種類　→66ページ
チャイルドシート固定機構付きシートベルト　→74ページ
・ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、専用バーとテザーアンカー(アンカープレートアタッチメント取り付けナット)を用いて固定します。チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
チャイルドシートは、シートベルトで固定する必要はありません。
車両側のテザーアンカーにこの車用のアンカープレートアタッチメント(テザーストラップ取付金具)を取り付け、テザーストラップをアンカープレートアタッチメントに結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。
アンカープレートアタッチメントは、ホンダプリモ店で取り付けてください。
ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→76ページ
・詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

●**助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。**
・SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け危険です。
・やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



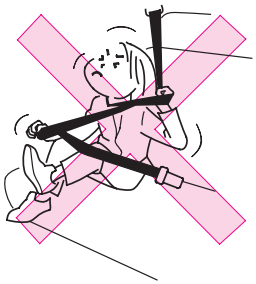
●**チャイルドシートを取り外したまま車内に放置しないでください。**
ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
お子さまを乗せないときでも確実に取り付けるか、家などに保管してください。

ドア、ウィンドー、サンルーフ、シートの操作は必ず大人が。

- **手、足、くびなどをはさまないよう、気をつけてください。**
- **パワーウィンドーのメインスイッチは、“OFF”にしておきましょう。**
  <46ページ参照>
- **走行中、一時停止のときなど、窓やサンルーフから手や頭、物などを出さないよう、注意してください。**
  思わぬ障害物で事故のおそれがあります。

お子さまをシートベルトで遊ばせないで。

- **チャイルドシート固定機構付きシートベルトでは、ベルトをすべて引き出すと完全にベルトを戻すまでは引き出し方向には動きません。**
  ベルトを身体に巻きつけたりして遊んでいると、固定機構が作動してベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。



車から離れるときは、お子さまも一緒に連れて。

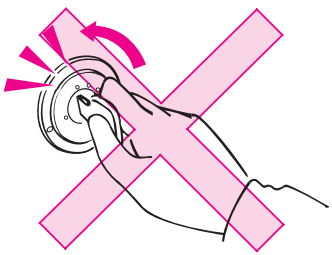
- **お子さまだけを車内に残さないでください。**
  - 炎天下の車内は、高温になり危険です。
  - お子さまのいたずらにより車の発進、火災などの思わぬ事故につながるおそれがあります。



3 正しい知識で最適運転

●**走行中ハンドルの中に手を入れて、スイッチを操作しないでください。**
ハンドル操作のさまたげになり大変危険です。

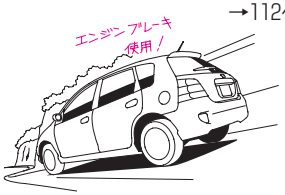
●**走行中はエンジンを止めないでください。**
・ブレーキ倍力装置が作用しないため、ブレーキのききが悪くなります。
・パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなり、ハンドル操作が重くなります。



長い下り坂ではエンジンブレーキを。

●**ブレーキペダルを踏み続けて走行するとブレーキが過熱して、ききが悪くなることがあります。**

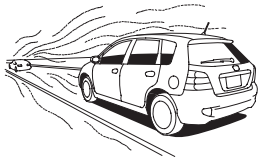
●**長い下り坂では、走行速度に合わせ、エンジンブレーキを併用してください。**
オートマチック車は[D₃]または[2]を使ってください。マルチマチック車は[S]または[L]を使ってください。
XSタイプで7速マニュアルシフトモードのときには、走行速度に合わせて、変速段を一段ずつ落としてください。
7速マニュアルシフトモード
→112ページ



エンジンブレーキ：
走行中アクセルペダルを戻したときにかかるブレーキ力のことで、低速ギヤほどよくききます。

霧が出たときは。

●**霧が出たときは、視界が悪くなります。昼間でもヘッドライトを下向きで点灯し、中央線、ガードレールや前の車の尾灯などをめやすにして、速度を落として運転してください。**



横風の強い日は。

●**横風を受け、車が横に流されるようなときは、ハンドルをしっかり握り、スピードを徐々に下げて進路を立て直してください。**
トンネルの出口、橋・土手の上、山を削った切り通し、大型トラックを追い越したり、追い越されたりするときなどには、特に横風の影響を受けやすいので十分注意してください。



雨天時の走行には注意を。

●**雨天時やぬれた道路では、路面が滑りやすくなっておりタイヤのグリップ力が低下するため、通常より注意深い運転が必要です。**
急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、スピードを落として安全運転に心がけてください。

●**わだちなどの水のたまりやすい場所では、ハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。**
ハイドロプレーニング現象とは
→264ページ

●**冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。**
エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

水たまりに入ったあとはブレーキのきき具合を確認。

●**水たまり走行後や洗車後は、低速で走行しながらブレーキペダルを軽く踏んできき具合を確認してください。**
ぬれたブレーキはききが悪かったり、ぬれていない片側だけがきいてハンドルをとられることがあります。

●**ブレーキのききが悪いときは、前後の車に十分注意しながら低速で走行し、ブレーキのききが回復するまで、繰り返しブレーキペダルを踏んでください。**

走行中異常があったら。

●**警告灯が点灯したら、ただちに安全な場所に停車し処置をしてください。**
＜88ページ参照＞
点灯したまま走行を続けると、思わぬ事故のもとになったり、エンジンなどを損傷するおそれがあります。

●**走行中にタイヤがパンクやバースト（破裂）してもあわてずに、ハンドルをしっかり握り、徐々にブレーキをかけてスピードを落とし、安全な場所に停車してください。**
急ブレーキや急ハンドルは車のコントロールを失うことがあり危険です。

●**床下に強い衝撃を受けたときは、ただちに車を止めて、ブレーキ液や燃料の漏れ、各部に損傷がないかを確認してください。**
ブレーキ液や燃料の漏れ、損傷などにより思わぬ事故につながるおそれがあります。

4 オートマチック車の注意ポイント

オートマチック車は、その特性や操作上の注意をよく理解することが大切です。
「オートマチック車の運転のしかた」もあわせてお読みください。
＜118ページ参照＞

オートマチックについて

CIVICのオートマチックには、タイプにより下記の種類があります。

タイプ	種　類
X、XS	ホンダマルチマチック
X4	4速オートマチック

ホンダマルチマチックは、2つの可変プーリーに金属ベルトを組み合わせ、低速から高速まで無段階に変速するオートマチックトランスミッションです。

オートマチック車の特性を正しく理解。

クリープ現象とは

- エンジンがかかっているとき、セレクトレバーがPN以外に入っていると、動力がつながった状態になり、アクセルペダルを踏まなくても車がゆっくりと動き出します。
  これをクリープ現象といいます。
- ホンダマルチマチック車は、燃費向上や停車時の振動およびブレーキ踏力の低減のため、ブレーキペダルを踏んでいるときのクリープ力を弱く設定しています。また、後退時のクリープ力も弱く設定していますのでアクセルペダル操作は慎重に行ってください。

キックダウンとは

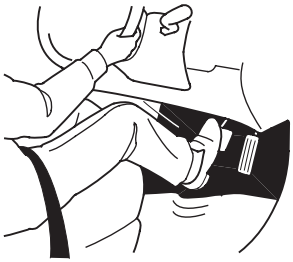
- DまたはD3（ホンダマルチマチック車はDまたはS）で走行中にアクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、自動的に変速比が変わり、エンジンの回転数が上がって、力強い加速を得ることができます。
  これをキックダウンといいます。

1 ブレーキは右足で。

- **ブレーキペダルは右足で踏む習慣をつけましょう。**
  不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。

2 エンジンをかけるまえに。

- **ペダルの踏みまちがいのないよう、右足でペダルの位置を確認しておきましょう。**



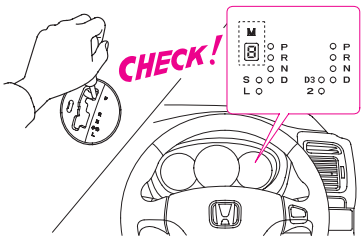
3 エンジンをかけるとき。

- **安全のため、セレクトレバーは駆動輪が固定されるPでエンジンをかけましょう。**



4 スタートするとき。

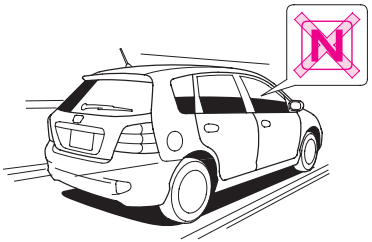
- **思いちがいを防ぐため、セレクトレバーの位置を目で確認しましょう。**
- **発進時のセレクトレバーの操作は、右足でブレーキペダルをしっかり踏み、車が動かないようにして行いましょう。**
- **アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。**
  急発進して思わぬ事故のもとになります。



- **エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。**
  エアコン作動時も同じです。
- **坂道での発進は車が後退しないように必ずパーキングブレーキを併用し、先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキを解除してください。**

5 走行しているとき。

●**走行中は、セレクトレバーをⓃにしないでください。**
エンジンブレーキが全くきかず、思わぬ事故のもとになります。



●**上り坂で、速度を保とうとしてアクセルペダルを踏み込んだとき、キックダウンにより、急にエンジン回転が上がり、思ったより速度が出てしまうことがあります。**
アクセルペダルは、慎重に操作してください。
また、すべりやすい路面やカーブでは、急激なアクセルペダル操作は避けてください。

●**下り坂では、エンジンブレーキも使いましょう。**
フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱して、ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。

エンジンブレーキ　→18ページ

6 停車しているとき。

●**車が動かないようにブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけましょう。**

●**停車中の空ぶかしは、やめましょう。**
万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外のとき、思わぬ急発進のもとになります。

7 駐車するとき。

●**駐車するときは、パーキングブレーキをかけてセレクトレバーをⓅに入れ、エンジンを止めましょう。**
万一、セレクトレバーがⓅⓃ以外に入っていると、クリープ現象で車が動き出したり、乗り込むときに、誤ってアクセルペダルを踏み込んで急発進したりするおそれがあります。



ほかに気をつけたいこと。

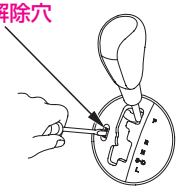
- **セレクトレバーは正しい位置で使用してください。**
  坂道などで、前進(D、S、Lまたは D、D3、2)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(R)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。
- **後退したあとは、すぐRからNにもどす習慣をつけましょう。**
  ちょっと後退したときなど、Rに入れたことを忘れてしまうことがあります。
- **前進から後退、後退から前進するときは車を完全に止め、ブレーキペダルを踏んだままセレクトレバーを操作してください。**
  車が完全に止まらないうちにレバーを操作すると、トランスミッション破損のおそれがあります。
- **車が完全に止まらないうちに、Pに入れないでください。**
  急停止して危険であるばかりでなく、トランスミッション破損のもとになります。

シフトロック装置の正しい理解を。

- **ブレーキペダルを踏んでいないと、Pからのセレクトレバー操作はできません。**
  - エンジンスイッチが、“I”または“0”のときには、ブレーキペダルを踏んでも、レバーは操作できません。
  - セレクトレバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- **P以外では、エンジンスイッチからキーは抜けません。**
  P以外では、キーが“I”から“0”に回りません。
- **Rに入れるとチャイムが鳴ります。**
  - セレクトレバーがRのときにチャイムが鳴り、Rに入っていることを運転者に知らせます。
  - 車外の人には音が聞こえませんので、ご注意ください。
- **万一、PやNからセレクトレバーが操作できないときは：**
  - カバーを外し、

    →121ページ
  - ドライバーなどをシフトロック解除穴に差し込み、
  - ドライバーなどを押しながら、セレクトレバーを操作します。

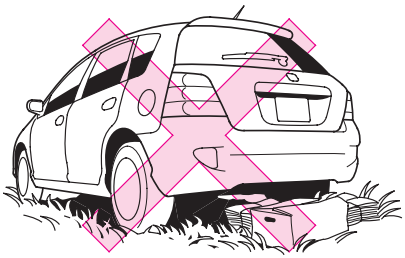
シフトロック解除穴



5 駐車や停車はしっかりと

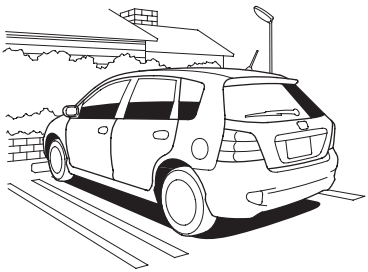
可燃物には注意を。

●**枯草や紙、油、木材など燃えやすいものがあるところには、駐停車しないでください。**
排気管や排気ガスの熱により、着火するおそれがあります。



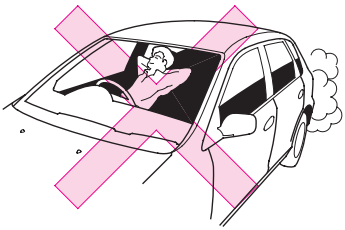
植込みなどにも注意して。

●**植込みなどの近くに駐停車するときには、排気ガスが当たらないように、車の向きを決めましょう。**



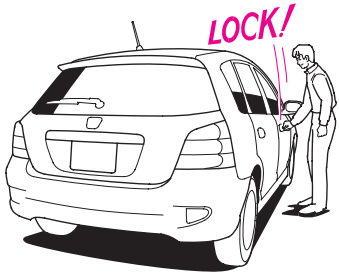
仮眠するときはエンジンを止める。

●**エンジンを必ず止めてください。**
無意識にセレクトレバーを動かしたり、アクセルペダルを踏み込んだりして、思わぬ事故を起こすおそれがあります。
また、無意識にアクセルペダルを踏み続けたりした場合、オーバーヒートなどを起こしたり、エンジンや排気管などの異常過熱による火災事故が発生するおそれがあります。
さらに風向や周囲の状況等によっては、車内に排気ガスが侵入し一酸化炭素中毒のおそれもあります。



車から離れるときには施錠を。

●**必ずパーキングブレーキをかけ、エンジンを止め、ドアを施錠してください。**
●**車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。**
●**お子さまも連れていきましょう。**



車の移動はエンジンをかけて。

●**車を移動するときは、必ずエンジンをかけてください。**
下り坂を利用しての移動などは、思わぬ事故を招くことがあります。

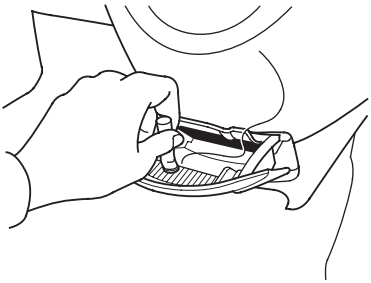
坂道での駐車は。

●**パーキングブレーキをかけ、セレクトレバーを[P]に入れてください。**
さらに、タイヤに輪止めをすると効果があります。

6 こんなことにも注意をしよう

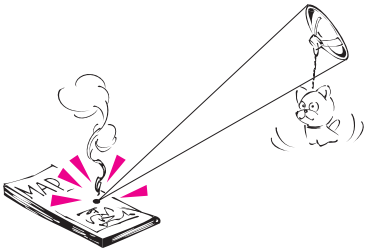
タバコの吸いがらは火を消して。

- **タバコ、マッチなどは、確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。**
- **灰皿の中に吸いがらをため過ぎたり、燃えやすいものを入れたりしないでください。**



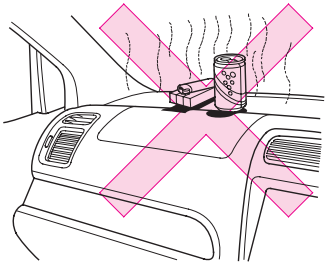
アクセサリーの取り付けには注意を。

- **ガラス面にアクセサリーなどを取り付けないでください。**
  視界をさまたげたり、吸盤がレンズのはたらきをして火災を起こしたり、思わぬ事故のもとになります。



車内にライターや炭酸飲料缶などを放置しないで。

炎天下での駐車などで車内温度が上昇すると、ライターなどの可燃物は自然発火したり、缶などは破裂したりするおそれがあります。



ラジエーターキャップに気をつけて。

●**ラジエーターキャップが熱いときは、外さないでください。**
蒸気や熱湯が吹き出し危険です。



動物を乗せるときは、動きまわらないように注意して。

運転のさまたげになったり、急ブレーキのときなどに思わぬ事故につながるおそれがあります。

携帯電話の使用は停車中に。

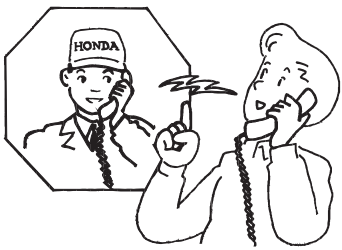
●**運転者は、携帯電話を走行中に使用しないでください。**
運転中の使用により周囲の状況に対する注意が不十分になると、思わぬ事故につながるおそれがあります。

改造はしない。

●**Honda純正部品以外の、車の性能や機能に適さない部品を、使用しないでください。**
・適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・Hondaが国土交通省に届け出をした部品以外のものを装着すると、違反になることがあります。

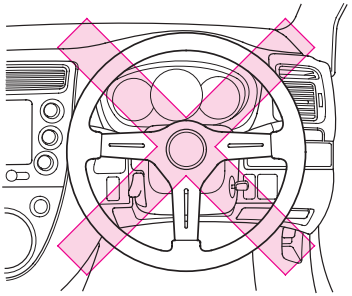
●**ホイールは、CIVIC専用品をご使用ください。**
専用品以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすことがあります。
ホンダプリモ店にご相談ください。

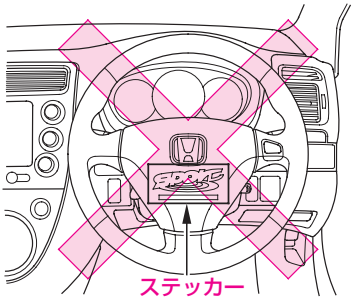
●**無線装置や自動車電話などの取り付けの際には、必ずホンダプリモ店にご相談ください。**
装置や取り付け方法が適切でない場合、電子機器部品に悪影響をおよぼすことがあります。

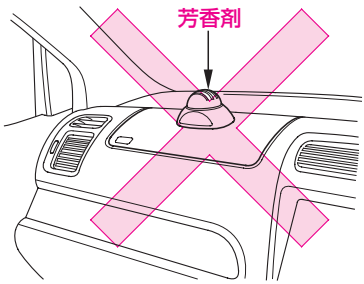


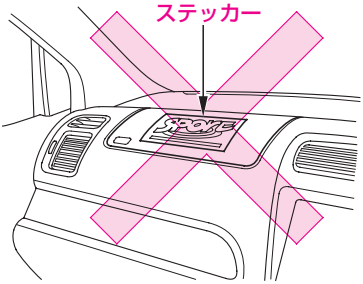
●**運転席および助手席に、SRSエアバッグシステムが装備されています。ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりしないでください。**
インストルメントパネル上面には、ステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
また、フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。

・SRSエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあり危険です。
・次の場合は、必ず、ホンダプリモ店にご相談ください。
①ハンドルまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④ダッシュボード周辺の板金塗装および修理
⑤インストルメントパネルまわりの修理



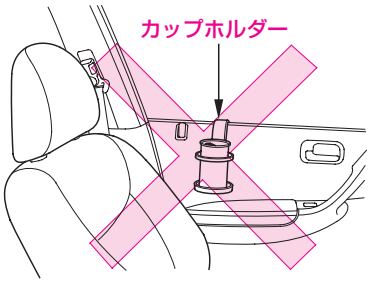


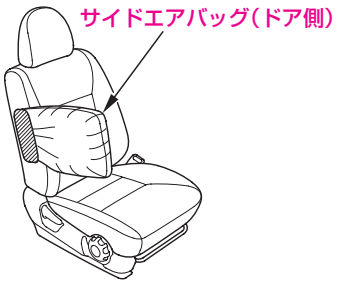




●**運転席および助手席用サイドエアバッグシステム装備車は、フロントドアやその周辺にカップホルダーなどの用品を取り付けたりしないでください。**
フロントシートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
フロントシートにシートカバーを取り付けないでください。
また、新車時についているビニールのシートカバーは、必ず外してください。

・サイドエアバッグが正常に機能しなくなります。
・作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。
・次の場合は、必ず、ホンダプリモ店にご相談ください。
①フロントシートまわりの修理
②センターコンソール付近の修理
③カーステレオ等用品の取り付け
④センターピラーまわりの修理

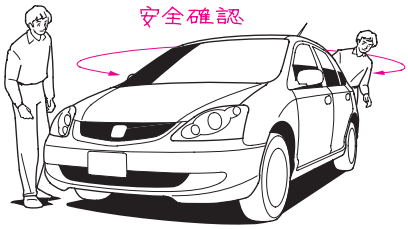




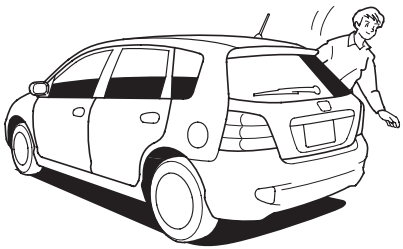
発進するときは、まわりの状況に十分注意して。

車のまわりには運転席から見えないところ(死角)があります。発進するときは子供や障害物など車のまわりの状況に十分注意してください。

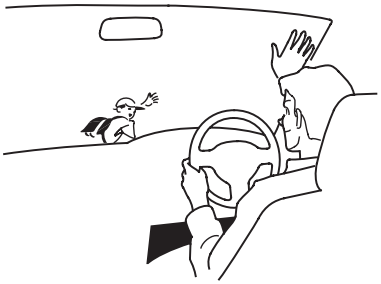
●駐車後に発進するときは、車のまわりの安全確認を十分に行ってください。



●後退するときに十分な視界が得られない場合は、車から降りて後方を確認してください。
バックミラーでは確認しきれない死角(車の直後など)があります。



●信号待ちなどの停車後に発進するときは、つねにまわりの状況に目を配り、安全確認を十分に行ってください。



1

車を運転する前に

●各部の開閉
キー……32
ドアの施錠・解錠……36
ボンネット……40
テールゲート……42
燃料補給口……44
パワーウィンドー……46
サンルーフ……48

●シートの調節
正しい運転姿勢……50
フロントシート……52
リヤシート……54
カーゴスペースの作りかた……56

●ハンドル・バックミラーの調節
チルトステアリング……60
ルームミラー……61
ドアミラー……62

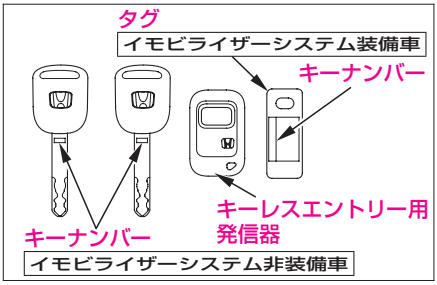
●シートベルト
シートベルト……64
着用のしかた……70

●チャイルドシート固定装置
チャイルドシート固定機構付き
シートベルト……74
ISO FIXテザータイプ
チャイルドシート固定装置…76

各部の開閉

キー

キーは、エンジンの始動、停止のほかに、ドア、テールゲートの施錠・解錠に使えます。



キーレスエントリー用発信器はドアとテールゲートの施錠・解錠がキーを使わずにできます。

キーレスエントリー　→38ページ
キーレステールゲートオープナー
→42ページ

知 識

- **イモビライザーシステム装備車**
  キーには信号を発信するための精密な電子部品が組み込まれています。
  電子部品の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - 直射日光が当たるところやインストルメントパネルの上など、高温、多湿になるところに置かないでください。
  - 衝撃を与えないでください。
  - 水にぬらさないでください。
  - 分解しないでください。
  - 火であぶったりしないでください。

  電子部品が故障すると、イモビライザーシステムがキーの信号を正しく受信できないためエンジンの始動ができなくなります。
  エンジンが始動できないときは、ホンダプリモ店にご連絡ください。
- **イモビライザーシステム装備車**
  タグにはキーナンバーが表示してあります。紛失しないように、キーとは別に車両以外の場所に大切に保管してください。キーを紛失したときは、キーナンバーをホンダプリモ店へご連絡ください。
  キーを紛失したときは、盗難などを防ぐため、ホンダプリモ店にご相談ください。

知 識

● **イモビライザーシステム装備車**
キーを追加するときは、ホンダプリモ店にご相談ください。
イモビライザーキーは6本まで登録できます。
キーレスエントリー用発信器を紛失したときは、ホンダプリモ店へご連絡ください。

● **イモビライザーシステム非装備車**
キーナンバーを控えておいてください。キーを紛失したときは、キーナンバーをホンダプリモ店へご連絡いただければ、購入することができます。
キーレスエントリー用発信器を紛失したときは、ホンダプリモ店へご連絡ください。

●イモビライザーシステム

イモビライザーシステム装備車

イモビライザーシステムはお車を盗難から守るための装置です。
キーに信号を発信する電子部品があり、あらかじめ登録されたキーでないとエンジンの始動ができないようにしたシステムです。

▼

エンジンを始動するときは、登録されたキーをエンジンスイッチに差し込んでください。エンジンスイッチを“II”にすると、イモビライザーシステム表示灯が数秒間点灯してから消灯し、エンジンの始動ができるようになります。

表示灯が点滅したときは、システムが登録されたキーの信号を認識していないので、エンジンを始動することはできません。
そのときは、エンジンスイッチを“0”へ回しキーを抜いてから、もう一度エンジンスイッチに差し込み“II”にしてください。

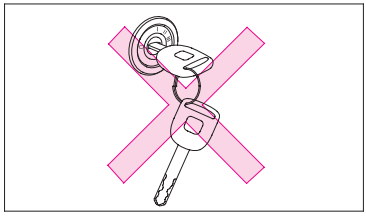
エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”へ回したときにも、イモビライザーシステム表示灯が数回点滅します。
イモビライザーシステム表示灯
→87ページ

アドバイス

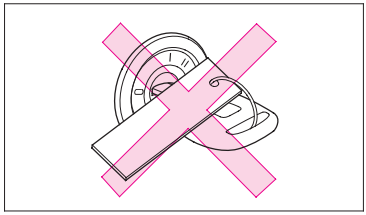
- システムを改造したりしないでください。
  エンジンシステムが故障するおそれがあります。
- エンジンスイッチを“II”にしても表示灯が点灯しないときは、システムの異常が考えられますので、ホンダプリモ店で点検を受けてください。

知 識

- エンジンスイッチとキーの部分に、別のイモビライザーシステム用のキーや金属物を近づけたり接触させたりすると、登録されたキーの信号をシステムが認識できなくなりエンジンの始動ができないことがあります。
  - 他のイモビライザーシステム用のキーを取り付けないでください。



  - 金属製のキーホルダーを使わないでください。





ドアの施錠・解錠

⚠注意

- ドアは確実に閉めてください。半ドアでは、走行中にドアが開き思わぬ事故の原因になるおそれがあります。

知 識

- ドアは不用意に開けると後続車などがぶつかることがあるので周囲の安全を確かめてから開けてください。
- 強風時にドアを開閉するときは、風にあおられないよう注意してください。
- 車から離れるときは、エンジンを止めドアを必ず施錠してください。また、車内の見えるところに、貴重品などを置かないようにしましょう。
- 運転席ドアの解錠・施錠に連動して、室内灯が点灯・消灯します。

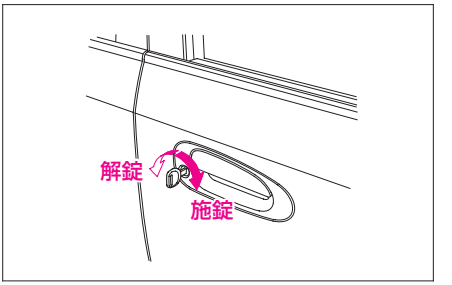
室内灯　→186ページ

パワードアロック

運転席ドアを施錠(解錠)すると、他のすべてのドアとテールゲートも同時に施錠(解錠)します。

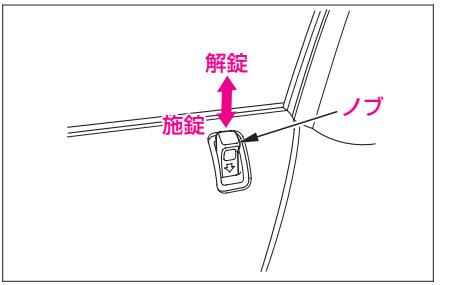
●車外から行う場合

キーを確実に差し込んで回します。



●車内から行う場合

ノブを矢印の方向に動かします。



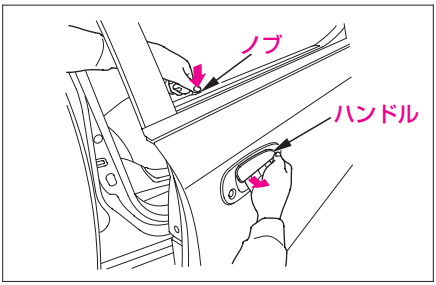
●キーを使わないで施錠する場合

知　識

●キー閉じ込み防止のため、キーを持っていることを確認してから施錠しましょう。

運転席ドア

①ドアのハンドルを引いたままノブを施錠の方向に動かします。



②ドアを閉めます。

その他のドア

ノブを施錠の方向に動かしてドアを閉めます。

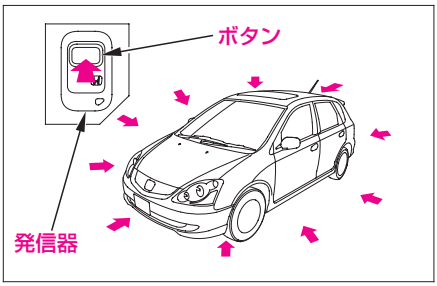
●キーレスエントリー

ドアとテールゲートの施錠・解錠がキーを使わずにできます。

▼

発信器のボタンを押すとすべてのドアとテールゲートが施錠(解錠)され、もう一度押すと解錠(施錠)されます。

キーレスエントリーで施錠・解錠を行うと非常点滅表示灯が施錠時は1回、解錠時は2回点滅します。



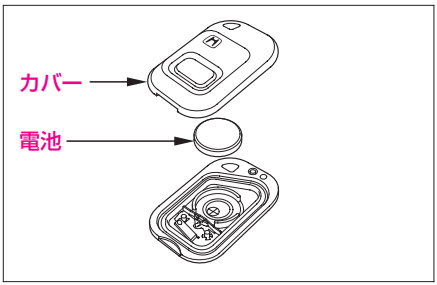
知 識

- 発信器には、精密な電子部品が組み込まれています。発信器の故障を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・直射日光が当たるところやインストルメントパネルの上など、高温になるところに置かないでください。
  - ・衝撃を与えないでください。
  - ・水にぬらさないでください。
- 微弱電波を使用しているため、周囲の状況により作動範囲が変化することがあります。
- キーレスエントリー用発信器で解錠してから約30秒以内にドア、テールゲートを開けなかった場合は、自動的に再度施錠されます。
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときやドア、テールゲートが開いているときは、キーレスエントリーは作動しません。
- 車を離れるときは、ドアハンドルを引いて施錠されていることを確認してください。

発信器のボタンを押しても作動距離が不安定になった場合は、電池の消耗が考えられますので早めに電池を交換してください。

使用電池・・・・・・・・・ボタン電池CR1616

カバーに傷を付けないようにコイン等に布を巻いてカバーを外し、電池を交換します。



知　識

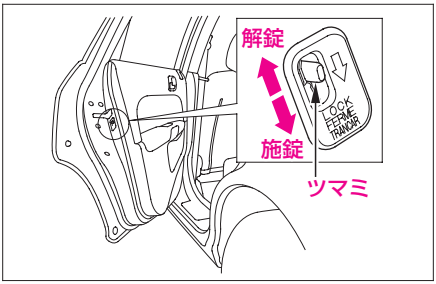
- 液漏れなどを防ぐため、電池の⊕極と⊖極は正しく取り付けてください。
- 電池はHonda販売店または時計店、カメラ店などでお求めください。

●チャイルドプルーフ

ノブの位置に関係なく、後席ドアが車内から開かなくなります。お子さまを乗せるときなどにお使いください。

▼

ツマミを施錠の位置にしてドアを閉めます。



ドアを開く場合は、外側のドアハンドルで開けます。

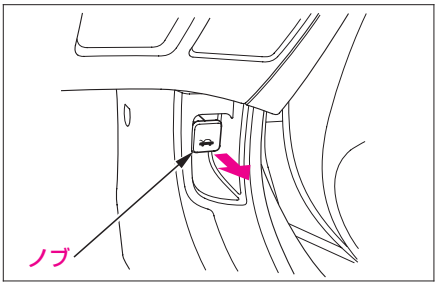
知　識

- 車内から開けたい場合は、ノブを解錠状態にして後席ウィンドーを下げ窓から手を出して外側のドアハンドルを引いてください。

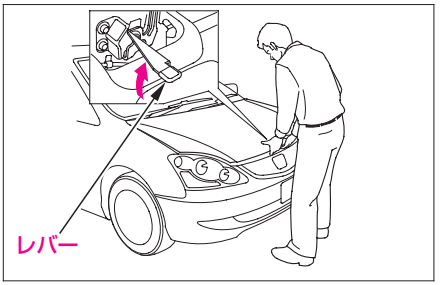
ボンネット

●開けかた

①運転席足元のノブを引きます。



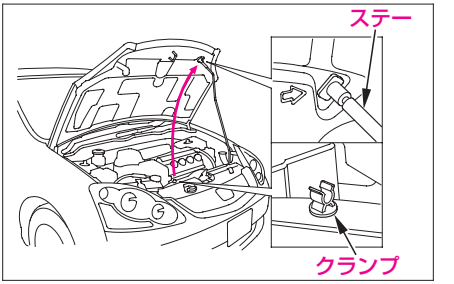
②ボンネット前部が少し浮き上がるので、レバーを上へ押しながら開けます。



知 識

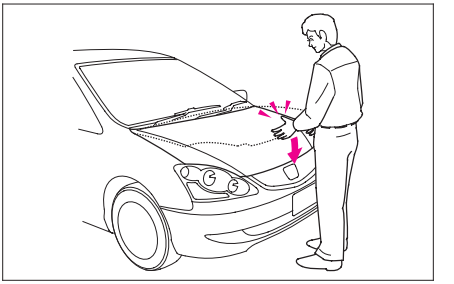
- ワイパーアームを起こした状態でボンネットを開けないでください。ボンネットがワイパーに当たり、ボンネットやワイパーが損傷します。

③必ずステーを確実にかけ、固定します。



●閉めかた

ステーを外し、クランプに納めます。
ボンネットを静かに下げ、手を離します。



ボンネットが完全に閉まっていることを確認します。

⚠注意

- ボンネットを閉めるときは、手などをはさまないように注意してください。

知 識

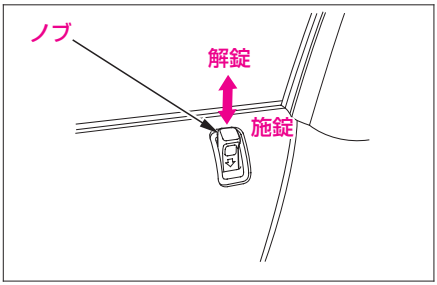
- ボンネットを開けているときに、風にあおられてステーが外れることがあります。特に風の強いときは、ご注意ください。
- ボンネットが完全に閉まっていないままで走行すると開くことがあります。走行前に必ず確認してください。

テールゲート

●施錠・解錠

車内から行う場合

運転席ドア部のノブを操作すればすべてのドアとテールゲートの施錠(解錠)ができます。

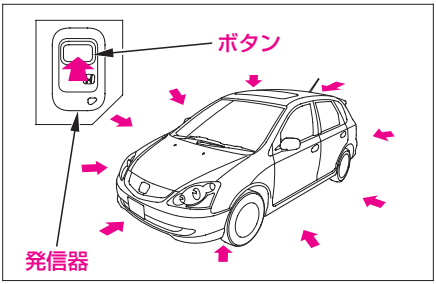


キーレステールゲートオープナー

キーレスエントリー用発信器を使ってテールゲートの施錠・解錠ができます。

▼

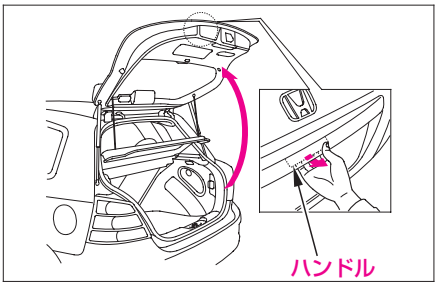
発信器のボタンを押すとすべてのドアとテールゲートが施錠(解錠)され、もう一度押すと解錠(施錠)されます。



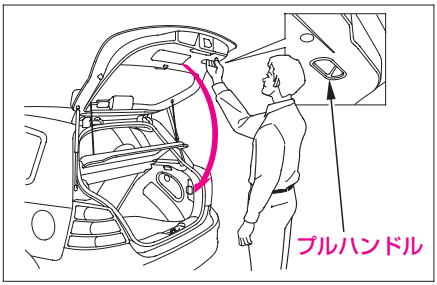
キーレスエントリー　→38ページ

●開閉

テールゲートを解錠してから、ハンドルを引き静かに引き上げて開けます。



閉めるときはプルハンドルを利用してください。

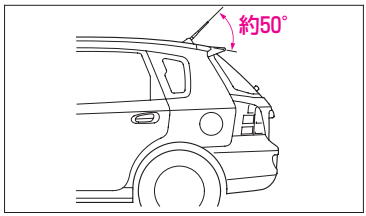


⚠注意

- テールゲートを閉めるときは頭をぶつけたり、手などをはさまないように注意してください。
- エンジンをかけた状態で手荷物を出し入れするときは、排気管の後方に立たないでください。
  やけどなど思わぬけがをすることがあります。
- カーゴスペース内には人を乗せないでください。
  ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

知 識

- テールゲートを開けるときは、センターアンテナを後方約50°より後ろに倒さないでください。
  アンテナがテールゲートに当たり破損するおそれがあります。



- テールゲートを開けたまま走行しないでください。車内に排気ガスが侵入するおそれがあります。

燃料補給口

燃料補給口は車の左側後方にあります。

指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
（無鉛ハイオクも使用可能）

タンク容量：
二輪駆動車（2WD車）・・・・・・・・・・・50ℓ
四輪駆動車（4WD車）・・・・・・・・・・・45ℓ

⚠警告

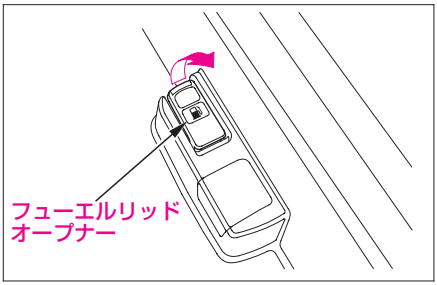
- 燃料補給時は火気厳禁です。
  燃料は引火しやすいため火災や爆発のおそれがあります。
  - エンジンは必ず止めてください。
  - タバコなどの火気を近づけないでください。
- 燃料補給作業は静電気を除去してから行ってください。
  静電気の放電による火花により気化したガソリンに引火し、やけどを負うおそれがあります。

アドバイス

- 必ず無鉛ガソリンを補給してください。補給するときは、無鉛ガソリンであることを確認してください。
  - 有鉛ガソリンを補給すると、触媒装置などを損ないます。
  - 高濃度アルコール含有燃料を補給すると、エンジンや燃料系などを損傷する原因となります。
  - 軽油や粗悪ガソリンを補給したり、不適切な燃料添加剤を使うと、エンジンなどに悪影響を与えます。

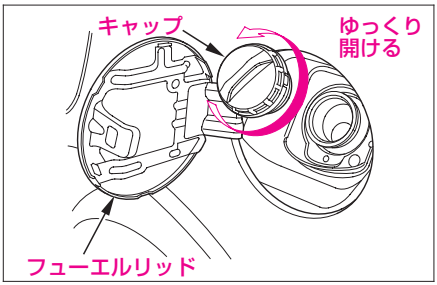
●開けかた

①運転席右下にあるフューエルリッドオープナーを引き上げてリッドを開けます。



②フューエルキャップを開ける前に、身体の静電気除去を行います。

③キャップをゆっくり回して開けます。



⚠注意

- キャップはゆっくり開けてください。
  急激に開けると燃料補給口より吹き返しが発生し、火災になるおそれがあります。

知 識

- 車体や給油機などの金属部分に触れると、静電気を放電することができます。
- 燃料補給作業は、静電気を放電した人のみで行ってください。
- 燃料補給中に車内にもどったりすると再び帯電することがあります。
- 燃料補給は自動停止後に追加補給しないでください。気温などの変化によりあふれることがあります。

●閉めかた

キャップを“カチッ”という音が2回以上するまで締め付けます。フューエルリッドは手で押さえつければ閉まります。

⚠注意

- キャップが確実に閉まっていることを確認してください。
  確実に閉まっていないと走行中に燃料がもれ、火災になるおそれがあります。

パワーウィンドー

エンジンスイッチが“II”のとき、ウィンドーの開閉ができます。

▼

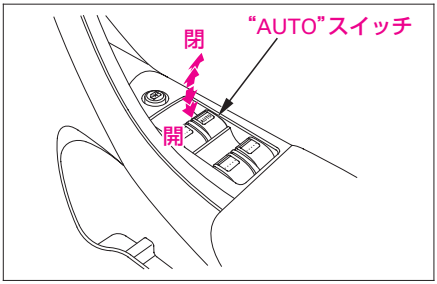
開閉は、それぞれのドアにあるスイッチで操作します。

・運転席スイッチは、助手席および後席ウィンドーも操作できます。

●運転席ウィンドーの開閉

スイッチを軽く操作している間、作動します。
強く操作すると、自動で全開(全閉)します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。



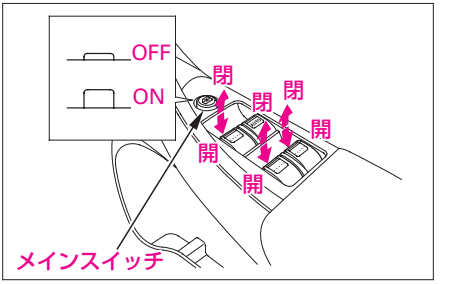
自動開閉中にウィンドーを停止させるときは、スイッチを作動方向とは逆へ軽く操作します。

●運転席以外のウィンドーの開閉

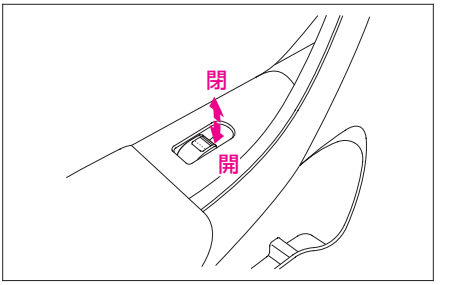
メインスイッチを“ON”にしてから、スイッチを操作します。
メインスイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。
スイッチを操作している間、作動します。

開けるとき･･･スイッチを押します。
閉めるとき･･･スイッチを引き上げます。

・運転席ドアスイッチ



・その他のドアスイッチ



運転席以外のウィンドーを動かなくしたいとき(メインスイッチ)

メインスイッチを“OFF”にしておけば、運転席以外のウィンドーは作動しません。

⚠警告

●パワーウィンドーを閉めるときは、手やくびなどをはさまないようにしてください。
ドアガラスにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。
特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

●車から離れるときはキーを抜き、お子さまも一緒に連れて行ってください。
いたずらなど誤った操作をして思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

●ウィンドーの開閉はお子さまではなく大人が操作するようにしてください。
●小さなお子さまが同乗しているときは、お子さまが誤って操作しないよう、メインスイッチを“OFF”にしておきましょう。
●後席(左、右)のウィンドーは、全開しません。

●はさみ込み防止機構(運転席のみ)

運転席ウィンドーを自動で閉じているときに、窓枠とドアガラスの間に異物のはさみ込みを検知するとはさみ込み防止機構が作動し、ドアガラスの上昇が停止して自動で下降します。

⚠注意

●ウィンドーを確実に閉めるため、閉めきる直前の部分では、はさみ込みを検知できない領域があります。指などをはさまないように注意してください。

知 識

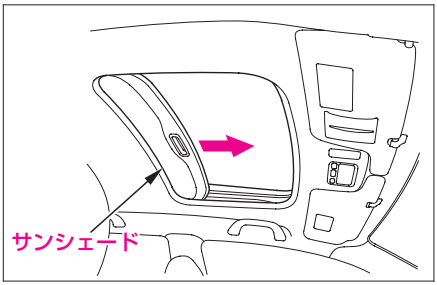
●故障などではさみ込み防止機構が作動してしまい、ウィンドーを自動で閉めることができなくなったときは、スイッチを軽く引き上げ続けると閉めることができます。
●環境や走行条件による衝撃などで、はさみ込み防止機構が作動することがあります。
●バッテリーやヒューズを交換した場合は、オート作動ができなくなります。
その場合は、エンジンを始動しドアガラスを一番下まで下げてから、スイッチを引き上げ続け、ウィンドーを閉め切った状態で、約1秒間スイッチを保持すると機能が復帰します。

サンルーフ

注文装備

●サンシェード(遮光板)

サンシェードは手動で開閉します。
サンルーフを開ける場合は同時に作動します。サンルーフが開いた状態ではサンシェードは全閉できません。



知 識

- サンシェードは全開か全閉の位置で使ってください。途中で止めて使うと、走行中の振動で音が出ることがあります。

●開閉

エンジンスイッチが"II"のときサンルーフの開閉ができます。

▼

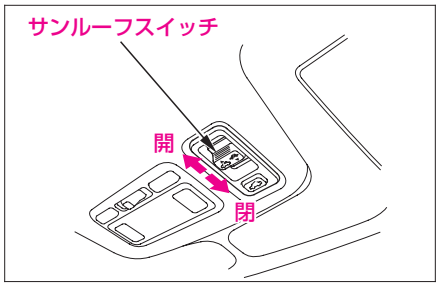
チルトアップ操作

チルトアップスイッチを押すと、サンルーフ後部が上がります(チルトアップ状態)。サンルーフスイッチを前側に押すと閉まります。



開閉操作

サンルーフスイッチを押している間、サンルーフが作動します。



閉じるときにスイッチを押し続けると、途中で自動的に停止します。全閉するときは、一度スイッチから手を離し再度スイッチを押します。

⚠警告

- サンルーフを閉めるときは、手やくびなどをはさまないようにしてください。
  サンルーフにはさまれて重大な傷害を受けるおそれがあります。特にお子さまには気をつけてください。

⚠注意

- 走行中または一時停止時にルーフ開口部から頭や手、物などを出さないでください。
  思わぬ障害物や急ブレーキをかけたときなどに事故につながるおそれがあります。

アドバイス

- サンルーフやルーフ開口部の縁に腰をかけたり荷物を乗せるなどの大きな力を加えないでください。サンルーフが破損するおそれがあります。
- 降雪時、厳寒時などには凍結することがあります。このような場合は故障の原因となるので作動させないでください。
- サンルーフが作動しないとき

→238ページ

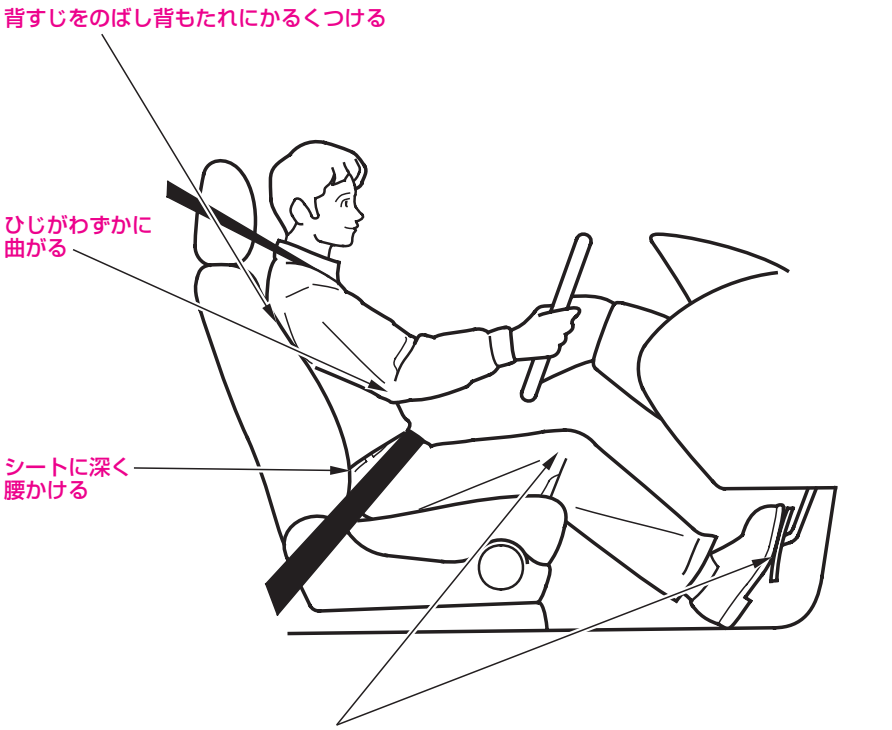
知 識

- 車から離れるときや洗車のときは、サンルーフが完全に閉まっていることを確かめてください。
- 降雨後や洗車後はルーフ上の水を除去してから開けてください。また、積雪時にはルーフ上の雪を除去してから開けてください。室内に水や雪が入るおそれがあります。

シートの調節

正しい運転姿勢

運転者は正しい運転姿勢がとれるようにシートを調節します。
正しい運転姿勢とは、シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる姿勢をいいます。



同乗者も、シートに深く腰かけ、背もたれから背を離さないようにしてください。
助手席同乗者はインストルメントパネルに顔や胸が必要以上に近づかないように、シートを後ろに下げます。

⚠警告

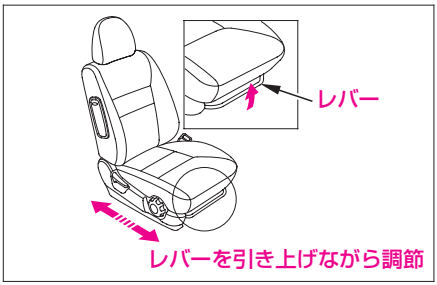
- シートに深く腰かけてください。
  また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- SRSエアバッグに必要以上に近づくと、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。
  - ・運転者は正しい運転姿勢がとれる範囲で、シートを後ろに下げてください。
  - ・助手席同乗者はインストルメントパネルに近づかないように、シートを後ろに下げてください。

⚠注意

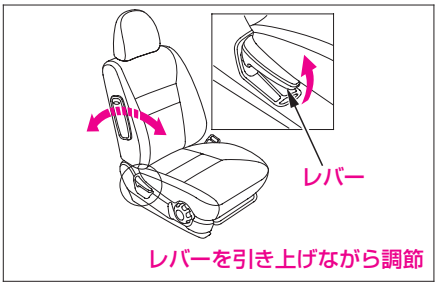
- 走行中に調節するとシートが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。
  調節は走行する前に行い、シートを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
- 背もたれと背中の間にクッションなどをいれないでください。
  正しい運転姿勢がとれないばかりか、シートベルトなどの効果が十分に発揮されないおそれがあります。
- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- フロントシートの下に物を置かないでください。
  物がはさまってシートが固定されず思わぬ事故につながるおそれがあります。

フロントシート

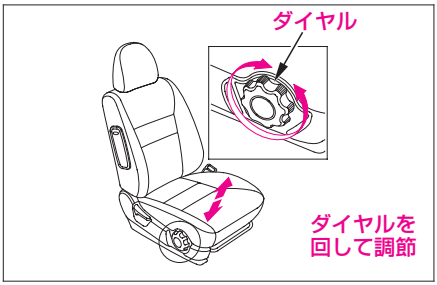
●前後位置の調節



●背もたれの調節



●高さの調節(運転席のみ)

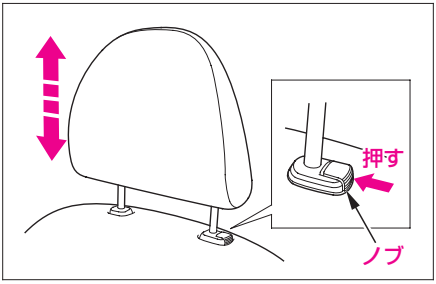


●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。
背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。
低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。

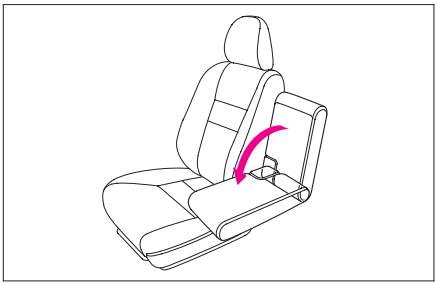


⚠警告

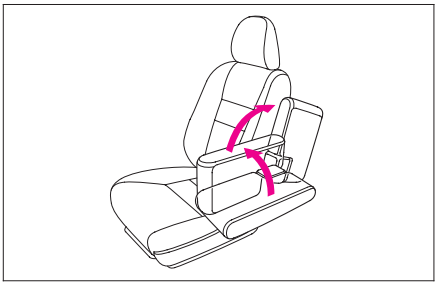
- ヘッドレストを外した状態で走行しないでください。また、固定できる高さを越えて使わないでください。
  衝突のときなどに重大な傷害を受けるおそれがあります。
  走行前に必ず正しい位置に調節してください。

●アームレスト

前に倒して使います。



ウォークスルーをするときは、運転席側へ引き起こします。



⚠注意

●シートベルト着用時にアームレストに引っかけると、万一のときシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
シートベルトは正しく着用してください。

アドバイス

●アームレストに腰をかけたり荷物をのせるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

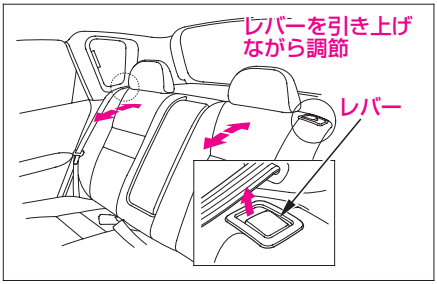
知 識

●センターコンソールボックス装備車はウォークスルーができません。

リヤシート

●背もたれの調節

レバーを引き上げて、背もたれの角度を調節します。



調節は左右別々に行えます。

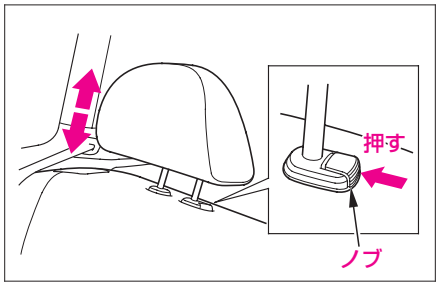
●ヘッドレストの調節

走行する前に耳とヘッドレストの中心が同じ高さになるように調節し、確実に固定します。

背が高い人は、固定できる範囲で一番高い位置にしてお使いください。

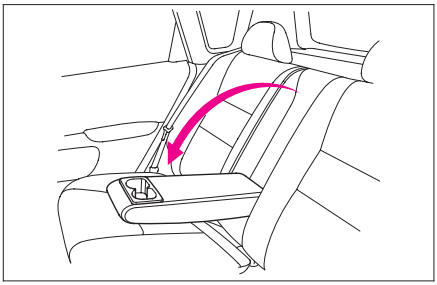
▼

高くするときは、ヘッドレストを持ち上げます。低くするときはノブを押しながらヘッドレストを下げます。



●アームレスト

前に倒して使います。



⚠注意

- シートベルト着用時にアームレストに引っかけると、万一のときシートベルトの機能が発揮できないことがあります。
  シートベルトは正しく着用してください。

アドバイス

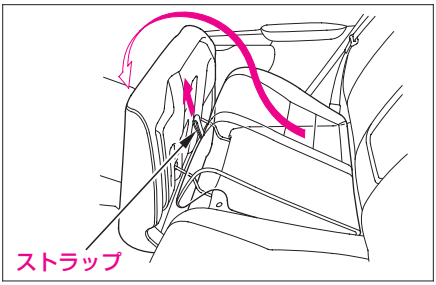
- アームレストに腰をかけたり荷物をのせるなどの大きな力を加えないでください。アームレストが破損するおそれがあります。

カーゴスペースの作りかた

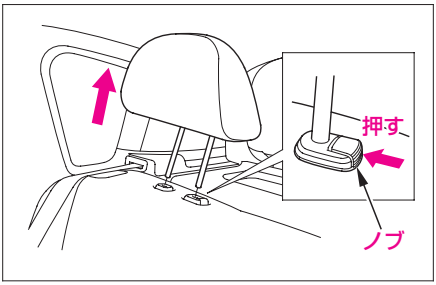
リヤシートを倒して荷室を広くできます。
片側ずつ独立して行えます。

倒すとき

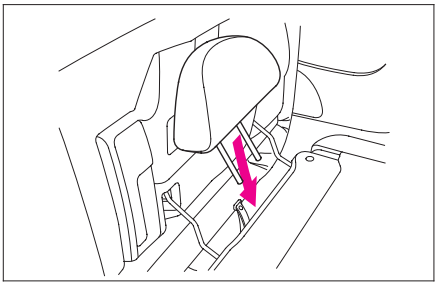
①ストラップを前側上方に引いてシートクッションをスライドさせてから、前側に引き起こします。



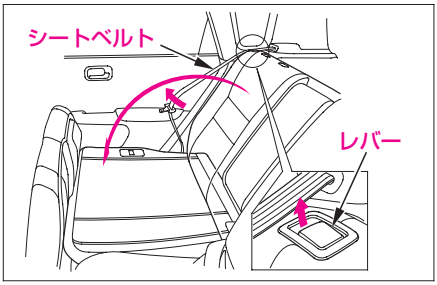
②ノブを押して、リヤシートのヘッドレストを外します。



③外したヘッドレストをシートクッションの後側に収納します。

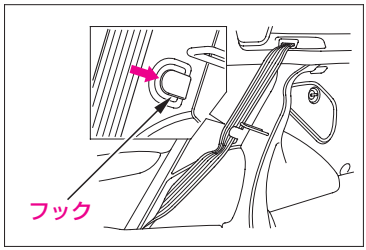


④レバーを引き上げて、シートベルトをよせながら背もたれを倒します。



知 識

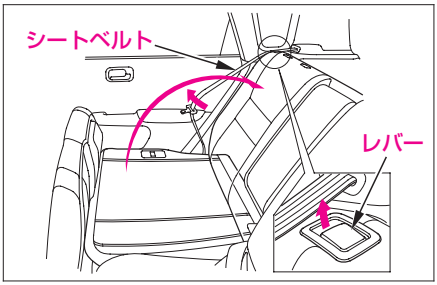
●シートベルトはフックに差し込んでおきます。



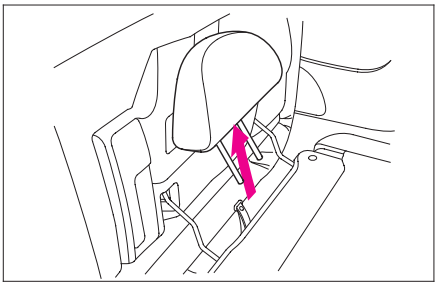
戻すとき

①シートベルトを引き出しながら、背もたれを後ろへ押しつけて固定します。

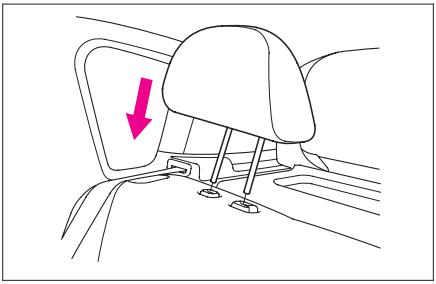
背もたれ調節機構　→54ページ



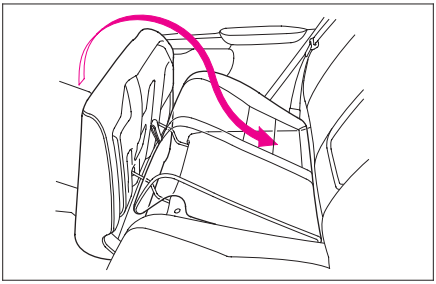
②ヘッドレストを取り出します。



③ヘッドレストを取り付けます。



④シートベルト、バックルを取り出しながらシートクッションを戻します。





⚠注意

- シートを操作するときは、操作する人やまわりの人の手や足などをはさまないように十分注意してください。
- 倒した背もたれの上や荷室には人を乗せて走行しないでください。ブレーキや加速、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。

知 識

- 背もたれを起こすときは、シートベルトを背もたれではさみ込まないようにしましょう。はさまれると正しく着用できません。
- 背もたれを起こしたときは、背もたれを前後にゆすって確実に固定されていることを確認してください。

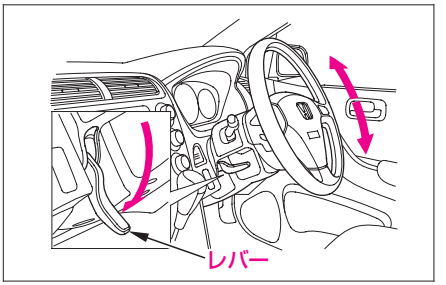
ハンドル・バックミラーの調節

チルトステアリング

ハンドルの高さを適切な位置に変えることができます。

▼

レバーを押し下げ、ハンドルの高さを適切な位置にして、レバーを元の位置まで確実に引き上げて固定します。



⚠注意

- 走行中に調節するとハンドルが必要以上に動くことがあり、思わぬ事故につながるおそれがあります。調節は走行する前に行い、ハンドルに上下方向の力を加え固定されていることを確認してください。

ルームミラー

知 識

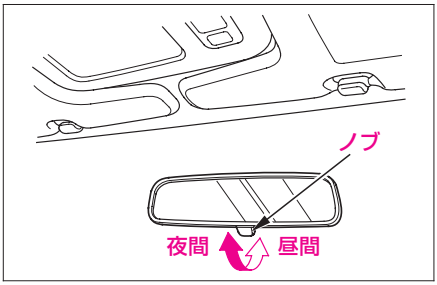
- 走行中はミラーの調節を行わないでください。

●防眩式ルームミラー

夜間走行時、後続車のライトがまぶしいときにライトの反射を弱くできます。

▼

ノブを動かして切り換えます。



角度調節はノブを昼間の位置にして行ってください。

ドアミラー

知 識

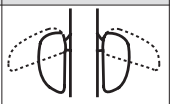
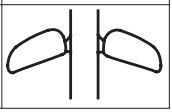
- ミラーを格納したまま走行しないでください。また、走行中はミラーの調節を行わないでください。
- ミラーを格納するときは、周囲の人の手などをはさまないようにしてください。

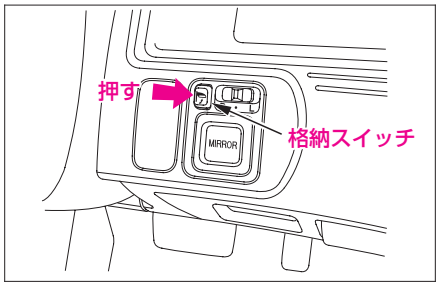
●格納のしかた

エンジンスイッチが“II”のとき、スイッチで左右のミラーをたたむことができます。

▼

格納スイッチを押すごとに“ON”↔“OFF”が切り換わります。

	格納スイッチの状態	ミラーの状態
ON		
OFF		



エンジンスイッチが“0”または“I”のときは手動で操作ができます。

知 識

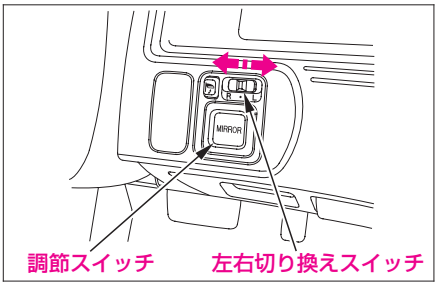
- 次の場合は手動で操作しても、ミラーは自動的に格納スイッチの状態に戻ります。
  - エンジンスイッチが“II”のとき
  - 手動で操作したあとにエンジンスイッチを“II”にしたとき

●角度調節のしかた

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを操作すると、ミラーの角度調節ができます。

▼

①左右切り換えスイッチを調節したい方に動かします。
②調節スイッチで角度を調節します。

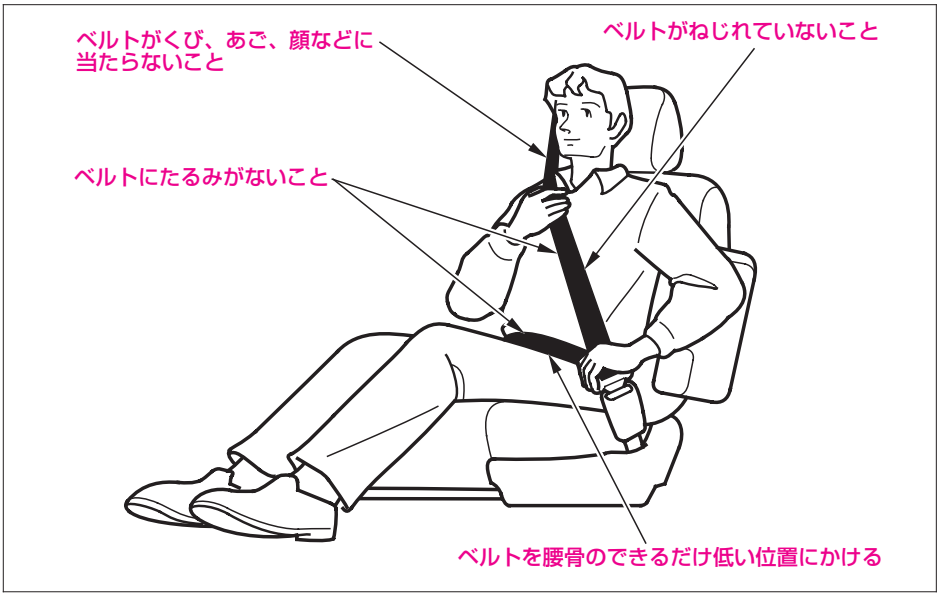


直接手で鏡面を動かして角度を調節することもできます。

シートベルト

シートベルト

シートベルトは、車を運転するまえに運転者は正しい運転姿勢で着用し、同乗者にも必ず着用させてください。



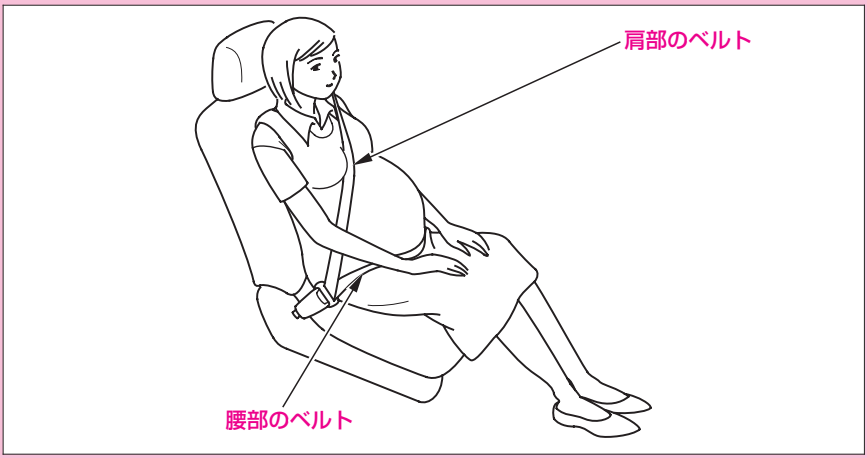
⚠警告

- シートベルトは全員が着用してください。
  着用しないと、衝突したときなどに重大な傷害を受けたり死亡することがあります。
- シートに深く腰かけてください。また、背もたれは必要以上に倒さないでください。
  寝そべった姿勢では、衝突したときなどにシートベルトの下に滑り込んだりして、重大な傷害を受けるおそれがあります。
- お子さまにもシートベルトを着用させるか、チャイルドシートをお使いください。
  お子さまを抱いていても、衝突したときなどに支えることができず、お子さまが重大な傷害を受けたり死亡するおそれがあります。

⚠注意

●シートベルトを正しく着用していないと本来の機能をはたさず、衝突のときなどにけがをするおそれがあります。
- ベルトは必ず腰骨のできるだけ低い位置にぴったり着用してください。
  ベルトが腰骨からずれていると腹部などに強い圧迫を受けます。
- ベルトはねじれがないように着用してください。
  ねじれがあるとベルトの幅が狭くなり、局部的に強い力がかかります。
- ベルトがくび、あご、顔などに当たらないように着用してください。
- 一本のベルトを二人以上で使用しないでください。
- 三点式シートベルトは腕の下に通して着用しないでください。
  ベルトが肩に十分かかっていないと前方に投げ出されるおそれがあります。
- ベルトにはクリップや洗たくばさみなどでたるみをつけないでください。

●妊娠中のかたや疾患のあるかたもシートベルトを着用してください。
ただし、万一のとき腹部、胸部、肩部などに圧迫を受けることがありますので、医師に確認してください。
- 妊娠中のかたは、三点式シートベルトを使用してください。
- 妊娠中のかたは、ベルトを着用するときは、腰部のベルトを腹部からさけて腰骨のできるだけ低い位置にかかるようにして身体に密着させてください。
  また、肩部のベルトは腹部からさけて胸部にかかるようにしてください。



●シートベルトの種類

シート		シートベルトの種類
フロントシート		ELR付三点式シートベルト
リヤシート	左右	ELR･ALR付三点式シートベルト
	中央	マニュアル二点式シートベルト

ELR付三点式シートベルト:
体の動きにあわせて伸縮し、強い衝撃を受けるとベルトが自動的にロックします。

ELR･ALR付三点式シートベルト:
通常はELRシートベルトとして機能します。
ALRはチャイルドシートを固定する機構です。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト　→74ページ

●三点式シートベルト

シートベルトリマインダー(非着用警報装置)

エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダーが作動し、メーター内のシートベルト非着用警告灯が点灯し続けます。
また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまで、ブザーが鳴ります。(ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。)

知 識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも、一定回数を超えるとブザーは止まります。
- セレクトレバーを[R]に入れたときは、後退位置警報装置のチャイムが鳴り、シートベルト非着用警告ブザーは鳴りません。

チャイルドシート固定機構付きシートベルト(後席外側2座席)

→74ページ

知 識

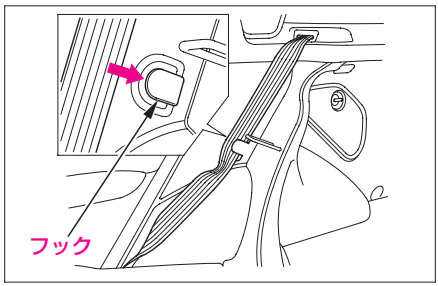
- 後席シートベルトを着用した状態で上体を大きく動かしたときに、シートベルトがすべて引き出されてチャイルドシート固定機構が作動することがあります。
  このときは、チャイルドシート固定機構を解除してから再度シートベルトを着用してください。
  解除のしかた　→75ページ

シートベルトプリテンショナー(前席のみ)

→146ページ

シートベルトフック

後席の背もたれを倒したあとは、シートベルトをフックにかけておきます。

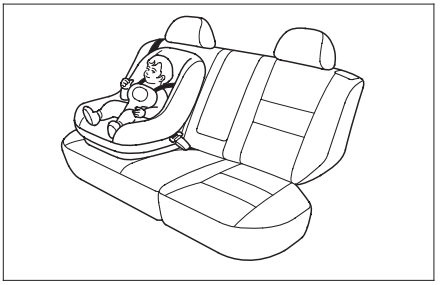


●二点式シートベルト

体にあわせてベルトの長さを調節します。

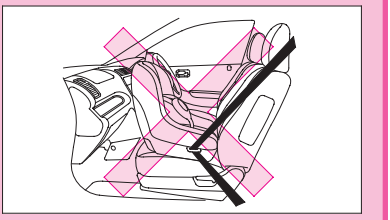
●お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せシートベルトを着用させてください。
ただし、装備されているシートベルトは大人用ですので、ベルトがくびやあごに当たる場合や腰骨にかからない場合は、幼児用シートや学童用シートを使用してください。シートベルトをそのまま使うと、衝突のときに腹部などに強い圧迫を受けるおそれがあります。
また、ひとりですわることのできない小さなお子さまは乳児用シートを使用してください。
お子さまを後席に乗せることができなく、やむをえず助手席に乗せるときは、一番大きなお子さまを乗せてください。



⚠警告

●助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



知 識

●乳児用シート、幼児用シート、学童用シートは、お子さまの体重や身長によりお使いになれるタイプや取り付け方法が異なります。

ISO FIX対応以外のチャイルドシートは、シート形状などにより、チャイルドシートを正しく取り付けできない席があります。このようなときは、他の席で試してください。または、この車に合ったチャイルドシートを使用してください。

ISO FIXテザータイプのチャイルドシートは、専用バーとテザーアンカー(アンカープレートアタッチメント取り付けナット)を用いて固定します。チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。

後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。

チャイルドシートはシートベルトで固定する必要はありません。

車両側のテザーアンカーにこの車用のアンカープレートアタッチメント(テザーストラップ取り付け金具)を取り付け、テザーストラップをアンカープレートアタッチメントに結合することにより、チャイルドシートを確実に固定することができます。

アンカープレートアタッチメントは、ホンダプリモ店で取り付けてください。

ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置　→76ページ

Honda純正品をご用意しています。ご購入、ご使用に際してはホンダプリモ店にご相談ください。

《選択の目安》

詳しくはチャイルドシートに付属の取扱説明書をご覧ください。

ISO FIXタイプを除く

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～10	～75	～12か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才
学童用(ジュニア)シート	15～32	100～135	4才～10才

ISO FIXテザータイプ

	体重(kg)	参考身長(cm)	参考年令
乳児用(ベビー)シート	～9	～70	～9か月
幼児用(チャイルド)シート	9～18	70～100	9か月～4才

●シートベルトの取り扱い、手入れ

・ベルトを着用した状態で万一、事故にあった場合は機能を損なっている可能性があるため、ベルト一式を交換してください。
前席シートベルトは、前席に乗員がいなくても、SRSエアバッグが作動するような事故にあった場合は、プリテンショナーも作動するため、ベルト一式を交換してください。
また、ベルトにほつれ、すりきれ、破れなどができたときも交換してください。

・シートベルトを十分に機能させるために、バックルおよび自動巻き取り装置の内部に異物を入れないようにしてください。

・ベルトが汚れた場合は、中性洗剤を溶かしたぬるま湯に布をひたしてふき取り乾かしてください。薬剤を使ったり漂白や染色は絶対しないでください。ベルトを弱めます。

着用のしかた

●三点式シートベルト

①正しい運転姿勢でシートにすわります。
(→50ページ)

②タングプレートをつかみ、ゆっくり引き出します。



③ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。

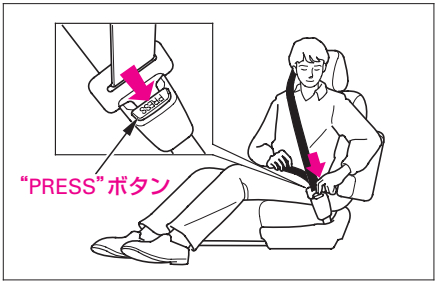


④ベルトがねじれたり、引っかかったりしていないかを確認します。

⑤ベルトを腰骨のできるだけ低い位置にかかるように引き、たるみがないように身体に密着させます。



⑥外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
ベルトが自動的に収納されますので、ひっかかったり、ねじれたりしていないかを確認します。

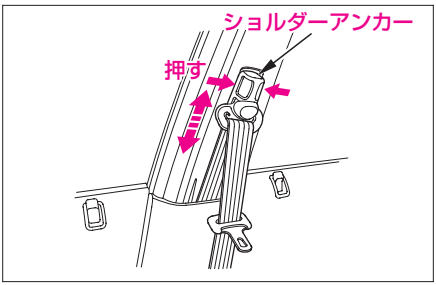


ショルダーアンカーの高さ調節（前席のみ）

座高に合わせて、ショルダーアンカーの高さを調節できます。

▼

通常はベルトが肩から外れないように最上段で使いますが、ベルトがくびに当たるときは、一段ずつ下げて調節してください。

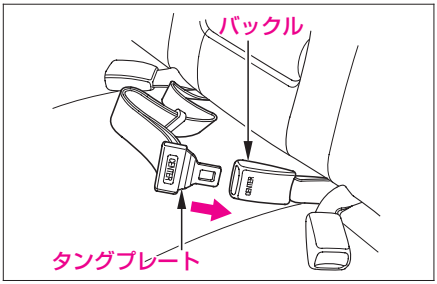


⚠注意

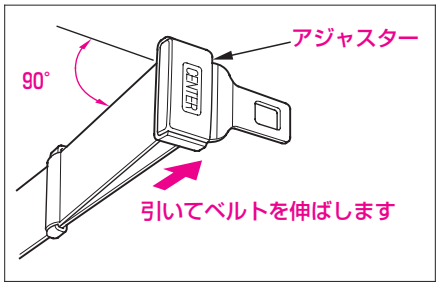
- 調節後は、ショルダーアンカーが確実に固定されていることを確認してください。

●二点式シートベルト

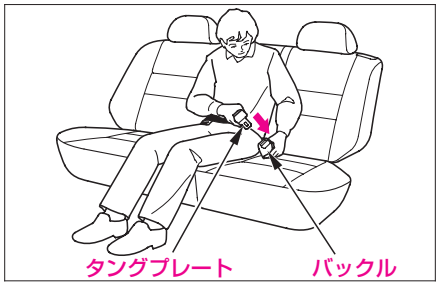
タングプレートは差し込む相手を間違えないようにしてください。タングプレートとバックルに“CENTER”（センター）の表示があります。



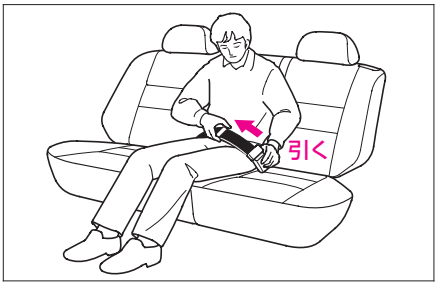
①アジャスターを図のようにし、ベルトを引いて必要な長さより少し長めにします。



②ベルトにねじれがないようにし、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



③腰骨にかかるようにベルトを図のように引き、腰部に密着させます。



④外すときはバックルの“PRESS”ボタンを押します。
外したベルトはタングプレートとバックルを結合しておきます。

チャイルドシート固定装置

チャイルドシート固定機構付きシートベルト（後席外側 2 座席）

後席外側の三点式シートベルトには、チャイルドシート固定機構がついています。シートベルトを引き出し方向に動かないようにできるため、チャイルドシートを固定することができます。
取り付けかたは、チャイルドシートの形状、取り付け方法によって異なります。チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けてください。

⚠警告

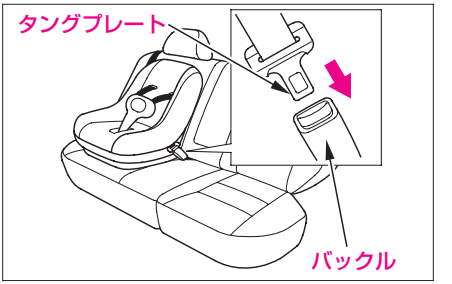
- お子さまをシートベルトで遊ばせないでください。
  固定機構が作動するとベルトがゆるまなくなり、窒息などの重大な傷害を受けるおそれがあります。
  万一ベルトをゆるめることができなくなった場合は、はさみなどでベルトを切断してください。

知 識

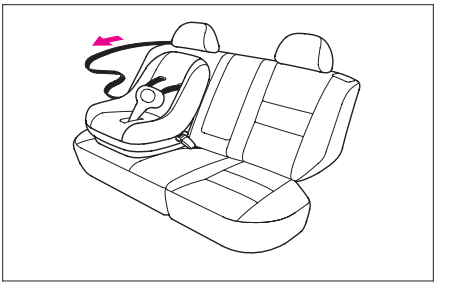
- ISO FIX テザータイプのチャイルドシートを取り付けるとき
  ISO FIXテザータイプチャイルドシート固定装置 →76ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

①チャイルドシートをリヤシートに置きます。
②ベルトにねじれがないことを確認し、タングプレートをバックルの中へ“カチリ”と音がするまで差し込みます。



③ベルトをゆっくりと引き出します。すべて引き出すと、チャイルドシート固定機構が作動します。

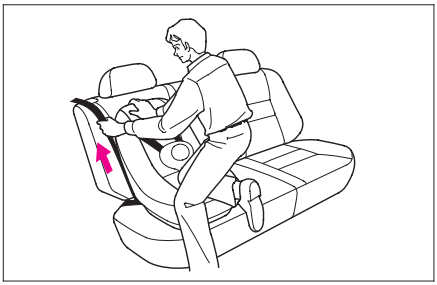


④ベルトを少し巻き取らせます。その後、ベルトをゆっくりと引き、ベルトが引き出し方向に動かないことを確認します。ベルトが引き出し方向に動く場合は、再度ベルトをすべて引き出してください。

⚠注意

- 必ずベルトが引き出し方向に動かないことを確認してください。
  ベルトが引き出し方向に動く状態では、チャイルドシート固定機構が作動していないので、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

⑤チャイルドシートに体重をかけてリヤシートに押しつけながら、ベルトを巻き取らせ、しっかりと固定します。



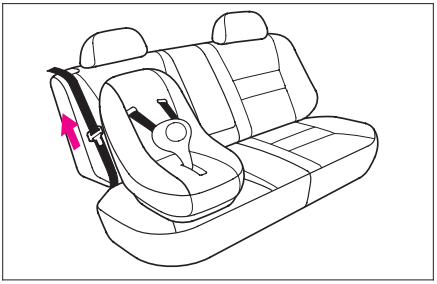
⚠注意

- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

●解除のしかた

①チャイルドシートからベルトを外します。

②ベルトをいっぱいまで巻き取らせると、チャイルドシート固定機構は解除されます。



ISO FIX テザータイプ チャイルドシート固定装置（後席外側 2 座席）

後席外側の 2 座席には、ISO FIXテザータイプのチャイルドシートを固定するための専用バーとテザーアンカー（アンカープレートアタッチメント取り付けナット）が装備されています。

この車用に認可を取得したチャイルドシートのみ固定し、使用することができます。
チャイルドシートを前向きに取り付けるときは、このバーとテザーアンカーを用いて固定します。
後ろ向きに取り付けるときは、テザーアンカーは使用しません。
チャイルドシートはシートベルトで固定する必要はありません。
アンカープレートアタッチメント（テザーストラップ取り付け金具）は、ホンダプリモ店で取り付けてください。
Honda純正品をご用意しています。
ご購入、ご使用に際してはホンダプリモ店にご相談ください。

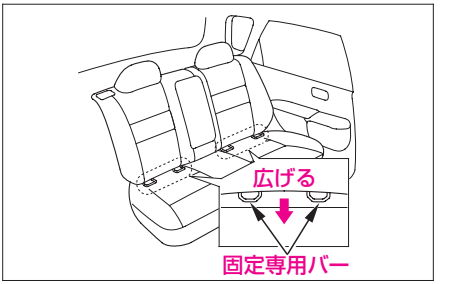
知 識

- チャイルドシート固定機構付きシートベルトを使って取り付けるとき

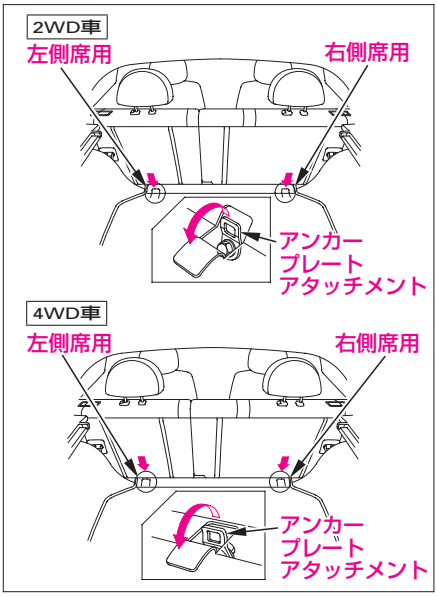
→74ページ

●チャイルドシートを取り付けるとき

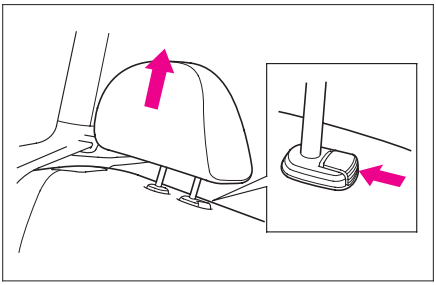
①シートクッションと背もたれのすき間を少し広げて、専用バーの位置を確認します。



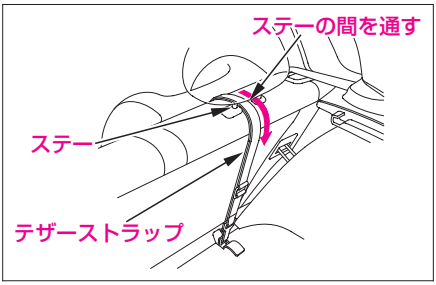
②アンカープレートアタッチメントの位置を確認します。



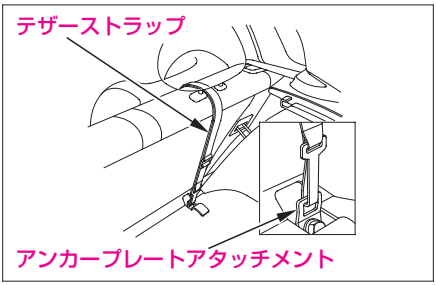
③リヤシートのヘッドレストを持ち上げて、最上段で固定します。



④テザーストラップは、図のように通します。



⑤チャイルドシートとテザーストラップをチャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り付けます。



⚠注意

- チャイルドシートを取り付けるときは、専用バー周辺に異物がないこと、シートベルトなどのかみ込みがないことを確認してください。異物やシートベルトなどをかみ込むとチャイルドシートが確実に固定されず、ブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。
- チャイルドシートを前後左右にゆすって確実に固定されていることを確認してください。
  確実に固定されていないとブレーキや衝突のときなどにチャイルドシートがとび出し傷害を受けるおそれがあります。

●取り外すとき

チャイルドシートに付属の取扱説明書にしたがって取り外します。

2

車を運転するときに

●メーター ……80
イルミネーション
　コントロール……82

●表示灯……84

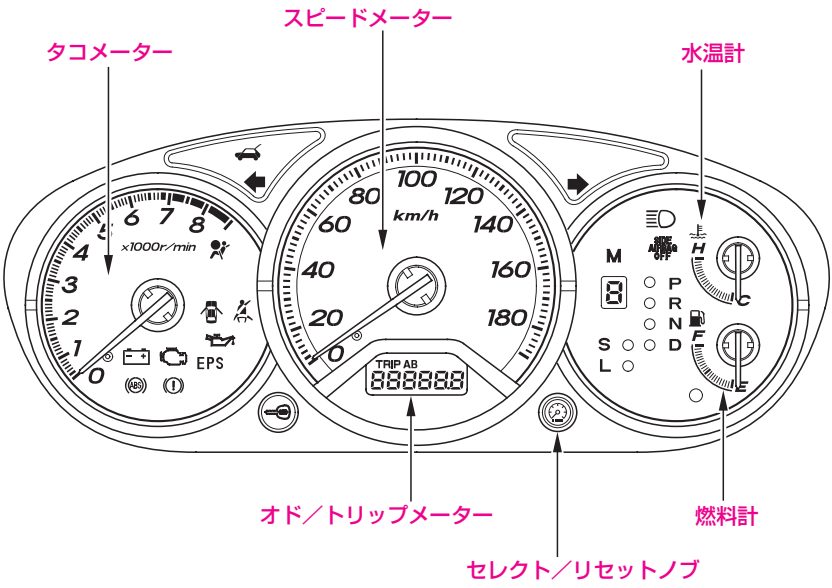
●警告灯……88
警告灯の電球切れの点検……95

●スイッチの使いかた
エンジンスイッチ……96
ライトスイッチ……98
方向指示器（ウィンカー）
　スイッチ……99
非常点滅表示灯（ハザード）
　スイッチ……99
ワイパー／ウォッシャー
　スイッチ ……100
リヤデフロスタースイッチ …102
ホーンスイッチ ……103

●運転のしかた
エンジンのかけかた ……104
パーキングブレーキ ……106
セレクトレバーの操作
　……108·114
オートマチック車の運転の
　しかた ……118

メーター

イラストは代表例を掲載しています。



スピードメーター
走行速度をkm/hで示します。

タコメーター
1分間あたりのエンジン回転数を示します。

アドバイス

- エンジン故障の原因となりますので、限界回転数以上(レッドゾーン)に入らないように運転してください。特に高速走行時、変速(シフトダウン)するときには注意してください。
  限界回転数 ・・・・・・・・6,800 rpm
- 停車中の空ぶかしは、エンジン回転数が5,000rpmになると燃料供給が停止されます。

オド/トリップメーター
エンジンスイッチを"II"にするとオドメーターまたはトリップメーターが表示されます。

▼

表示の切り換え
セレクト/リセットノブを押すごとに「・・・"オドメーター"→"TRIP A"→"TRIP B"・・・」の順に表示が切り換わります。

オドメーター
走行距離の累計をkmで示します。

トリップメーター
リセットしてからの走行距離をkmで示します。"TRIP A"と"TRIP B"でそれぞれ別の走行距離を知ることができます。

①セレクト/リセットノブを押して"TRIP A"または"TRIP B"を選びます。
②セレクト/リセットノブをメーター表示が"0"になるまで押して、リセットします。

知 識

- 走行距離が999.9kmを超えると0kmに戻ります。

燃料計

エンジンスイッチが“II”のとき、燃料の残量を示します。
“E”に近づいたら早めに補給してください。

燃料補給について　→44ページ

水温計

エンジン冷却水の温度を示します。
走行中は“H”の目盛より下側をさすのが正常です。

アドバイス

- 針が“H”の目盛に入った場合はオーバーヒートのおそれがあります。ただちに安全な場所に停めてエンジンを冷やしてください。
  そのまま走行を続けるとエンジン故障の原因となります。
  オーバーヒートしたとき
  →218ページ

イルミネーション コントロール

セレクト／リセットノブを回すと、メーター表示の明るさが車幅灯点灯時と消灯時にそれぞれ別々に調節できます。

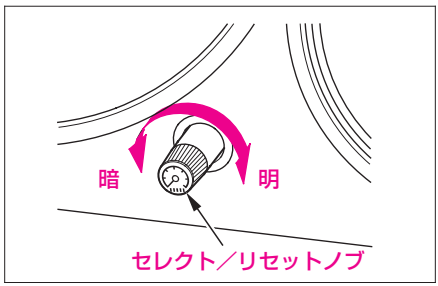
▼

エンジンスイッチが“II”のときノブを回して明るさを調節します。

明るくするとき…
ノブを右に回します。明るさが最大になると“ピッ”という電子音がなります。

暗くするとき…
ノブを左に回します。明るさが最小になると“ピッ”という電子音がなります。

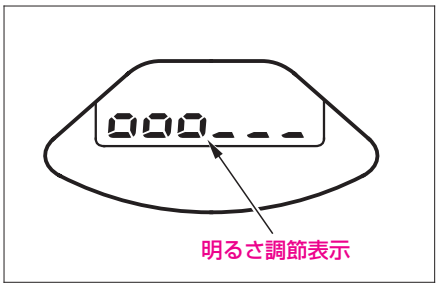
車外の明るさに応じてお好みで調節してください。



明るさ調節表示

ノブを回して明るさを調節すると、オドメーターまたは、トリップメーターが明るさ調節表示に切り換わります。

が右に増えて行くほど、メーターが明るく表示されます。

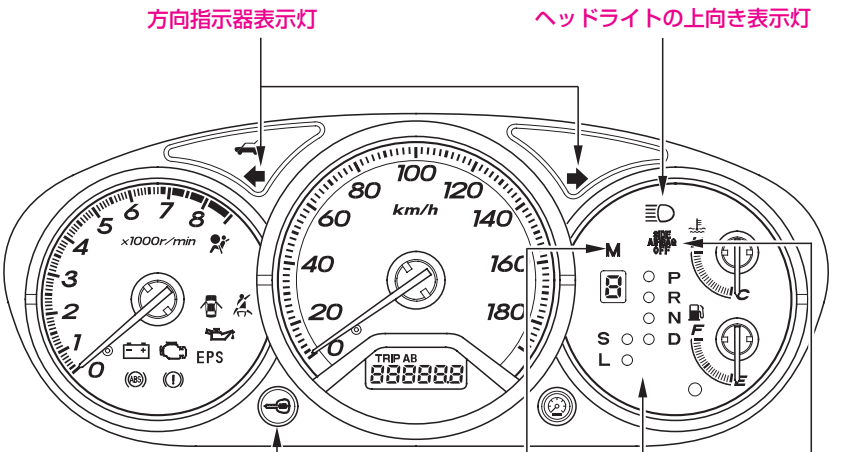


知 識

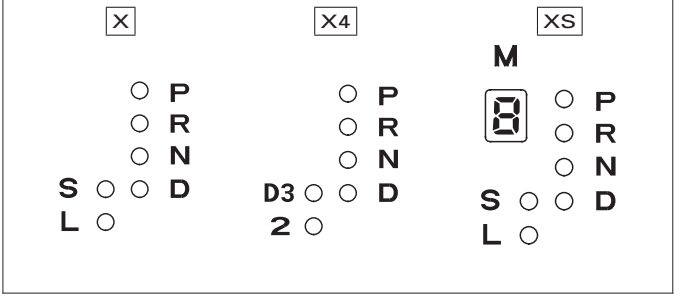
- 次の動作をしたときは、オドメーターまたは、トリップメーターに切り換わります。
  - ・調節後約 5 秒すぎたとき
  - ・セレクト／リセットノブを押したとき
- 車幅灯点灯時に、 がすべて表示されるまでノブを右に回すと、車幅灯点灯時の減光が解除されます。このときにも、“ピッ”という電子音がなります。
- 運転席ドアを開けると、メーターが減光した状態で点灯します。（ウェルカムメーター照明）
- 次のようなとき、メーターの照明は消灯します。
  - ・運転席ドアを開けてから、何もせずに約 3 分経過したとき
  - ・運転席ドアを閉めてから、何もせずに約30秒経過したとき
  - ・エンジンスイッチにキーを差し込んだまま、約10秒経過したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”から“I”にして、さらに“0”に回してから、約10秒経過したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”から“I”に回してから、約10秒経過したとき
- エンジンスイッチからキーを抜いたときは、メーターの照明はすぐに消灯します。

表示灯

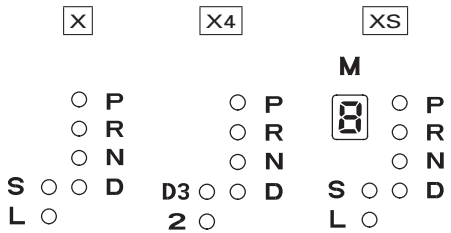
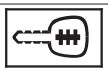
イラストは代表例を掲載しています。



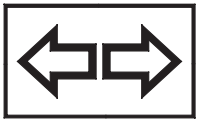
セレクトポジション表示灯



表示灯はタイプ等により、装備の有無があります。下表の装備一覧をご覧ください。

表示灯		タイプ		
		X	X4	XS
	方向指示器表示灯	○	○	○
	ヘッドライト上向き (ハイビーム)表示灯	○	○	○
セレクトポジション表示灯 		○	○	○
	マニュアルシフトモード 表示灯			○
	サイドエアバッグ 自動停止表示灯	△	△	△
	イモビライザーシステム 表示灯	△	△	○

○：標準装備
△：注文装備



方向指示器表示灯

方向指示器のランプの点滅状態を表示します。

知 識

- 電球が切れたときや、ワット(W)数の違ったものを使ったときは、表示灯の点滅周期が異常になります。

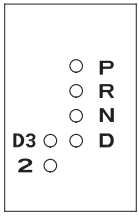
電球(バルブ)の交換　→226ページ
電球(バルブ)のワット数
→275ページ



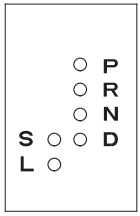
ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯

ヘッドライトが上向きのときに点灯します。

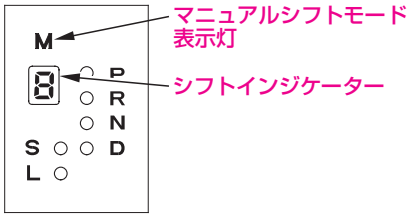
X



X4



XS



セレクトポジション表示灯(トランスミッション警告灯兼用)

使用中のセレクトレバー位置が表示されます。

トランスミッションが異常のときには、Dが点滅します。

トランスミッション警告灯　→92ページ

XS

7速オートシフトモード時は、シフトインジケーターに変速段が表示されます。

7速オートシフトモード　→111ページ

7速マニュアルシフトモード時は、シフトインジケーターに変速段が表示されます。またマニュアルシフトモード表示灯が点灯します。

7速マニュアルシフトモード
→112ページ





マニュアルシフトモード表示灯

XS

7速マニュアルシフトモードのときに点灯します。

7速マニュアルシフトモード

→112ページ



サイドエアバッグ自動停止表示灯

サイドエアバッグシステム装備車

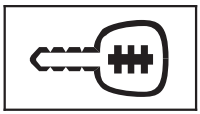
乗員姿勢検知システムにより、助手席用サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。

▼

点灯したときは

上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。

サイドエアバッグシステム　→136ページ



イモビライザーシステム表示灯

イモビライザーシステム装備車

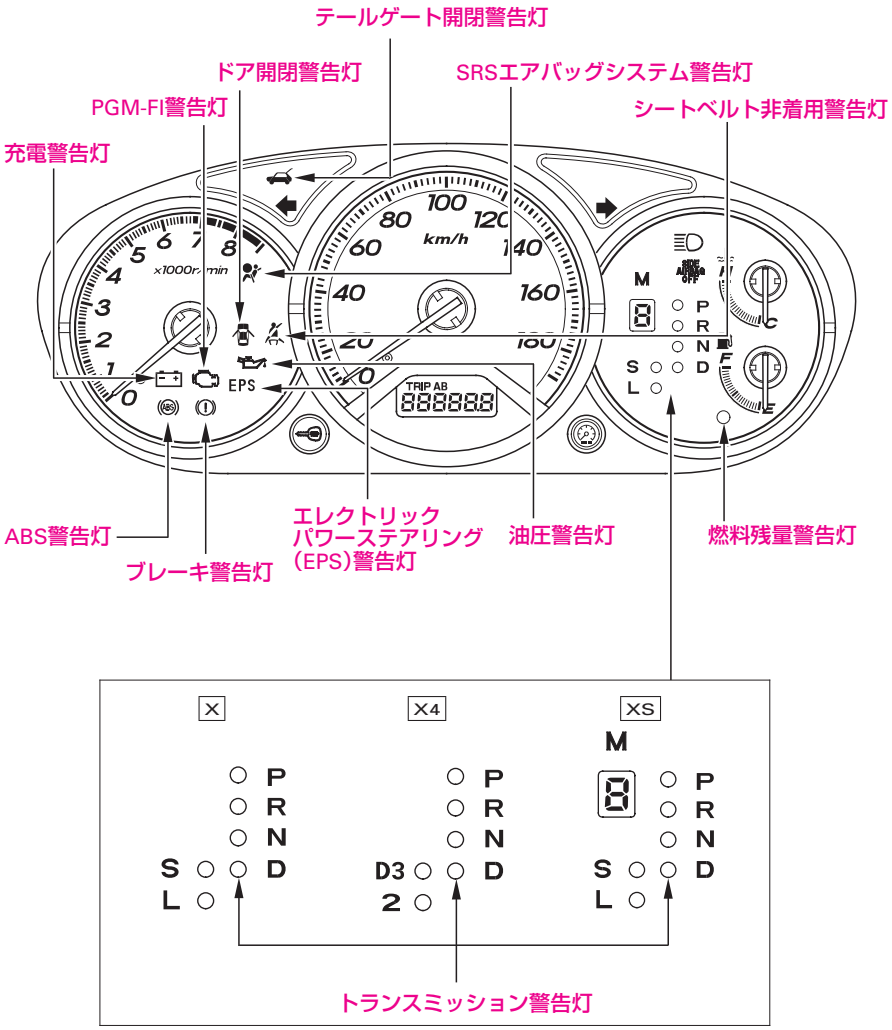
エンジンスイッチを“II”にすると、数秒間点灯してから消灯します。消灯したらエンジンを始動することができます。
点滅したときは、エンジンを始動することができません。

エンジンスイッチを“II”から“I”または“0”へ回したときにも、イモビライザーシステム表示灯が数回点滅します。

イモビライザーシステム　→33ページ

警告灯

イラストは代表例を掲載しています。



警告灯は下表の装備一覧をご覧ください。

警告灯	タイプ		
	X	X4	XS
油圧警告灯	○	○	○
ブレーキ警告灯	○	○	○
充電警告灯	○	○	○
PGM-FI警告灯	○	○	○
トランスミッション警告灯 （セレクトポジション表示灯兼用）	○	○	○
シートベルト非着用警告灯	○	○	○
燃料残量警告灯	○	○	○
ドア開閉警告灯	○	○	○
テールゲート開閉警告灯	○	○	○
SRSエアバッグシステム 警告灯	○	○	○
アンチロックブレーキ システム（ABS）警告灯	○	○	○
エレクトリックパワー ステアリング（EPS）警告灯	○	○	○

○：標準装備



油圧警告灯

エンジン回転中、エンジン内部を潤滑しているオイルの圧力が低下すると点灯します。

▼

点灯したときは

エンジン回転中に点灯した場合は、ただちに安全な場所に停車してエンジンを止め、エンジンオイル量を点検してください。

エンジンオイルが減っていないのに点灯しているときや、エンジンオイルを補給しても点灯するときは、ただちにホンダプリモ店へご連絡ください。

アドバイス

- 点灯したまま走行しないでください。エンジンが破損するおそれがあります。



ブレーキ警告灯

パーキングブレーキが完全に戻っていないときやブレーキ液量がいちじるしく減少しているときに点灯します。また、ABSが異常のときにもABS警告灯と同時に点灯します。

▼

点灯したときは

走行中点灯したときやパーキングブレーキを解除しても消灯しないときは、

①ブレーキ液量を点検します。

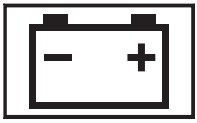
②下限より下がっていたらただちにホンダプリモ店へご連絡ください。

ブレーキ液量が下限以下になっていないのに点灯するときや、パーキングブレーキをかけても点灯しないときは、お早めにホンダプリモ店で点検を受けてください。

ABS警告灯と同時に点灯したときは

ブレーキ液量が正常で、同時に点灯したときは、ABSの異常が考えられます。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

ABS警告灯　→94、149ページ



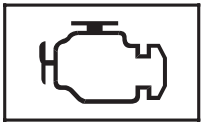
充電警告灯

充電系統が異常のときに点灯します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、電気の消費を減らすため、ヒーター・エアコンスイッチ、リヤデフロスタースイッチを“OFF”にして、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。



PGM-FI警告灯

エンジン制御システムが異常のときに点灯します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯した場合は、高速走行を避けて、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

点滅したときは

①走行中に点滅した場合は、枯草などの可燃物のない安全な場所に停車し、10分間以上エンジンを止めて、冷えるまでお待ちください。

②エンジン再始動後、警告灯が消灯しないときや再び点滅するときは、触媒装置保護のため、急加速、急減速などの無理な運転を避け、50km/h以下の速度で、最寄りのホンダプリモ店まで走行し点検を受けてください。

アドバイス

- エンジン各気筒の失火状態を検知し、警告灯を点滅させる機能を持っています。警告灯が点滅した状態で運転は続けないでください。触媒装置を焼損することがあります。



トランスミッション警告灯（セレクトポジション表示灯兼用）

トランスミッションが異常のときに点滅します。

▼

点滅したときは

運転中に点滅した場合は、急発進、急加速を避けて、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。



シートベルト非着用警告灯

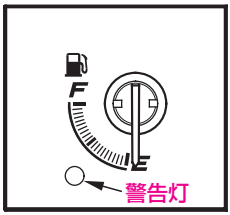
エンジンスイッチを“II”にすると、運転席シートベルトを着用するまでシートベルトリマインダー（非着用警報装置）が作動し、点灯し続けます。

また、エンジンスイッチを“II”にしたときや走行したときは、運転席シートベルトを着用するまでブザーが鳴ります。

（ブザーが鳴っている間は、警告灯が点滅します。）

知 識

- 運転席シートベルトを着用していない場合でも、停車すると、ブザーは止まります。また、走行しているときでも一定回数を超えると、ブザーは止まります。
- セレクトレバーを[R]に入れたときは、後退位置警報装置のチャイムが鳴り、シートベルト非着用警告ブザーは鳴りません。



燃料残量警告灯

燃料タンク内のガソリン残量が7ℓ前後になったときに点灯します。

燃料の補給　→44ページ



ドア開閉警告灯

ドアが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

ドアを完全に閉めてください。



テールゲート開閉警告灯

テールゲートが完全に閉まっていないときに点灯します。

▼

テールゲートを完全に閉めてください。



SRSエアバッグシステム警告灯（サイドエアバッグシステム警告灯〔サイドエアバッグシステム装備車〕、シートベルトプリテンショナー警告灯兼用）

SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。

SRSエアバッグシステム　→135ページ
サイドエアバッグシステム　→145ページ
シートベルトプリテンショナー
→147ページ



アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯

ABSが異常のときに点灯します。

→149ページ



EPS

エレクトリックパワーステアリング（EPS）警告灯

EPSが異常のときに点灯します。

▼

点灯したときは

運転中に点灯したとき（安全な場所に停車してからエンジンを再始動し、その後走行中に消灯していれば正常です。）は、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダプリモ店で点検を受けてください。

知 識

- 警告灯が点灯しているときは、パワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が重くなります。
- 停車中または極低速でハンドル操作をくり返したときなどシステムの温度が上昇すると、システム保護のためパワー装置のはたらきを制限するので、ハンドル操作が徐々に重くなります。
  システムの温度が下がると復帰します。
  システム保護がはたらくような使いかたを連続的にくり返すと、システム破損の原因となります。

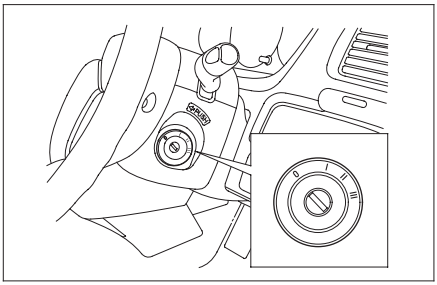
警告灯の電球切れの点検

エンジンスイッチを“II”にしたとき、下記の警告灯類が点灯するのが正常です。点灯しないときは、ホンダプリモ店へご連絡ください。

- **油圧警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **ブレーキ警告灯**
  （パーキングブレーキが解除されているときは数秒後消灯）
  （パーキングブレーキをかけているときは完全に解除すると消灯）
- **充電警告灯**
  （エンジン始動後消灯）
- **PGM-FI警告灯**
  （数秒後消灯）
- **トランスミッション警告灯**
  （数秒後消灯）
- **SRSエアバッグシステム警告灯**
  （約 6 秒後消灯）
- **アンチロックブレーキシステム（ABS）警告灯**
  （数秒後消灯）
- **エレクトリックパワーステアリング（EPS）警告灯**
  （エンジン始動後消灯）

スイッチの使いかた

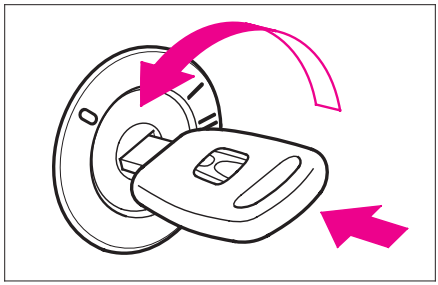
エンジンスイッチ



0	キーを抜き差しする位置です。
I	エンジンをかけずにラジオなどのアクセサリーを使用するときの位置です。
II	運転するときの位置です。
III	エンジン始動位置です。始動したら、キーから手を離してください。自動的に“II”に戻ります。

キーを抜くとき

・セレクトレバーを[P]に入れます。
・“ I ”でキーを押し込んで“ 0 ”まで回してキーを抜きます。



知 識

- キーを抜くとハンドルがロックされます。
- セレクトレバーが[P]以外のときは、エンジンスイッチが“ 0 ”まで回らないので、キーを抜くことができません。

“ 0 ”から“ I ”にキーが回らないとき（ハンドルロックの解除）

ハンドルを左右に回しながらキーを回せば容易に回ります。

知 識

- エンジンを止めた状態で“Ⅰ”または“Ⅱ”のまま、長時間放置しないでください。
  バッテリー容量が低下し、エンジンがかからなくなることがあります。
- 車から離れるときは、バッテリー保護のため必ず“0”にしてください。

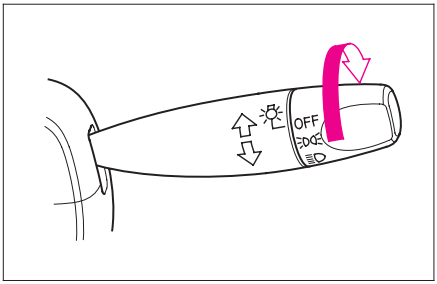
●キー抜き忘れ警告ブザー

エンジンスイッチが“Ⅰ”または“0”でキーを差し込んだまま車を離れようとしたとき（運転席ドアを開けたとき）、ブザーが鳴りキーの抜き忘れを知らせます。

ライトスイッチ

●ライトの点灯・消灯

エンジンスイッチの位置に関係なく次のように点灯、消灯します。



スイッチの位置		
ヘッドライト	—	点灯
計器類照明灯 車幅灯・尾灯 番号灯	点灯	点灯

知 識

- エンジンが止まっている状態で、ライト類を点灯したままにしないでください。バッテリーあがりの原因となります。

●ライト消し忘れ警告ブザー

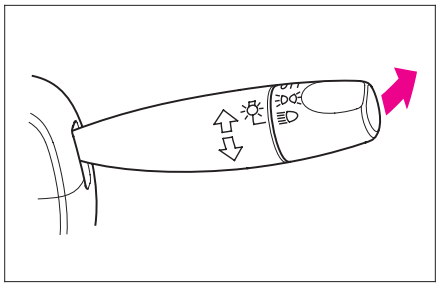
ライトを点灯したままエンジンスイッチからキーを抜いて、車を離れようとしたとき(運転席ドアを開けたとき)、ブザーが鳴りライトの消し忘れを知らせます。

●ヘッドライトの上向き(ハイビーム)と下向き(ロービーム)の切り換え

レバーを前方へ押すと上向きになります。戻すと下向きになります。

上向きのときは、メーター内の表示灯が点灯します。

ヘッドライト上向き(ハイビーム)表示灯 →86ページ

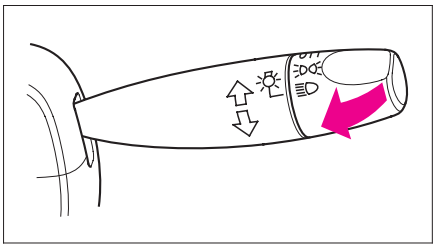


知 識

- 対向車のあるときや市街地走行など、上向きが不適切なときは下向きにします。

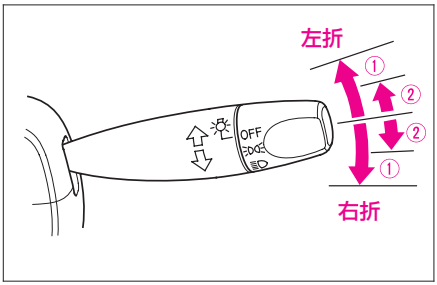
●追越合図(パッシング)

レバーを手前に引いている間、上向きが点灯します。



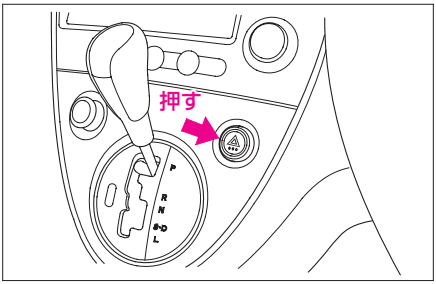
方向指示器(ウィンカー)スイッチ

エンジンスイッチが"II"のとき使えます。
ふだんは①の位置で使います。
この位置ではハンドルの切り角が小さいときには戻らない場合もあります。戻らないときは手で戻してください。
車線変更などでは②の位置に軽く手で押さえながら使います。



非常点滅表示灯(ハザード)スイッチ

スイッチを押すとすべての方向指示器のランプが点滅します。
故障でやむをえず路上駐車するとき使います。



知　識

- 非常時にのみお使いください。
  完全充電の新しいバッテリーでも約 2 時間以上使うとバッテリー容量が低下し、エンジンの始動ができなくなります。

ワイパー／ウォッシャースイッチ

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

知 識

- 空ぶきをしないでください。ガラス面に傷をつけたり、ブレード（ゴム部）を傷めたりします。
- ウォッシャー液が出ないときはウォッシャースイッチを切ってください。
  ウォッシャー液がないままで動かすとポンプの故障の原因となります。
- 寒冷時、ブレード（ゴム部）がガラス面に張りつくことがありますのでヒーターでフロントガラスを暖めてください。
  凍りついたまま動かすとブレード（ゴム部）を傷めたり、ワイパーモーターの故障の原因となります。

デフロスター　→162ページ

知 識

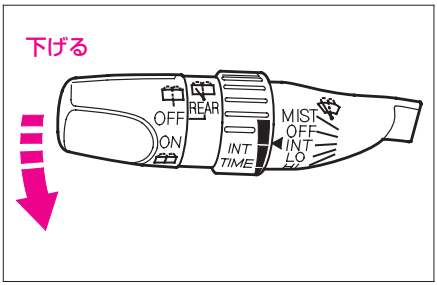
- ワイパーを作動中にガラスに雪などがたまりワイパーが停止したときは、安全な場所に停車してワイパースイッチを“OFF”、エンジンスイッチを“0”または“I”にしてワイパーが作動できるように雪などの障害物を取り除いてください。
- フロントワイパーモーターには、保護機能としてブレーカーを内蔵しています。
  モーターの負荷が大きい状態が続いたときなどには、ブレーカーが作動し、一時的にモーターが止まることがあります。
  数分ほどすると、ブレーカーが復帰して通常通り使用できるようになります。
- ワイパーアームを起こすときは、運転席側を先に起こしてください。また、倒すときは、助手席側を先に倒してください。

ワイパーアームの起こしかた
→265ページ

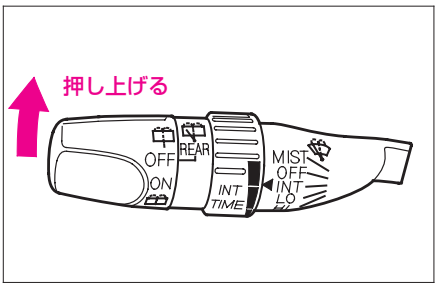
エンジンスイッチが“II”のとき使えます。

●フロントガラス

ワイパースイッチ



OFF ・・・・・・・・・・・・・・・ 停止
INT(間欠) ・・・・・・・・・・ 雨量の少ないとき
LO(低速) ・・・・・・・・・・・ 普通雨量のとき
HI(高速) ・・・・・・・・・・・ 雨量の多いとき



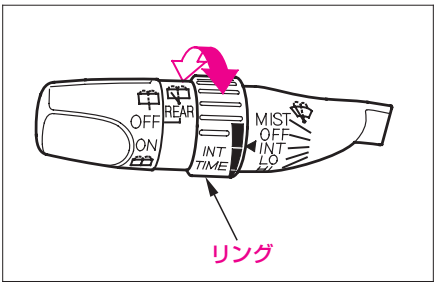
MIST ・・・・・・・・・・
レバーを押し上げている間、高速で作動します。
霧や小雨のときなどに使うと便利です。

間欠時間の調節

ワイパーの間欠作動の間隔を調節できます。

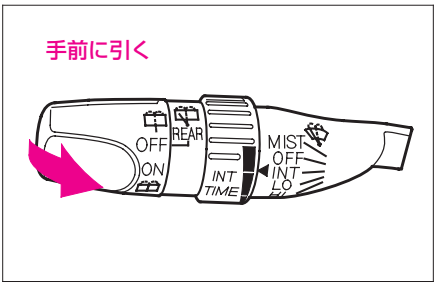
▼

間隔のセットはリングを回して行います。

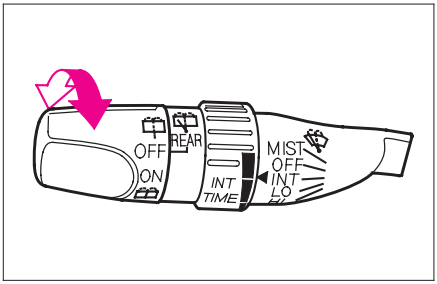


ウォッシャースイッチ

レバーを手前に引くとウォッシャー液が噴射します。レバーを引いている間はワイパーが作動し、レバーを離した後さらに2～3回作動します。



●リヤガラス



間欠機能装備車

OFF ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 停止

ON ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ワイパーが作動します。スイッチを“ON”にすると、数回ワイパーが作動し、その後間欠作動に切り換わります。

 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ スイッチを回している間、ウォッシャー液が噴射します。スイッチを回している間はワイパーが作動し、スイッチを離した後さらに2～3回作動します。

間欠機能非装備車

OFF ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ 停止

ON ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ ワイパーが作動します。

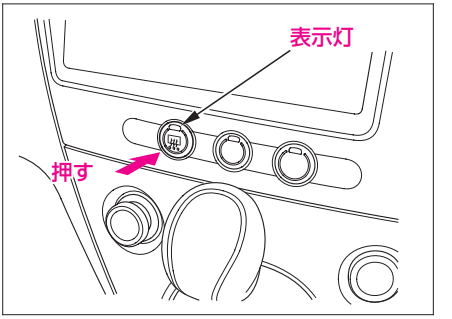
 ‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥‥ スイッチを回している間、ウォッシャー液が噴射します。

リヤデフロスタースイッチ

リヤガラスを暖め、曇りを取ることができます。

▼

エンジンスイッチが“II”のときスイッチを押すと“ON”になり、同時に作動表示灯が点灯します。もう一度スイッチを押すと“OFF”になり、作動表示灯は消灯します。

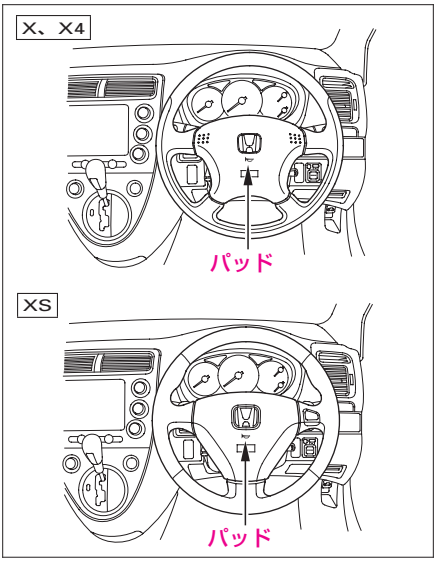


知 識

- この装置は消費電力が大きいので曇りが取れたら“OFF”にしてください。オートエアコン装備車は“ON”のままであっても、約15分経過後自動的に“OFF”になります。また、エンジンの回転が低いとき長時間使わないでください。バッテリー容量が低下し、エンジン始動に影響することがあります。
- リヤガラスの内側に電熱線が装着されています。電熱線は傷つきやすいので清掃のときは電熱線に沿ってやわらかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。

ホーンスイッチ

ハンドルのパッドを押すとホーンが鳴ります。



運転のしかた

エンジンのかけかた

⚠警告

- バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動をしないでください。
  バッテリーが破裂するおそれがあります。
  DELPHI製バッテリーの
  バッテリー液について
  →240ページ
- 車庫や屋内などの換気の悪いところでは、エンジンをかけたままにしないでください。
  車内や屋内などに排気ガスが充満し、一酸化炭素中毒のおそれがあります。

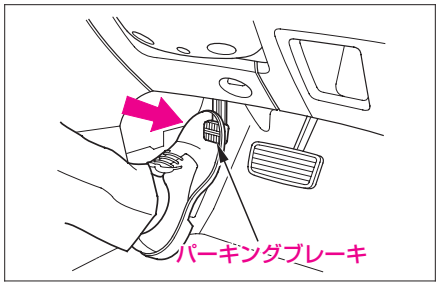
⚠注意

- エンジンを始動するときは、ブレーキペダルをしっかりと踏んでください。

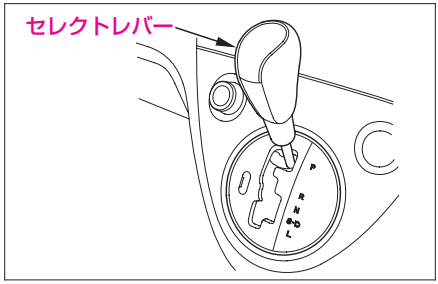
アドバイス

- 排気音が変わったり、車内でガソリンや排気ガスのにおいが消えない場合は、排気系や燃料系の異常が考えられますので、必ずホンダプリモ店で点検を受けてください。

①パーキングブレーキがかかっていることを確認します。
パーキングブレーキの操作
→106ページ



②セレクトレバーが[P]の位置にあることを確認してください。
セレクトレバーの操作
→108、114ページ

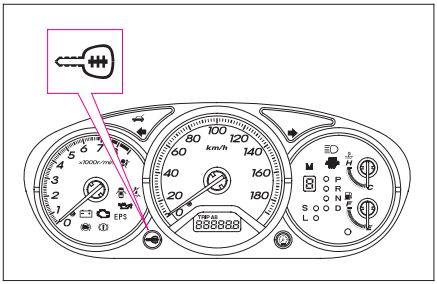


③ブレーキペダルをしっかりと踏みます。

④ **イモビライザーシステム装備車**

エンジンスイッチを“II”に回してから、メーター内のイモビライザーシステム表示灯が消灯するのを確認します。

イモビライザーシステム　→33ページ
イモビライザーシステム表示灯
→87ページ



⑤アクセルペダルを踏まずに、エンジンが始動するまでスターターを回してください。



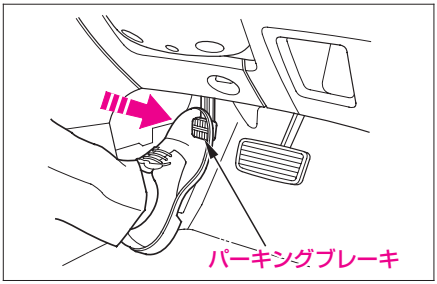
知 識

- 消費電力の大きいライト類、エアコン、リヤデフロスターのスイッチは“OFF”にした方が始動は容易になります。
- バッテリーあがりを防ぐため、スターターは連続して15秒以上回さないでください。15秒回してもエンジンが始動しなかったときは、一度キーを“I”に戻して10秒以上待ってから再始動してください。
- エンジンがあたたまっていると始動に時間がかかることがあります。アクセルペダルを半分程度踏み込んだまま、スターターを回してください。エンジンが始動したらアクセルペダルを徐々に戻してください。
- エンジン始動後は、エンジン制御システムの働きによりエンジン回転が高くなりますが、自動的に適正回転に下がります。

パーキングブレーキ

かけるとき

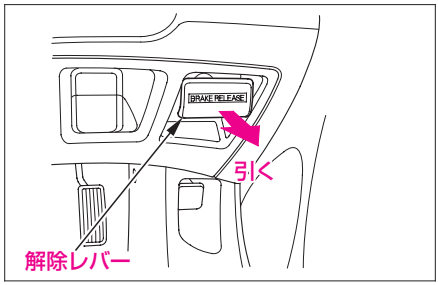
左足でパーキングブレーキペダルをいっぱいに踏み込みます。



後輪ブレーキがききます。

解除するとき

解除レバーを引きます。



⚠注意

●パーキングブレーキをかけたまま走行しないでください。
ブレーキが過熱し効きが悪くなるおそれがあります。

知 識

●駐車するときは、車が動き出さないように必ずパーキングブレーキをかけてください。

寒冷時のパーキングブレーキの取り扱い　→260ページ

セレクトレバーの操作

オートマチック車：X、XS（ホンダマルチマチック車）

●それぞれの位置のはたらき

P パーキング

駐車およびエンジンを始動する位置。
キーを抜く位置。

知 識

- セレクトレバーが回以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。

R リバース

車を後退(バック)させる位置。
チャイムが鳴り、セレクトレバーが回に入っていることを運転者に知らせます。

N ニュートラル

中立位置。
(エンジン始動できますが、安全のため回で行ってください。)

D **S** ドライブ

通常の走行をする位置。

XS 7速モード(7速オートシフトモード、7速マニュアルシフトモード)にすることができます。

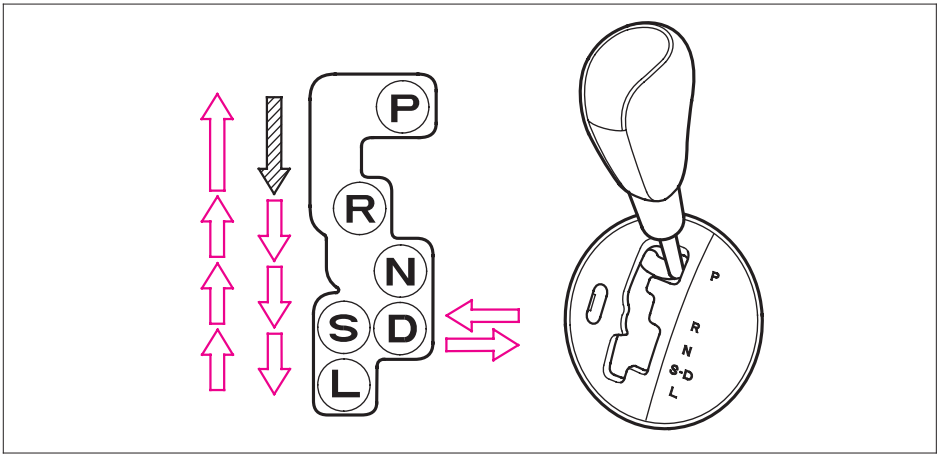
上り坂、下り坂に使う位置。
(高回転領域を有効に使用できます。)

XS 7速モード(7速オートシフトモード、7速マニュアルシフトモード)にすることができます。

L ロー

エンジンブレーキが必要なときに使う位置。

●セレクトレバーの動かしかた



ブレーキペダルを踏んだまま、レバーをゲートにそって操作します。

そのままゲートにそって操作します。

知 識

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- 回のときは、レバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが“I”または“0”のときは、ブレーキペダルを踏んでも回から他の位置に切り換えられません。

⚠注意

- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
  シフトダウンする際の車速には、十分注意してください。

知 識

- 法定速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。

● 7速モード

XS

7速モードにするとトランスミッションの変速比を1速から7速に設定します。
7速オートシフトモードと7速マニュアルシフトモードを選択できます。

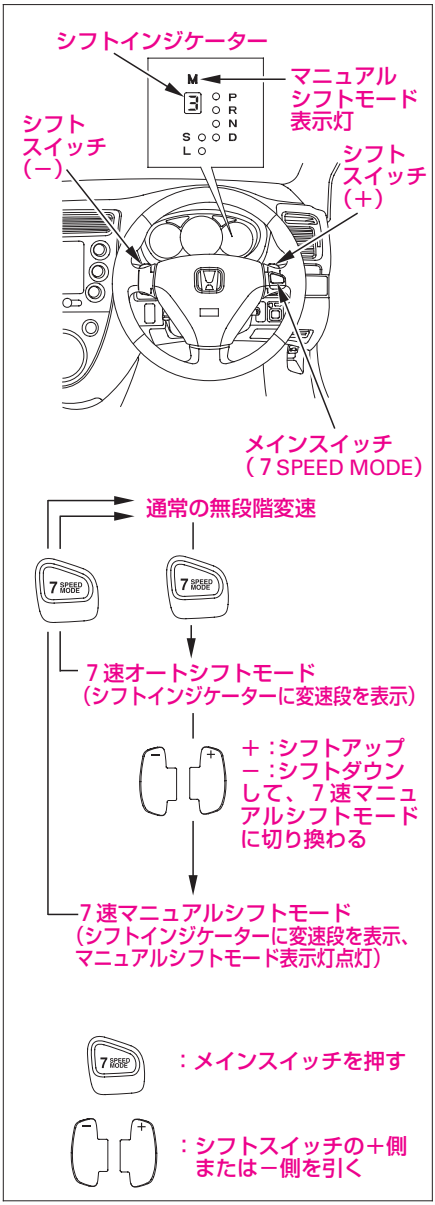
7速オートシフトモード →111ページ
7速マニュアルシフトモード →112ページ

モードの切り換え

セレクトレバーがDまたはSのとき、メインスイッチを押すと7速オートシフトモードに切り換わります。（シフトインジケーターに変速段を表示）
7速オートシフトモードのときにシフトスイッチを引くと7速マニュアルシフトモードに切り換わります。（シフトインジケーターに変速段を表示、マニュアルシフトモード表示灯点灯）
解除するときは、メインスイッチを押します。

知 識

- 次の場合、7速オートシフトモードまたは、7速マニュアルシフトモードは、自動的に解除されます。
  - セレクトレバーを操作したとき
  - エンジンスイッチを”I”にしたとき



7速オートシフトモード

7速オートシフトモードは、1速から7速まで自動変速します。

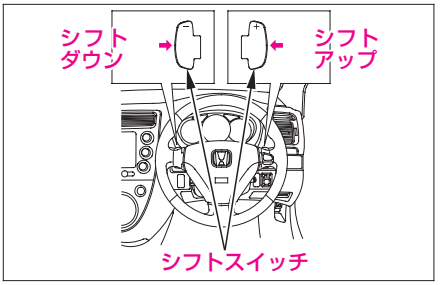
知 識

- セレクトレバーの位置がⓈのときは、Ⓓのときより高回転領域を有効に使用できます。
- セレクトレバーの位置がⒹのときで、シフトインジケーターが7速を表示中に条件を満たすと燃費向上のため、さらに高速の変速比に切り換わります。このとき、シフトインジケーターは7速のままとなります。

7速マニュアルシフトモード

7速マニュアルシフトモードは、ハンドルから手を離さずにマニュアルシフト操作ができます。

スイッチの＋側を引くとシフトアップ（高速側に変速）
スイッチの－側を引くとシフトダウン（低速側に変速）します。



知 識

- シフトスイッチの操作1回で、変速段を1段変速します。連続して操作したときは、変速段を連続して変速します。シフトスイッチを引いたままでは、連続変速しません。続けて変速するときは、一旦シフトスイッチから指を離してから操作してください。
- シフトスイッチを引いたまま、もう一方のシフトスイッチを引いても変速しません。
- シフトスイッチの＋側と－側を同時に引いても変速しません。

・操作受け付けエンジン回転数

7速マニュアルシフトモードでは、以下の条件のときにシフトスイッチを操作すると変速します。

シフトアップ･･･
　変速後のエンジン回転数が1,200rpm以上になるとき
シフトダウン･･･
　変速後のエンジン回転数が6,500rpm以下になるとき

知 識

- 7速マニュアルシフトモードでは、発進は1速のみで行えます。
- 以下の場合、自動的に変速します。
  - エンジン回転数が6,500rpm以上になるとシフトアップします。
  - エンジン回転数が1,200rpm以下になるとシフトダウンします。
- セレクトレバーの位置が□のときで、シフトインジケーターが7速を表示中に条件を満たすと燃費向上のため、さらに高速の変速比に切り換わります。このとき、シフトインジケーターは7速のままとなります。

セレクトレバーの操作

●それぞれの位置のはたらき

オートマチック車：X4
（4速オートマチック車）

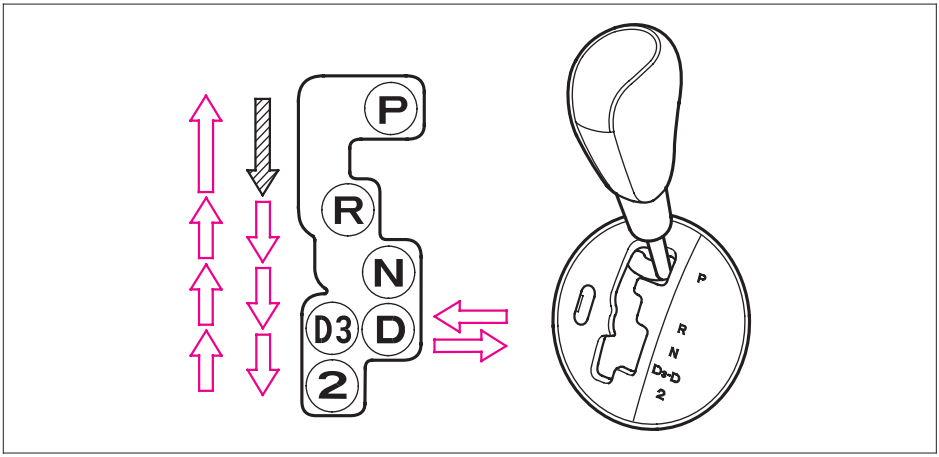
P	パーキング	駐車およびエンジンを始動する位置。 キーを抜く位置。

知 識

- セレクトレバーが回以外のときは、エンジンスイッチが“0”まで回らないので、キーを抜くことができません。

R	リバース	車を後退(バック)させる位置。 チャイムが鳴り、セレクトレバーが回に入っていることを運転者に知らせます。
N	ニュートラル	中立位置。 (エンジン始動できますが、安全のため回で行ってください。)
D	ドライブ	通常の走行をする位置。 (1速から4速まで自動的に変速されます。)
D3		上り坂、下り坂に使う位置。 (1速から3速まで自動的に変速されます。)
2	セカンド	エンジンブレーキが必要なときや、雪道などの滑りやすい路面での発進に使う位置。 (2速のままで変速されません。)

●セレクトレバーの動かしかた



ブレーキペダルを踏んだまま、レバーをゲートにそって操作します。

そのままゲートにそって操作します。

知 識

- セレクトレバーの操作は誤操作防止のため各位置ごとに節度をつけ、確実に行ってください。
- Ⓟのときは、レバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- エンジンスイッチが“Ⅰ”または“0”のときは、ブレーキペダルを踏んでもⓅから他の位置に切り換えられません。

●速度範囲

エンジンを過回転させないために、下表の各セレクトレバー位置での速度範囲内で切り換えを行ってください。

セレクトレバーの位置	速　度　範　囲	変　速　範　囲
D	0 km/h～	1↔2↔3↔4速
D3	0 km/h～	1↔2↔3速
2	0～100km/h	2速固定

⚠注意

- 滑りやすい路面では、急激なエンジンブレーキがタイヤのスリップを招くことがあります。
  シフトダウンする際の車速には、十分注意してください。

知　識

- 法定速度を守って走行してください。
- 1,000km走行するまではエンジンや駆動系の保護のため急発進、急加速を避け控えめな運転をしてください。
- エンジンの回転をあやまって限界回転数以上(レッドゾーン)で運転した場合、エンジン保護装置により、燃料供給が停止されます。そのとき、軽い衝撃を感じることがありますが、異常ではありません。

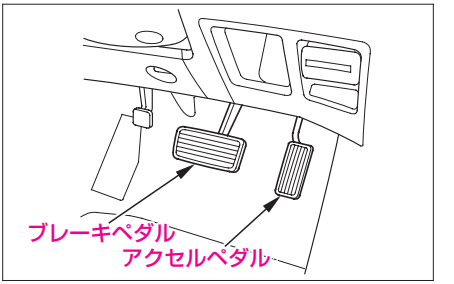


オートマチック車の運転のしかた

オートマチック車は、クラッチ操作とギヤの切り換えを自動化したもので、その分、操作の負担が軽くなり、運転が楽になりますが、運転の基本を十分理解し、正しく操作する習慣をつけてください。

エンジンをかける前に

正しい運転姿勢をとり、右足でアクセルペダルとブレーキペダルが確実に踏めるか確認します。



知 識

- ペダルの踏みまちがいを防ぐため、ペダルの位置を実際に踏んでみて足におぼえさせておくことが重要です。
  また、不慣れな左足では、適切なブレーキ操作ができません。
- 車を少し移動させるときにもペダルが確実に踏めるように、正しい運転姿勢をとりましょう。

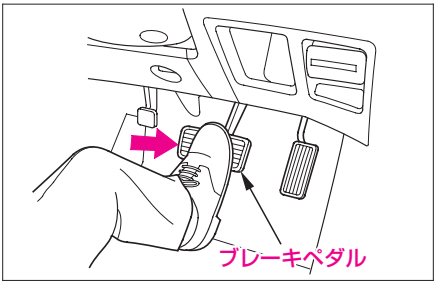
エンジン始動

①パーキングブレーキがかかっていることを確認。
②セレクトレバーがPに入っていることを確認。

知 識

- Nでも始動できますが、安全のため駆動輪が固定されるPで行ってください。

③ブレーキペダルを右足で踏んで始動。

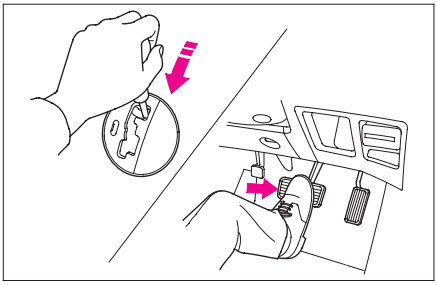


知 識

- **イモビライザーシステム装備車**
  イモビライザーシステム表示灯が点滅しているときはエンジンを始動することができません。
  イモビライザーシステム →33ページ
  イモビライザーシステム表示灯 →87ページ
- 始動時にアクセルペダル操作が必要な場合は、始動後、右足でブレーキペダルを踏んでください。

発進

①右足でブレーキペダルを踏んだまま、セレクトレバーを前進はD、後退はRに入れる。



⚠注意

- アクセルペダルを踏んだまま、セレクトレバーを操作しないでください。急発進して思わぬ事故の原因になります。

②レバーの位置を目で再確認。
③パーキングブレーキを解除する。
④ブレーキ警告灯が消灯したことを確認。
（→90ページ）
⑤ブレーキペダルを徐々に離して、アクセルペダルをゆっくりと踏む。

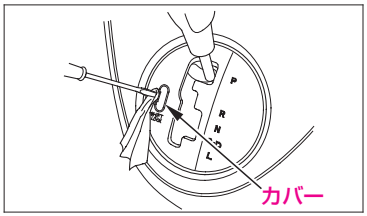
知 識

- セレクトレバーをPN以外に入れると、クリープ現象により、アクセルペダルを踏まなくても車が動き出します。ブレーキペダルを踏んでいてください。
- エンジン始動直後は、自動的にエンジンの回転が上がり、クリープ現象が強くなりますので、ブレーキペダルはしっかり踏んでいてください。
- セレクトレバーを助手席側に動かしたままブレーキペダルを踏んだ場合、レバーの操作ができないことがあります。先にブレーキペダルを踏んでください。
- マニュアル車は、発進時の速度を、クラッチ操作とアクセル操作を併用して調節しますが、オートマチック車は、アクセル操作のみで行うので、アクセル操作は慎重に行ってください。

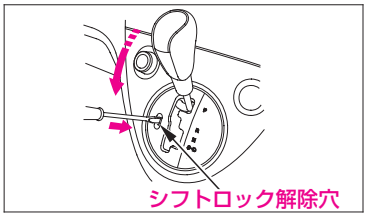
知 識

●万一、ブレーキペダルを踏んでもPからRや、NからRの位置に切り換えられないときは、

①ドライバーの先端に布等をまいてシフトロック解除穴のカバーを外します。



②シフトロック解除穴にキーまたはドライバーを差し込み、押しながらレバーを操作してください。



坂道での発進

セレクトレバーの位置を目で確認し、
・パーキングブレーキをかけたままブレーキペダルを離し、
・アクセルペダルをゆっくり踏んで、
・車が動き出す感触を確認しながら、
・パーキングブレーキを解除して発進。

知 識

●ホンダマルチマチック車（X、XS）は、燃費向上や停車時の振動およびブレーキ踏力の低減のため、ブレーキペダルを踏んでいるときのクリープ力を弱く設定しています。また、後退時のクリープ力も弱く設定しています。
坂道での発進は必ずパーキングブレーキを併用し、車が後退しないように先にブレーキペダルを離してアクセルペダルに踏みかえてから、パーキングブレーキをもどしてください。

走行

走行中はセレクトレバーをNにしないでください。

知 識

- Nにするとエンジンブレーキが全くきかなくなるため思わぬ事故の原因になります。
  またNにしても燃費の差はほとんどありません。



⚠注意

- フットブレーキを使いすぎると、ブレーキが過熱してききが悪くなるおそれがあります。長い下り坂や急な下り坂では、必ずエンジンブレーキを併用してください。

エンジンブレーキ →18ページ

X、XS（ホンダマルチマチック車）

通常走行

セレクトレバーをDにして走行します。アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、低速から高速まで自動的に変速されます。

XS

・7速オートシフトモード走行

アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、1速から7速まで自動的に変速されます。

モードの切り換え →110ページ
7速オートシフトモード →111ページ

・7速マニュアルシフトモード走行

マニュアルシフト操作ができます。走行状況に合わせ、シフトスイッチを使って変速段を選択して走行します。

モードの切り換え →110ページ
7速マニュアルシフトモード →112ページ

急加速したいとき
アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速します。

上り坂走行
坂の勾配に応じ、セレクトレバーをⓈまたはⓁにしておくと、より力強い走行ができます。

下り坂走行
下り坂をⒹのまま走行すると、エンジンブレーキのききが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、セレクトレバーをⓈまたはⓁにします。

XS
7速マニュアルシフトモードのときには、走行速度に合わせ、変速段を一段ずつ落としてエンジンブレーキを併用してください。

X4
（4速オートマチック車）

通常走行
セレクトレバーをⒹにして走行します。アクセルペダルの踏み加減と走行速度により、1速から4速まで自動的に変速されます。

急加速したいとき
アクセルペダルをいっぱいに踏み込むと、キックダウンして急加速します。

上り坂走行
坂の勾配に応じ、セレクトレバーを㊸または②にしておくと、エンジン回転数の変化が少ない、なめらかな走行ができます。

下り坂走行
下り坂をⒹのまま走行すると、エンジンブレーキのききが弱く、速度が出すぎてしまうことがあります。このようなときには、セレクトレバーを㊸または②にします。

停車

①Dのままブレーキペダルをしっかりと踏んでおく。
必要に応じてパーキングブレーキをかける。

アドバイス

- アクセルペダルとブレーキペダルを同時に踏んだり、上り坂でPN以外に入れた状態で、アクセルをふかしながら車を停止させたりしないでください。
  トランスミッションが過熱し、故障の原因となります。

知 識

- 上り坂での停車はクリープ現象で前へ進もうとする力よりも車が後退しようとする力の方が大きくなり、車が後退することがあります。ブレーキペダルを踏み、パーキングブレーキをかけてください。
- セレクトレバーがPN以外でエアコンスイッチが入っている場合などは、エンジン回転数が断続的に高くなりクリープ現象が強まります。ブレーキペダルを特にしっかりと踏み込んでください。

②停車時間が長くなるときはセレクトレバーをNに入れる。

⚠注意

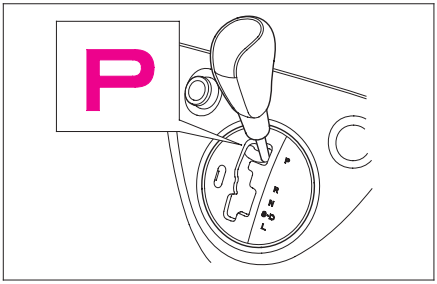
- 停車中、空ぶかしをしないでください。
  万一、セレクトレバーがPN以外のとき、思わぬ急発進の原因になります。

知 識

- 停車後、再発進するときは、思い違いのないようセレクトレバーがDにあることを確認してください。
- セレクトレバーがNでもエンジンが冷えているときは、トランスミッションオイルの粘性により車がわずかに動き出すことがありますので、ブレーキペダルをしっかりと踏み、必要に応じてパーキングブレーキをかけてください。

駐車

①車を完全に止める。
②ブレーキペダルを踏んだまま、パーキングブレーキをかける。
③セレクトレバーをPに入れる。



知 識

●駐車の際は、セレクトレバーが必ずPに入っていることを確認してください。セレクトレバーがPのときは、駆動輪が固定されるため、車が動き出す心配がなく安全です。

④エンジンを止める。

⚠注意

●エンジンをかけたままにしておくと、万一、セレクトレバーがPN以外に入っていたとき、クリープ現象で車がひとりでに動き出したり、乗り込むときに誤ってアクセルペダルを踏み急発進するおそれがあります。

アドバイス

●車が完全に止まらないうちにPに入れないでください。トランスミッション破損の原因となります。

知 識

●環境保護のため駐車時にはエンジンを止めましょう。

ほかに気をつけたいこと

⚠注意

- セレクトレバーは正しい位置で使用してください。
  坂道などで、前進(Ⓓ、Ⓢ、ⓁまたはⒹ、Ⓓ₃、②)の位置にしたまま惰性で後退したり、後退(Ⓡ)の位置にしたまま前進したりすると、エンジンが停止してブレーキの効きが悪くなったり、ハンドル操作が重くなり、思わぬ事故の原因となるおそれがあります。

車を少し移動させるとき

このような場合でも、正しい運転姿勢をとり、ブレーキペダルとアクセルペダルが確実に踏めるようにしてください。

車を後退させるとき

この場合、体をうしろにひねった姿勢になり、ペダルの操作がしにくくなります。ブレーキペダルは確実に踏めるよう注意してください。

3

安全装備

●SRSエアバッグシステム
SRSエアバッグシステムの
しくみ ……128
作動するとき ……130
作動しないとき ……131
SRSエアバッグシステムの
効果を十分に発揮させる
ために ……132
お子さまを乗せるときは ……133
取り扱いについて ……134

●サイドエアバッグシステム
サイドエアバッグシステムの
しくみ ……136
作動するとき ……138
作動しないとき ……139
サイドエアバッグシステムの
効果を十分に発揮させる
ために ……140
乗員姿勢検知システム ……142
お子さまを乗せるときは ……143
取り扱いについて ……144

**●シートベルト
プリテンショナー**
シートベルトプリテンショナー
のしくみ ……146
取り扱いについて ……147

**●アンチロックブレーキシステム
（ABS）**
ABSのしくみ ……148
運転のしかた ……148
取り扱いについて ……149

●四輪駆動機構（4WD）
運転するときは ……150
取り扱いについて ……150

●その他の安全装備 ……151

SRSエアバッグシステム
（運転席／助手席用シートベルト補助乗員保護装置）

SRSエアバッグシステムのしくみ

●SRSエアバッグシステムとは

前方向からの衝突により、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和する装置です。

SRSエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- SRSエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときSRSエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

*SRS：サプリメンタルレストレイントシステム（Supplemental Restraint System）の略でシートベルトの補助拘束装置の意味

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃（正しくシートベルトを着用していてもハンドルに顔面があたり、けがをするような場合）を感知するとシステムが作動し、SRSエアバッグが膨らんで運転者および助手席同乗者の顔面への衝撃を緩和します。

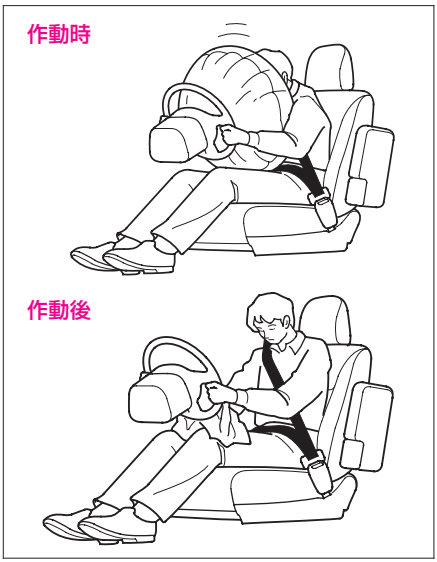
⚠注意

- SRSエアバッグが膨らんだ直後は、SRSエアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知 識

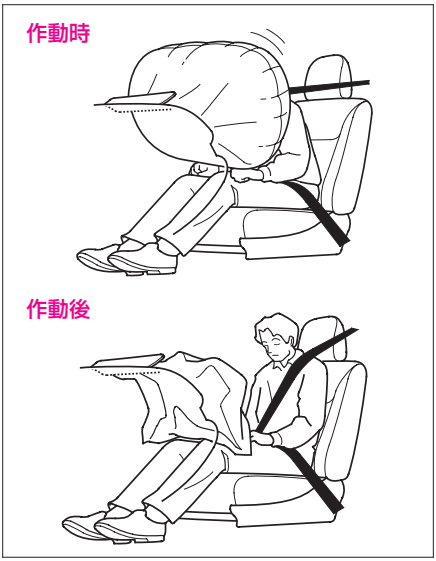
- 車体が衝撃を十分に吸収できた場合、システムは作動しません。
- SRSエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、SRSエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 膨らんだSRSエアバッグはすぐにしぼみます。視界をさまたげません。
- SRSエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目や皮膚などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激することがあります。
- SRSエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  ホンダプリモ店で交換してください。

運転席用SRSエアバッグシステム



助手席用SRSエアバッグシステム

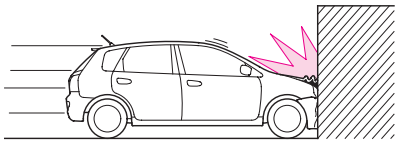
助手席用SRSエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。



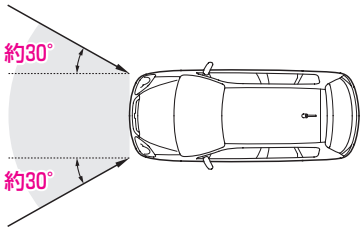
作動するとき

次のような場合に作動します。

20～30km/h以上の速度で、きわめて厚い固定されたコンクリートの壁に真正面から衝突したときと同等か、それ以上の衝撃を受けたとき



車両の前方左右約30度以内の方向から強い衝撃を受けたとき

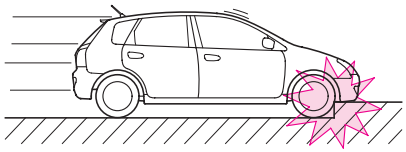


知 識

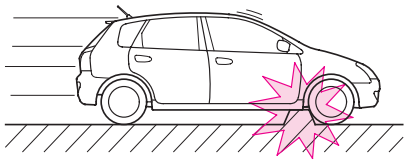
- 衝撃を吸収できるもの（車やガードレールのように変形するもの）に衝突した場合、SRSエアバッグが作動するときの速度（車速）は高くなります。

次のような場合、車両下部に強い衝撃を受けたとき作動することがあります。車両に衝撃を受けないように十分に速度を落とし障害物をさけて走行してください。

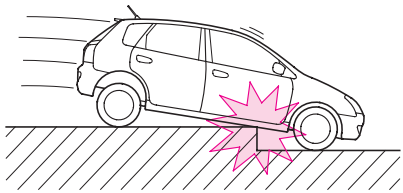
縁石などに衝突したとき



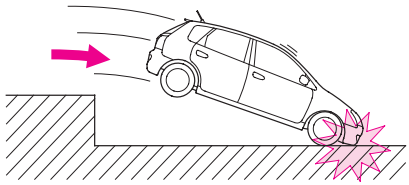
突起物などに衝突したとき



深い穴や溝などに落ちたとき

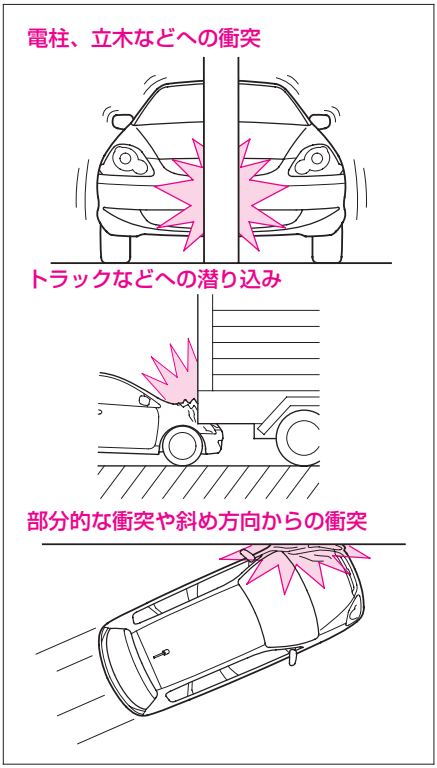


高いところから落ちたとき



作動しないとき

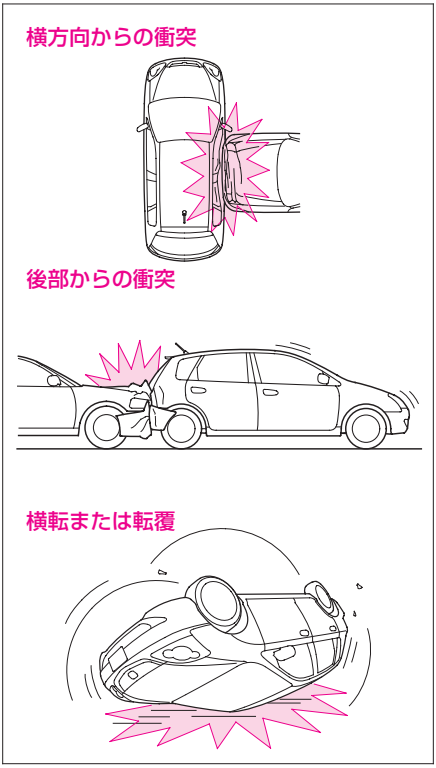
衝突の位置、衝撃の度合い、角度によって、作動しないことがあります。



知 識

- 車体の部位によって衝撃の吸収度合いが異なりますので、損傷状態の大小とSRSエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

シートベルトだけで乗員を保護できるような低い速度での衝突や次のような場合、乗員保護の効果がないので作動しません。



知 識

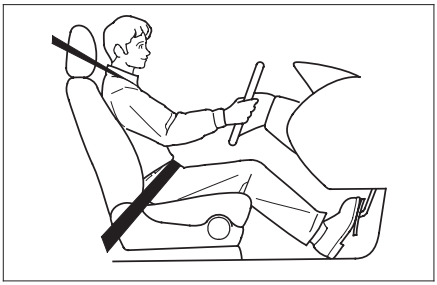
- 事故の状況、形態によっては、SRSエアバッグが作動することがあります。

SRSエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

運転席

正しい運転姿勢（シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態）がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。

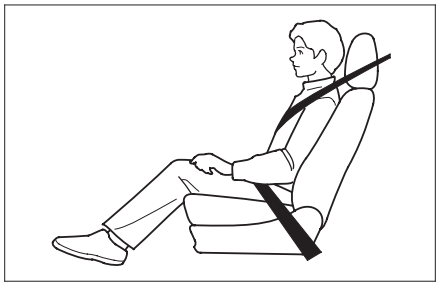


⚠警告

- ハンドルに顔や胸などを近づけていると、SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



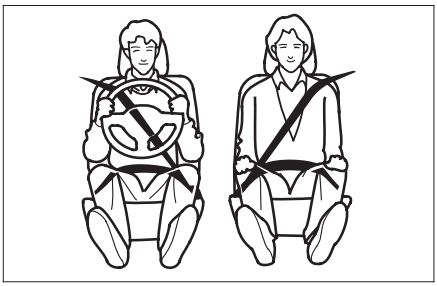
⚠警告

- インストルメントパネルに顔や胸などが近づかないようにシートを後ろに下げてください。また、インストルメントパネルに手や足などを置かないでください。
  SRSエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、重大な傷害を受けるおそれがあります。

お子さまを乗せるときは

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。

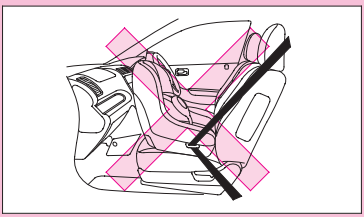


お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

●チャイルドシートの取り付けについて

⚠警告

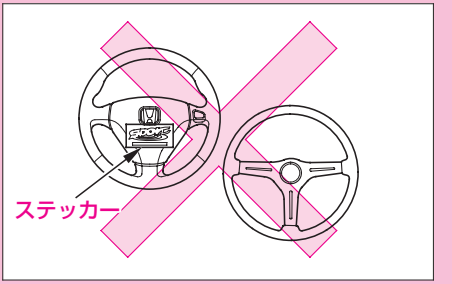
- 助手席には乳児用シートを取り付けないでください。また、幼児用シートを後ろ向きに取り付けないでください。SRSエアバッグが膨らむ際、乳児用シートや、幼児用シートの背面に強い衝撃を受け、重大な傷害を受けたり、死亡するおそれがあります。
  また、やむをえず幼児用シートを前向きに取り付ける場合は、SRSエアバッグから遠ざけるため、シートを一番後ろに下げてください。



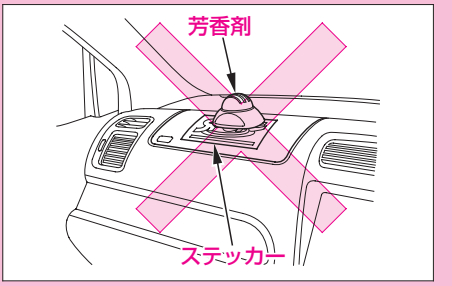
取り扱いについて

⚠注意

- SRSエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- ハンドルを交換したり、パッドにステッカー類を貼ったりすると正常に機能しなくなります。



- インストルメントパネル上面にステッカー類を貼ったり、アクセサリーや芳香剤など物を置かないでください。
  フロントガラスにアクセサリーなどを取り付けたり、ルームミラーにワイドミラーを取り付けたりしないでください。
  また、SRSエアバッグと乗員との間にテレビなどの用品を取り付けたり、物を置いたりしないでください。
  正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。

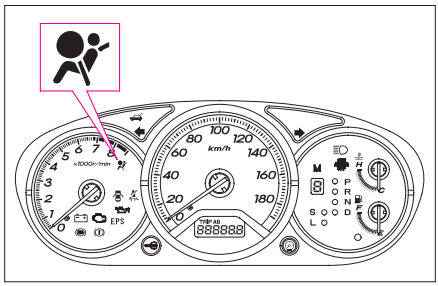


知 識

- ハンドルまわり、インストルメントパネルまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよびダッシュボード周辺の板金塗装および修理をする場合は、SRSエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずホンダプリモ店にご相談ください。
- SRSエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずホンダプリモ店にご相談ください。正しく取り扱わないとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。
- サスペンションの改造をしないでください。車高やサスペンションの硬さが変わるとSRSエアバッグの誤作動につながります。（Honda純正品を除く）

●SRSエアバッグシステム警告灯

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダプリモ店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき

必要なときにSRSエアバッグが膨らまないおそれがあります。

サイドエアバッグシステム

注文装備

サイドエアバッグシステムのしくみ

●サイドエアバッグシステムとは

側面からの衝突により、サイドエアバッグが膨らんで乗員(運転者または助手席同乗者)とドアの間に入り込むことにより、ドアと乗員の胸部などが衝突するときの衝撃を緩和する装置です。

サイドエアバッグシステムはシートベルトに代わるものではありません。必ず、シートベルトを着用してください。

⚠警告

- サイドエアバッグシステム装備車であっても、必ずシートベルトを着用してください。
  シートベルトを正しく着用し、正しい乗車姿勢をとらないと衝突などのときエアバッグの効果が十分に発揮されず、重大な傷害や死亡などの危険性が高くなります。

●どのように作動するか

エンジンスイッチが"II"のとき、側面からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃(胸部に重傷を及ぼすような場合)を感知するとシステムが作動し、衝撃を受けた側のサイドエアバッグが膨らんで乗員(運転者または助手席同乗者)とドアの間に入り込むことにより、ドアと乗員の胸部などが衝突するときの衝撃を緩和します。

助手席側は乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

乗員姿勢検知システム　→142ページ

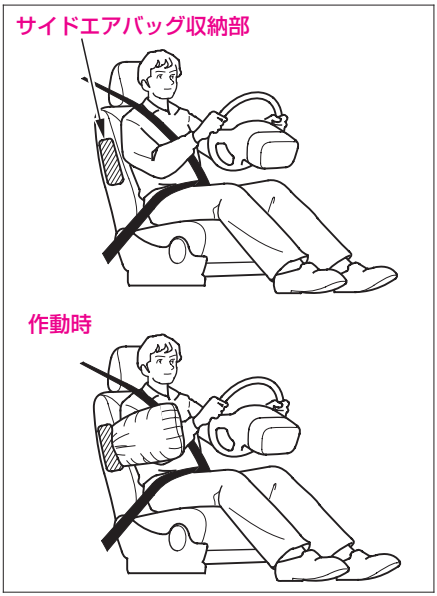
⚠注意

- サイドエアバッグが膨らんだ直後は、サイドエアバッグ構成部品に触れないでください。
  構成部品が熱くなっているため、やけどなど思わぬけがをすることがあります。

知　識

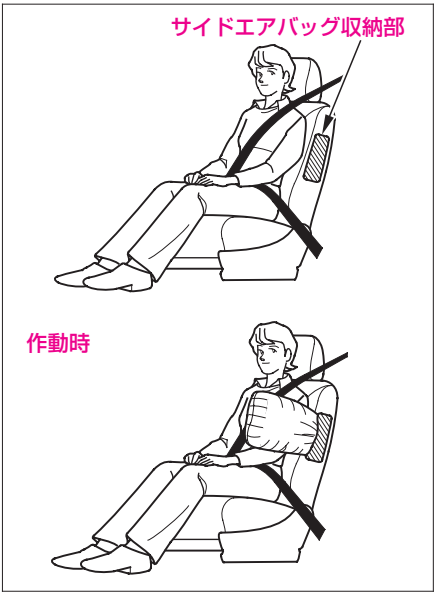
- サイドエアバッグは非常に速い速度で膨らむため、サイドエアバッグとの接触によりすり傷、やけど、打撲などを受けることがあります。
- 膨らんだサイドエアバッグはすぐにしぼみます。
- サイドエアバッグが膨らむと白煙が出ますが、火災ではありません。また、人体への影響もありません。ただし、残留物(カスなど)が目や皮膚などに付着したときには、できるだけ早く水で洗い流してください。
  皮膚の弱いかたなどは、まれに皮膚を刺激することがあります。
- サイドエアバッグは一度膨らむと再使用できません。
  ホンダプリモ店で交換してください。

運転席サイドエアバッグシステム



助手席サイドエアバッグシステム

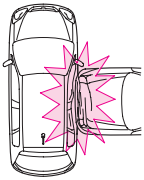
助手席用サイドエアバッグシステムは、同乗者がいなくても作動します。



作動するとき

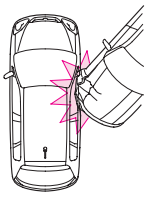
次のような場合に作動します。

約25km/h以上の速度で自車と同等の車が真横から側面衝突したときと同等かそれ以上の衝撃を受けたとき



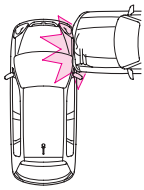
知 識

- 側面に斜め方向から衝突された場合、サイドエアバッグが作動するときの速度(車速)は高くなります。

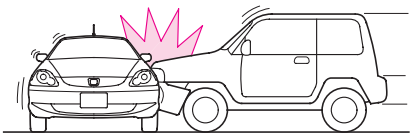


次のような場合、作動しないことがあります。

前席乗員付近以外の側面に衝突されたとき



車高の高い車に側面衝突されたとき



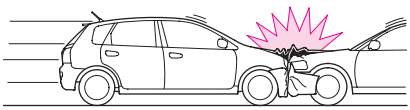
知 識

- サイドエアバッグは乗員の受ける衝撃の大きさによって作動するようになっていますので車両の損傷状態の大小とサイドエアバッグの作動は必ずしも一致しません。

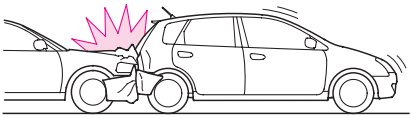
作動しないとき

低い速度での衝突や次のような場合、サイドエアバッグが膨らんでも乗員保護の効果がないので作動しません。

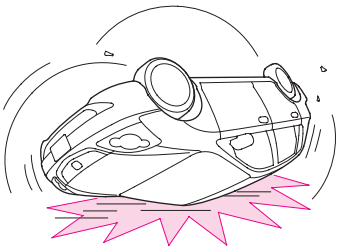
正面衝突



後部からの衝突



横転または転覆



知　識

- 事故の状況、形態によっては、サイドエアバッグが作動することがあります。

助手席側は、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断した場合は、サイドエアバッグの作動を自動停止します。

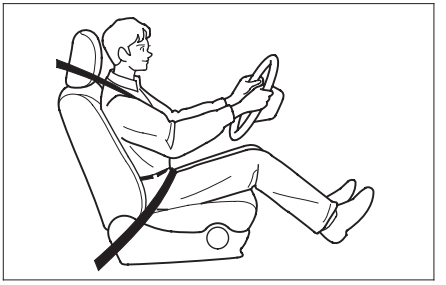
乗員姿勢検知システム　→142ページ

サイドエアバッグシステムの効果を十分に発揮させるために

●正しい乗車姿勢で

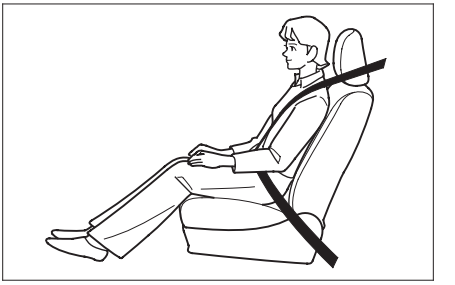
運転席

正しい運転姿勢（シートに深く腰かけた状態で、背もたれから背を離すことなくペダルを十分に踏み込め、ハンドルが楽に操作できる状態）がとれる範囲で、シートを後ろに下げます。



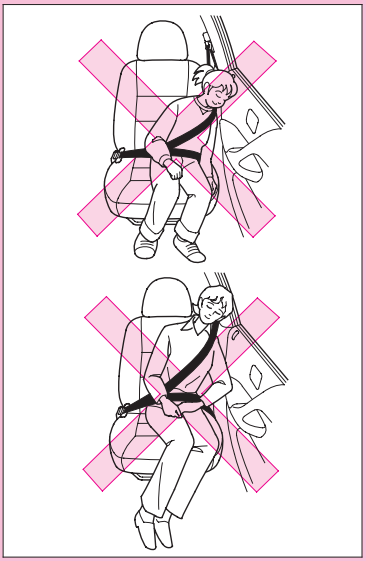
助手席

シートを後ろに下げて深く腰かけ、背中を背もたれから離さないようにします。



⚠注意

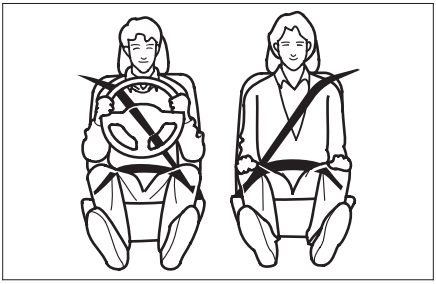
- フロントドアに寄りかからないようにしてください。サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。



- サイドエアバッグ格納部に手や顔などを必要以上に近づけないでください。また、後席同乗者は前席の背もたれを抱えないでください。サイドエアバッグが膨らむ際、強い衝撃を受け、傷害を受けるおそれがあります。

●シートベルトは必ず着用

このシステムは、シートベルトと併用することでその効果を発揮します。
必ず、シートベルトを着用してください。



乗員姿勢検知システム(助手席のみ)

●乗員姿勢検知システムとは

乗車時の姿勢が不適切な場合、サイドエアバッグが膨らむことにより重大な傷害を受けるおそれがあるため、助手席乗員の姿勢を検知し、サイドエアバッグの作動を自動的に停止する装置です。



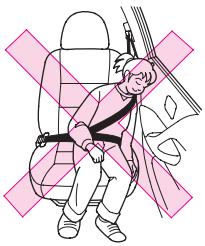
知 識

- シート表皮の裏にセンサーが取り付けられているため、次のような場合には、乗員姿勢検知システムが正常に機能しないおそれがあります。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき
  - ・シートにクッションなどを装着しているとき
  - ・ダウンジャケット等の厚い上着を着ているとき
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき

●サイドエアバッグの作動を自動停止するとき

次のような場合、サイドエアバッグの作動を自動停止します。このときメーター内のサイドエアバッグ自動停止表示灯が点灯します。

小さなお子さまがドアに寄りかかって、サイドエアバッグがとび出す付近に頭があるようなとき

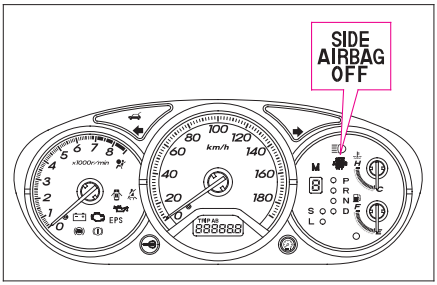


知 識

- 次のような場合でも、サイドエアバッグの作動を自動停止することがあります。
  - ・小柄な大人の方が上のイラストと同じような姿勢をとったとき
  - ・大人の方が前かがみになるまたは、寝そべっていて、ドア側に寄りかかっているとき

●サイドエアバッグ自動停止表示灯

メーター内に組み込まれており、乗員姿勢検知システムが乗車姿勢を不適切であると判断し、サイドエアバッグの作動を自動停止しているときに点灯します。
表示灯が点灯したときは、上体を起こして座ってください。また、小さなお子さまの場合は、後席に乗せてください。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約5秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 表示灯が次のような状態になったときは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダプリモ店で点検を受けてください。
  - ・正しい乗車姿勢をとっても消灯しないとき、あるいは助手席に乗員がいないのに消灯しないとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約5秒経過しても消灯しないとき

知識

- 次のような場合は、表示灯が点灯することがあります。表示灯が点灯しているときは、サイドエアバッグの作動を自動停止します。
  - ・シートの背もたれがぬれているとき
  - ・金属など電気を通す物が接しているとき
  - ・水分を含んだ物を助手席に置いているとき

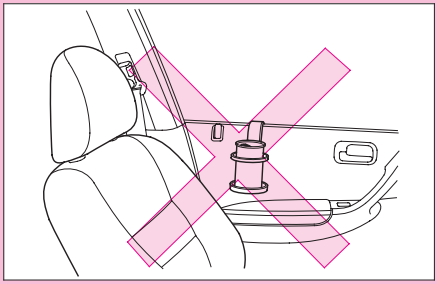
お子さまを乗せるときは

お子さまは、後席に乗せ必ずシートベルトを着用させてください。
正しく着用できない小さなお子さまは、体格に合わせてチャイルドシートをお使いください。

取り扱いについて

⚠注意

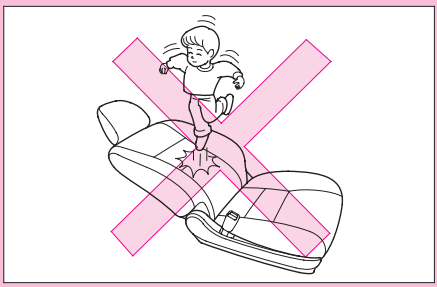
- サイドエアバッグの取り外し、分解などはしないでください。
  不適切に扱うと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。
- フロントドアやその周辺にカップホルダーなどの用品を取り付けないでください。
  また、フロントシートとドアの間付近に傘などの物を置かないでください。
  サイドエアバッグはドアに添って膨らむため、正常に機能しなくなったり、作動時にこれらの物が飛ぶことがあります。



- フロントシートにシートカバーを取り付けないでください。サイドエアバッグはシートの背もたれ外側に収納されていて、エアバッグ収納部のカバーを破って膨らむため、正常に機能しなくなるおそれがあります。



- フロントシートの背もたれを倒した状態でとびはねるなど、サイドエアバッグ収納部に無理な力を加えないでください。

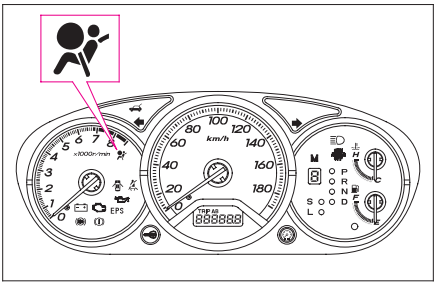


知 識

- フロントシートまわり、センターピラーまわりやセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品を取り付ける場合は、サイドエアバッグシステムに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずホンダプリモ店にご相談ください。
- サイドエアバッグシステム装備車を廃棄するときは必ずホンダプリモ店にご相談ください。正しく取り扱わないとサイドエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●サイドエアバッグシステム警告灯（SRSエアバッグシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、サイドエアバッグユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、サイドエアバッグシステムまたは、乗員姿勢検知システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダプリモ店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき

必要なときにサイドエアバッグが膨らまないおそれがあります。

シートベルトプリテンショナー

シートベルトプリテンショナーのしくみ

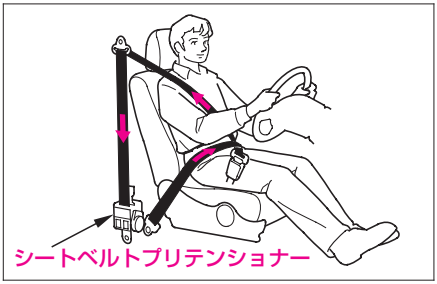
●シートベルト プリテンショナーとは

前方向からの衝突により、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高める装置です。SRSエアバッグシステムと同じ条件で作動します。

SRSエアバッグシステム　→128ページ

●どのように作動するか

エンジンスイッチが“II”のとき、前方向からの衝突により、センサーが一定以上の衝撃を感知するとシステムが作動し、前席シートベルトを瞬間的に引き込み、シートベルトの拘束効果をいっそう高めます。



⚠注意

- シートベルトを着用するときは、必ず次のことをお守りください。守らないとプリテンショナーが十分に効果を発揮しません。
  - シートベルトを正しく着用してください。

    シートベルト　→64ページ
  - 正しい運転(乗車)姿勢をとってください。

    正しい運転姿勢　→50ページ

知 識

- シートベルトプリテンショナーは一度作動すると、再使用できません。作動すると、シートベルトを引き出すことも巻き取ることもできなくなります。ホンダプリモ店で交換してください。
  なお、シートベルトを着用していなくても作動しますので、助手席側も同時に交換してください。

取り扱いについて

⚠注意

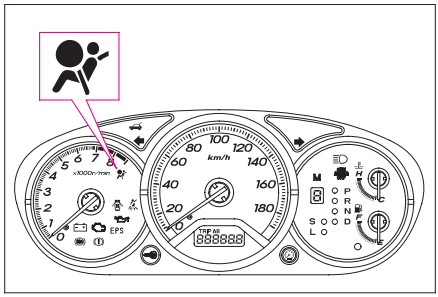
- シートベルト引き込み装置の取り外し、分解などはしないでください。
  不適切にあつかうと誤って作動したり、正常に機能しなくなります。

知 識

- シートベルト引き込み装置やセンターコンソール付近の修理、オーディオ等用品の取り付けおよび修理をする場合は、プリテンショナーに影響を及ぼすおそれがありますので、必ずホンダプリモ店にご相談ください。
- シートベルトプリテンショナー装備車を廃棄するときは、必ずホンダプリモ店にご相談ください。正しく取り扱わないとプリテンショナーとSRSエアバッグシステムが思いがけなく作動することがあります。

●シートベルトプリテンショナー警告灯（SRSエアバッグシステム警告灯兼用）

メーター内に組み込まれており、SRSユニットがシステムの異常を検出すると点灯します。



エンジンスイッチを“II”にしたときに約6秒間点灯して消えるのが正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダプリモ店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを“II”にしても点灯しないとき、あるいは約6秒経過しても消灯しないとき

必要なときにシートベルトが引き込まれないおそれがあります。

アンチロックブレーキシステム（ABS）

ABSのしくみ

●ABSとは

急制動や滑りやすい路面で制動するとき、車輪のロックを防止することで車両の姿勢を安定させ、ハンドルの効きを確保しようとする装置です。

●作動について

・ブレーキペダルを踏んだとき、ペダルが小刻みに動くことがあります。これはABSが作動しているときの現象で異常ではありません。そのまま、ブレーキペダルを強く踏み続けてください。



・低速（約10km/h以下）ではABSは作動せず、普通のブレーキと同じ作動になります。

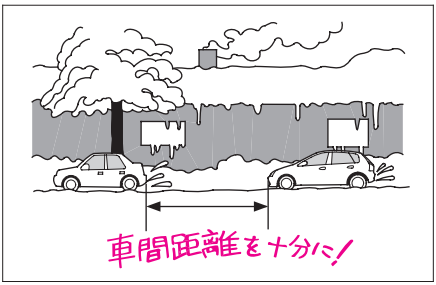
知 識

●エンジン始動後、最初の発進時に、エンジンルームからモーター音等が聞こえることがありますが、これはシステムの動作チェックをしている音で異常ではありません。

運転のしかた

・この装置は制動距離を短くするためのものではありません。ABSを装備していない車両と同様に、路面が滑りやすくなるほど長い制動距離が必要になります。
また、ABSが作動した状態でも車両の姿勢やハンドルの効きには限界がありますので、ハイドロプレーニング現象が起こりやすい雨天時の高速走行などにおいても過信せず、安全運転に心がけてください。

・悪路、砂利道、深い新雪などの路面では、ABSの装備されていない車両に比べて制動距離が長くなることがあります。
このような道路条件では速度は控えめにして車間距離を十分にとって運転してください。



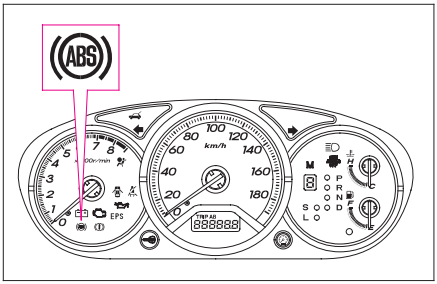
取り扱いについて

知 識

- タイヤは必ず四輪とも同一指定サイズのものをお使いください。サイズ(外径)の異なるタイヤを混用すると、ABSが正常に機能しなくなることがあります。

●アンチロックブレーキシステム(ABS)警告灯

メーター内に組み込まれており、ABSが異常のときに点灯します。



エンジンスイッチを"II"にしたとき点灯し、数秒後に消灯するのが正常です。
また、運転中に数秒間点灯してもすぐ消灯し、その後走行中に点灯しなければ正常です。

アドバイス

- 警告灯が次のような状態になったときは、システムの異常が考えられますので、すみやかにホンダプリモ店で点検を受けてください。
  - ・運転中に点灯したとき
  - ・エンジンスイッチを"II"にしても点灯しないとき、あるいは数秒経過しても消灯しないとき

  なお、この場合でも通常のブレーキとしての性能は確保されています。(ABSとしての作動はしません)
- 警告灯がブレーキ警告灯と同時に点灯したときは、ブレーキ力の配分機能も作動しないため、急ブレーキ時に車両が不安定になる可能性があります。高速走行や急ブレーキを避けて、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

四輪駆動機構(4WD)

×4

運転するときは

四輪駆動車(4WD車)は積雪地、砂地、ぬかるみ、急坂路など滑りやすい路面において二輪駆動車(2WD車)に比べて走破性にすぐれていますが、万能ではありません。アクセル、ハンドル、ブレーキの操作は一般の車と同じく慎重に行い、常に安全運転を心がけてください。

4WD車は、オフロードやラリー走行を目的とした車ではありません。必ず、次のことをお守りください。

- 砂地、ぬかるみ等、前輪が空転しやすいところでの連続走行はしないでください。
- 渡河などの水中走行はしないでください。
- ブレーキ性能は2WD車と比べてほとんど差がないので、滑りやすい路面での走行には十分車間距離をとってください。

知 識

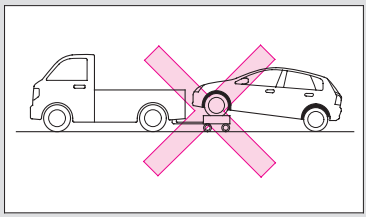
- 4WDの状態で走行中に車輪の空転が続いてシステム内の油温が上昇すると、システム保護のため4WDから2WDに切り換わることがあります。
  しばらくして油温が下がると、4WDに復帰します。

取り扱いについて

アドバイス

- 四輪とも、同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合いの異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響をあたえます。
- けん引される場合、前輪または後輪を台車に載せた(車輪が回転できない)状態でのけん引は、絶対に行わないでください。
  駆動装置が破損したり、車輪が台車からとび出すおそれがあります。

けん引 →204ページ



その他の安全装備

ほかに、次のような安全装備を採用しています。

●シフトロック装置
セレクトレバーの誤操作防止を助けます。
（→23ページ）

●ハイマウントストップランプ
ストップランプを高い位置にも設置し、後方から見えやすくしています。

●後席三点式シートベルト
上半身も拘束する三点式シートベルトを後席（外側２座席）にも採用しています。
（→67ページ）

●シートベルトリマインダー（非着用警報装置）
シートベルトの未着用をランプとブザーで知らせ、ベルトの着用を促します。
（→92ページ）

●ブレーキアシスト
緊急制動時に、より大きい制動力を発生させ運転者のブレーキ操作を補助する装置です。
ブレーキペダルを強く踏み込んだときに、ブレーキがより強く効くようになります。

●ドアビーム
側面から外力が加わったときに、ドアの変形を抑える効果があります。

●ロールオーバーバルブ
車が転倒したとき、燃料タンクからの燃料流出を防止します。

●難燃性材料使用の内装
フロアカーペットやシートなどには、燃え広がりにくい素材を採用しています。

●リヤワイパー
雨天時の後方視界の確保に効果があります。
（→102ページ）

4

ドライブを快適にする装備

●エアコン

吹き出し風の調節 ……155
エアコンインデックス ……156
オートエアコン ……158

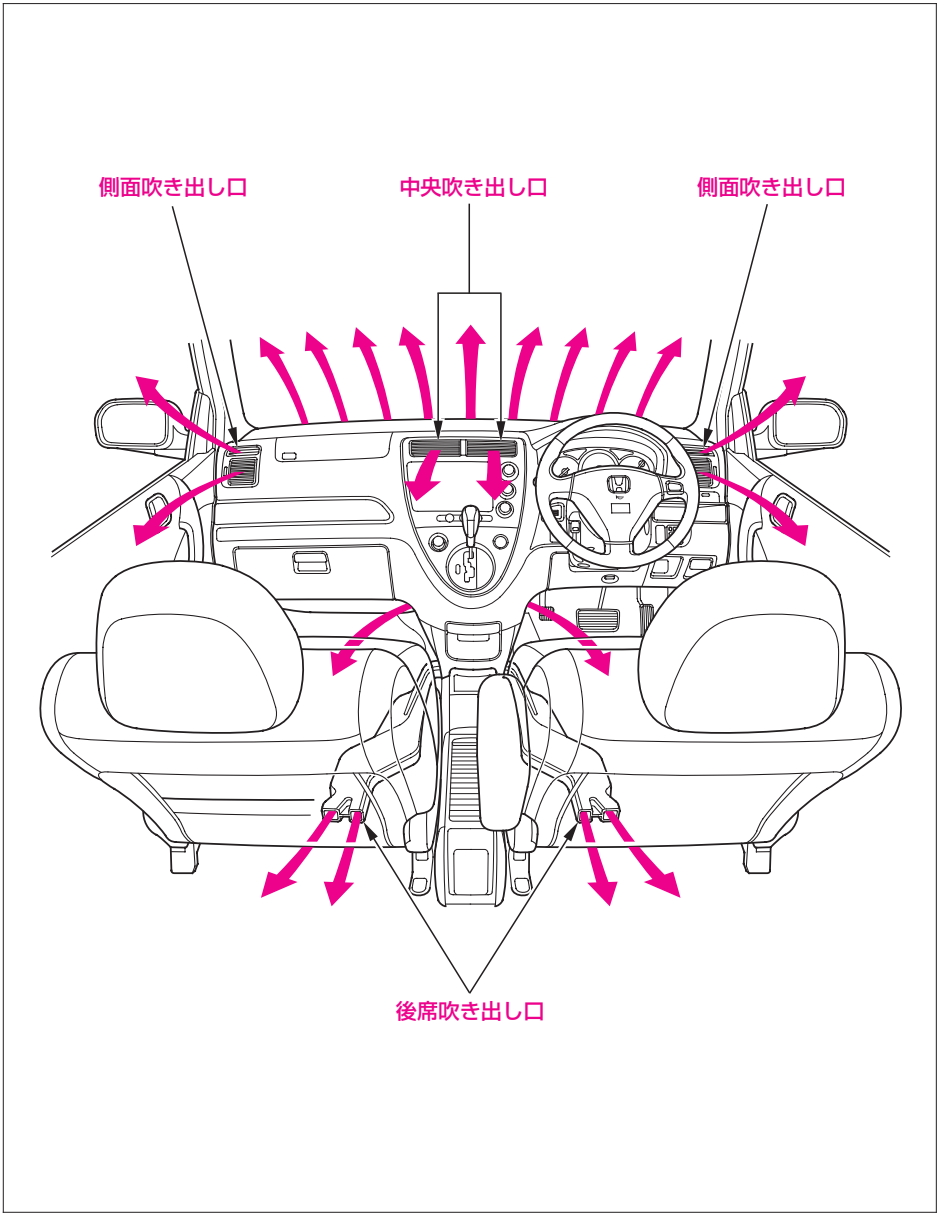
●オーディオ

上手な使いかた ……164
アンテナ ……166
オーディオインデックス ……168
AM/FMラジオ一体式
　CDステレオ ……170

●室内装備品

室内灯 ……186
マップランプ ……187
カーゴルーム照明灯 ……188
シガレットライター ……189
灰皿 ……190
サンバイザー ……190
チケットホルダー ……191
携帯電話接続キット ……191
リヤシェルフ
　（トランクカバー）……192
小物入れ ……193
カップホルダー ……194
ボトルホルダー ……196
グラブレール ……196

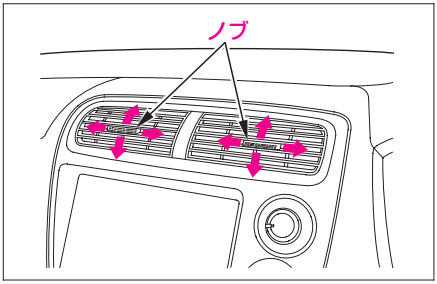
エアコン



吹き出し風の調節

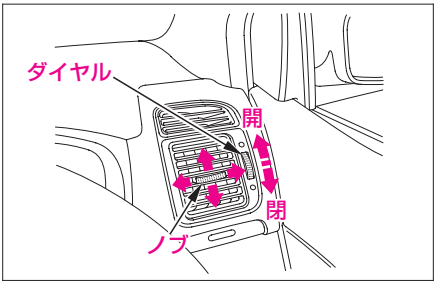
ノブを上下または左右に動かして、吹き出し風の向きを調節します。

・中央吹き出し口



・側面吹き出し口

送風が必要なときは、ダイヤルを“開”のほうに回します。

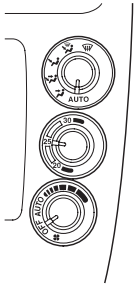


知　識

- 側面ガラスが曇ったときは、吹き出し風がガラスに直接当たるよう両側の吹き出し口の向きを調節すれば、より早く曇りを取ることができます。

エアコンインデックス

オートエアコン



- オートエアコンを使うとき ……158
- マニュアルで使うとき ……160
- 前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）……162
- 急速に霜を取りたいとき ……162
- エアコンを常用しないとき ……163
- 温度感知装置 ……163



オートエアコン

●オートエアコンを使うとき

エンジンをかけた状態で使います。

吹き出し口切り換えダイヤル

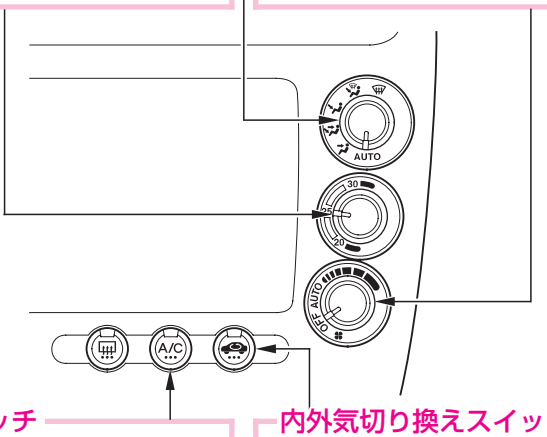
ダイヤルを“AUTO”にすると吹き出し口の切り換えが自動制御されます。

温度調節ダイヤル

ダイヤルを回して温度を設定します。
表示温度は室温設定時のめやすとなります。

ファンスピード切り換えダイヤル

ダイヤルを“AUTO”にすると風量が自動制御されます。



エアコンスイッチ

ファンスピード切り換えダイヤルが“OFF”以外のとき、スイッチを押すとエアコンが作動します。（表示灯点灯）
冷房や除湿暖房をするときに使います。
また、吹き出し口切り換えダイヤルを“ ”または“ ”にすると自動的にエアコンが作動します。

内外気切り換えスイッチ

スイッチを押して外気導入（表示灯消灯）と内気循環（表示灯点灯）を切り換えます。
トンネルや渋滞地域などで汚れている外気を室内に入れたくないときは、内気循環にします。
また、吹き出し口切り換えダイヤルを“ ”または“ ”にすると自動的に外気導入に切り換わります。

通常の使いかた

①ファンスピード切り換えダイヤルをAUTOにします。
②吹き出し口切り換えダイヤルをAUTOにします。
③温度調節ダイヤルで室内の温度を設定します。
④冷房や除湿暖房をするときは、エアコンスイッチを入れます。

停止するときはファンスピード切り換えダイヤルを“OFF”にします。

知 識

- 外気温によっては、冷風の吹き出しを防ぐため、オートエアコン作動後一定時間ファンが回転しないことがあります。
- 希望温度に設定したら、温度調節ダイヤルをむやみに動かさないでください。設定温度への到達時間が長くなることがあります。
- 長時間、冷風を直接体に当てないでください。冷やしすぎは健康上良くありません。
- 炎天下に駐車していたときは、窓を開けて熱気を追い出しながら、冷房を開始してください。

●マニュアルで使うとき

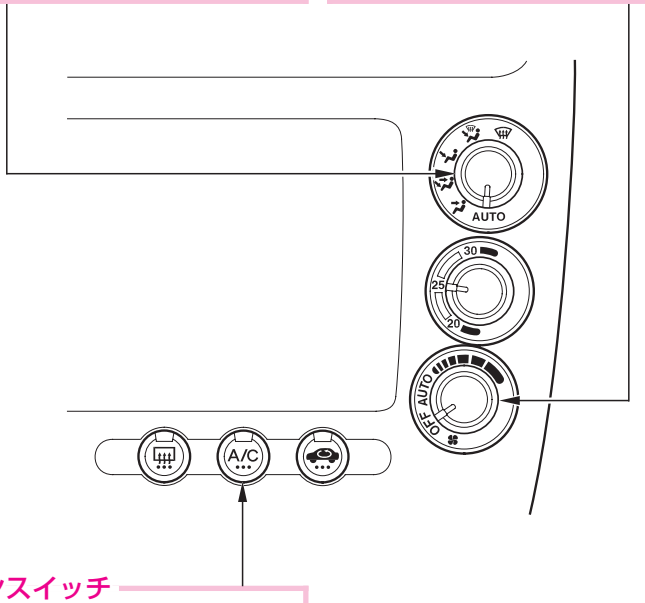
各スイッチ、ダイヤルを組み合わせて使うことができます。

吹き出し口切り換えダイヤル

ダイヤルを回すと吹き出し口が切り換わります。（右ページ参照）

ファンスピード切り換えダイヤル

ダイヤルの位置	OFF	AUTO	
風量	停止	自動切換	弱↔強

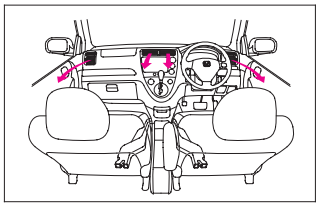


エアコンスイッチ

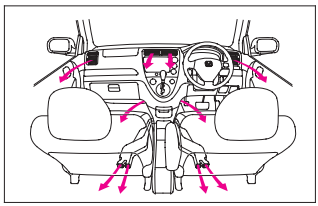
ファンスピード切り換えダイヤルが“OFF”以外のとき、スイッチを押すとエアコンが作動します。（表示灯点灯）
冷房や除湿暖房をするときに使います。
また、吹き出し口切り換えダイヤルを“ ”または“ ”にすると自動的にエアコンが作動します。

吹き出し口切り換えダイヤル

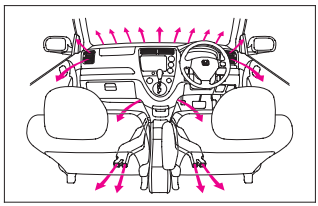
上半身に送風したいとき



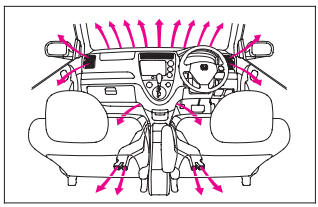
上半身、足元に送風したいとき



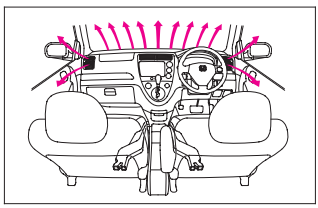
足元に送風したいとき



足元への送風と窓ガラスの曇りを取りたいとき



窓ガラスの曇りを取りたいとき

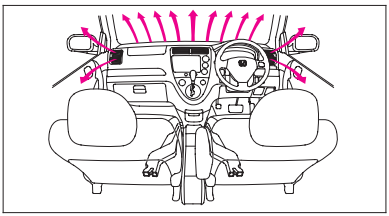


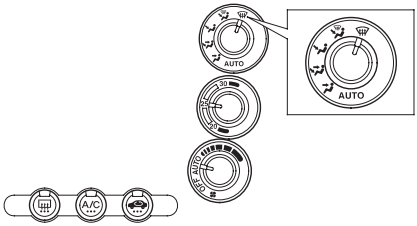
●前面／側面ガラスの霜や曇りを取りたいとき（デフロスター）

①ファンスピード切り換えダイヤルを“AUTO”にします。
②吹き出し口切り換えダイヤルを“ ”にします。

デフロスター

ガラスの曇り取りなどに使用します。ダイヤルを“ ”にすると自動的にエアコンが作動し、外気導入に切り換わります。また、吹き出し口が前面および側面ガラスに切り換わります。

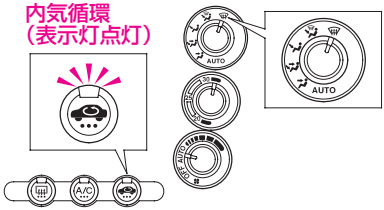




知 識

- エアコンスイッチを入れているときは、設定温度を最大冷房付近にしないでください。冷風が前面ガラスにあたるとガラスの外側が曇ることがあり、視界のさまたげになります。

急速に霜を取りたいとき



知 識

- 内気循環で使い続けると車内の湿気で窓ガラスが曇り、視界のさまたげになります。一度霜を取った後は外気導入で使ってください。

●エアコンを常用しないとき

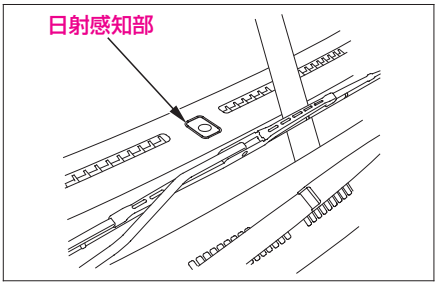
装置各部のオイルをきらさないために、ときどきエンジンを低回転させた状態で数分間冷房または除湿暖房をしてください。

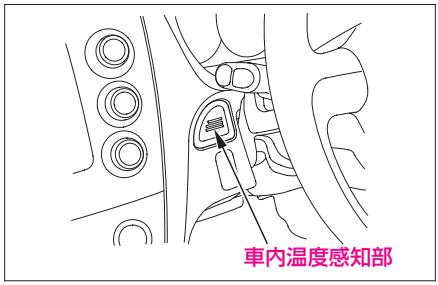
知 識

- 室内の温度が低い場合は、エアコンが作動しないことがあります。このような場合には、内気循環で室内を暖めてからエアコンスイッチを入れると作動します。

●温度感知装置

オートエアコンには、温度感知装置などのセンサーがついています。日射感知部や車内温度感知部の上に物を置いたり、水をかけたりしないでください。車内温度が設定温度とずれることがあります。





オーディオ

上手な使いかた

知 識

- 運転中の音量は車外の音が聞こえる程度の音量でお使いください。車外の音が聞こえない状態では安全運転のさまたげとなります。また、運転中のオーディオ操作は、安全運転に支障がないようにしてください。
- 車内や車の近くで携帯電話や無線機を使うとオーディオに雑音が入ることがあります。

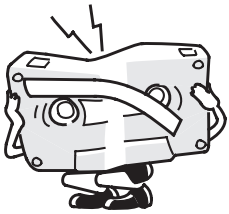
●ラジオについて

ラジオの受信については、車の走行にともない受信状態が刻々と変わったり、障害物や電車、信号機などの影響により最良な受信状態を維持することが困難な場合があります。

●カセットについて

次のようなカセットテープは、故障の原因になりますので、ご使用はお避けください。

・ラベルがはがれかけていたり変形したカセットテープを使用すると、回転不良を起こしたりテープが取り出せなくなる場合があります。

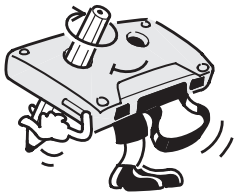


・120分以上のテープは非常に薄いため、伸びたり、プレーヤーに巻き付いたりする場合があります。

カセットテープは、変形したり録音が消えてしまわないようにほこり、直射日光や磁気のあるものの近くを避けてケースに入れ保管してください。



カセットテープは、プレーヤーにテープが巻き込まれたりしないように鉛筆などでたるみをとってから差し込んでください。



音が歪んだり高音が出にくくなった場合は、市販のクリーニングテープなどでプレーヤーの手入れをしてください。

●CD/MDについて

ディスクの変形を避けるため、直射日光や高温多湿を避けてケースに入れ保管してください。

悪路走行などで激しく振動した場合、音とびすることがあります。

寒いときや雨降りのときは、プレーヤー内部に露(水滴)が生じ、正しく作動しなくなることがあります。その場合、ディスクを取り出し、換気または除湿をしてからお使いください。

CD

ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。

下記マークのついていないディスクおよび円形以外のディスクは使えません。

COMPACT disc DIGITAL AUDIO

知 識

- ディスクは必ず円形のものをお使いください。円形以外のディスクを使用すると故障の原因となります。

MD

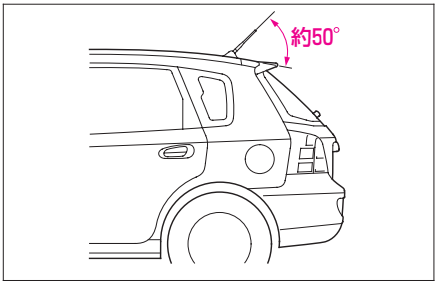
シャッターを無理にあけないでください。こわれることがあります。
また、ディスクの信号面は直接手で触れないでください。指紋等の汚れが付くと、音とびなどをすることがあります。



アンテナ

●センターアンテナ

センターアンテナは、後方約50°の位置にしてください。



自動洗車機を使った場合など、アンテナが倒れてしまった場合は、元の位置（後方約50°）に戻してください。

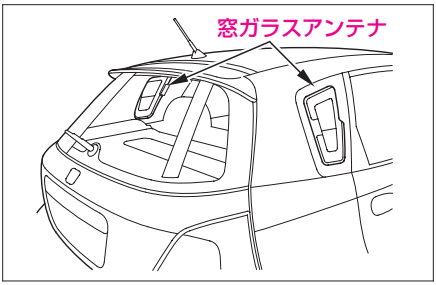
知 識

- アンテナの角度は、後方約50°にしてください。50°以外の角度では正常に受信できないことがあります。

●窓ガラスアンテナ

ナビゲーションシステム装備車

後部ウィンドー内側にテレビ用のアンテナ線があります。



知 識

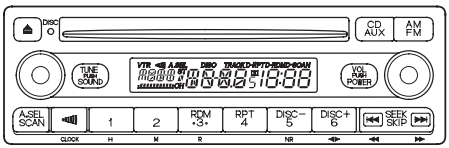
- アンテナ線は傷つきやすいので、清掃のときはアンテナ線に沿って柔らかい布でふいてください。また、手荷物などで傷つけないようにしてください。



オーディオインデックス

ナビゲーションシステム装備車のオーディオ・テレビの取り扱いについては、別冊のナビゲーションシステム取扱説明書をご覧ください。

AM/FMラジオ一体式CDステレオ



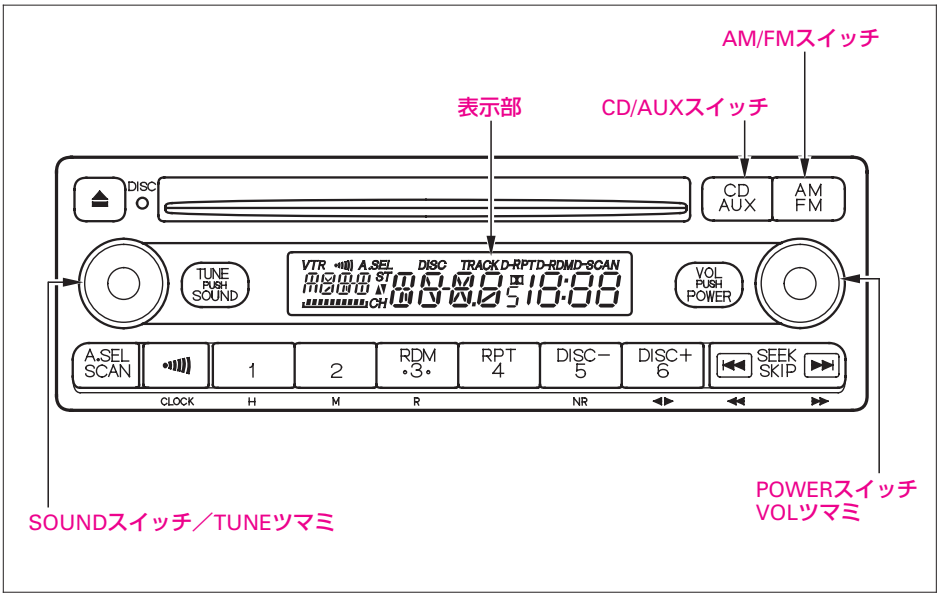
- 電源の入れかた ……170
- 音量調節のしかた ……170
- 音質、バランス調節のしかた ……171
- モードの切り換え ……171
- ラジオの使いかた ……172
- CDプレーヤーの使いかた ……176
- CDチェンジャーコントローラー等の使いかた※ ……178
- エラーコードについて ……184
- 時計 ……185

※：Honda純正のオーディオを接続し、操作することができます。詳しくはホンダプリモ店にご相談ください。



AM/FMラジオ一体式CDステレオ

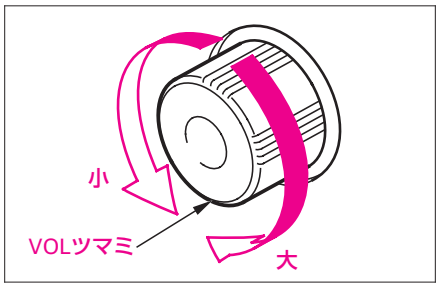
エンジンスイッチが“ I ”または“II”のときに使えます。



●電源の入れかた

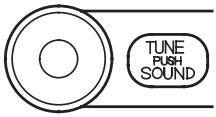
POWERスイッチを押して、電源を入れます。押すたびに“ON”↔“OFF”になります。また、AM/FMスイッチ、CD/AUXスイッチを押して、電源を“ON”にすることもできます。

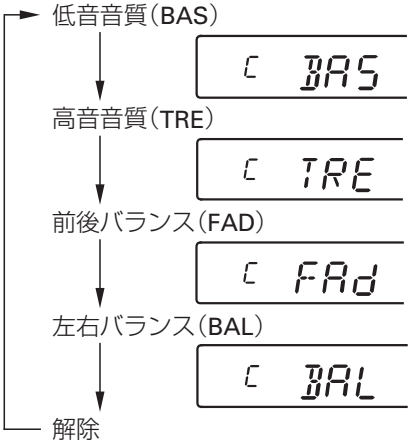
●音量調節のしかた



●音質、バランス調節のしかた

SOUNDスイッチを押して切り換え、TUNEツマミで調節します。





SOUNDスイッチを押すたびに切り換わります。

知 識

- 調節後約5秒すぎると自動的に解除されます。
- 調節位置が中央のときに表示部に“C”(センター)を表示します。

●モードの切り換え

各モードスイッチで切り換えます。

・AM/FMスイッチ　AM FM

ラジオに切り換わります。

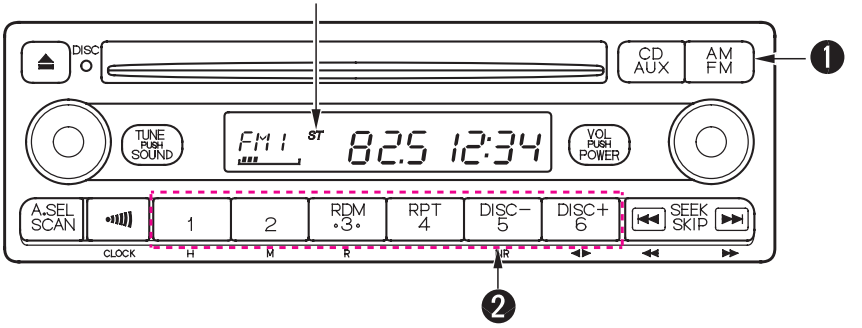
・CD/AUXスイッチ　CD AUX

ディスクが入っているときに押すと、CD演奏に切り換わります。
Honda純正のオーディオを接続しているときに押すと、それらの演奏に切り換わります。

●ラジオの使いかた

ラジオ放送のききかた

FMステレオ放送が感度よく受信できたときは、“ST”が点灯します。



❶ラジオに切り換え、バンドを選ぶ（AM/FMスイッチ）

スイッチを押して、AM/FM1/FM2を選びます。

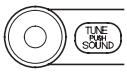
❷選局する（ワンタッチ選局スイッチ）

あらかじめ放送局をセットしておくと、ワンタッチで選局できます。

AM 6 局、FM12局（FM1、FM2それぞれ 6 局）まで記憶できます。

ワンタッチ選局のセットのしかた

①AM/FMスイッチでAM/FM1/FM2を選びます。
②TUNEツマミ、SEEK/SKIPスイッチで選局します。





・TUNEツマミを回すと、受信周波数が少しずつ変わります。
・SEEK/SKIPスイッチを押すと、自動選局になり放送を受信すると止まります。

知 識

●受信電波が弱いときは、自動選局できないことがあります。このようなときは手動で選局してください。

③ワンタッチ選局スイッチのいずれか一つを“ピッ”という電子音がするまで(約2秒間)押し続けます。

知 識

●一度電源が切れた場合(車両のバッテリーを外したとき、ヒューズが切れたときなど)、記憶が消去されます。そのときは再度記憶操作をしてください。

自動で放送局を数秒ずつ聞きたいときは(スキャン)

放送局でどんな番組を放送しているかを知りたいときに、操作します。
SCANスイッチを“ピッ”という電子音がするまで(約2秒間)押します。(“SCAN”が点灯)



電波の強い放送局が周波数の低い順から選局され、約5秒間つぎつぎと受信します。

解除するときは、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで(約2秒間)押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

自動で放送局を記憶するには（オートセレクト）

放送局の違う地域へ出かけたときなど、セットされた放送局が聞けなくなった場合に操作します。

A.SELスイッチを短く押します。（“A.SEL”が点滅）



自動選局された電波の強い放送局が、周波数の低い順からワンタッチ選局スイッチにAM 6 局、FM12局まで自動的に記憶され“A.SEL”が点滅から点灯に変わります。

解除するときは、スイッチをもう一度短く押します。解除すると、ワンタッチ選局スイッチの記憶は、オートセレクトをする前の状態に戻ります。

知 識

- 放送局が 6 局または12局にみたない場合、残りのスイッチには何も記憶されません。記憶されていないスイッチを押すと、周波数が“ 0 ”と表示されます。
- オートセレクトされた放送局を個別に変更することもできます。

交通情報をきくとき

スイッチを短く押すと、ワンタッチで交通情報を受信できます。(“ ”が点灯)



周波数を切り換えるとき(1620kHz↔1629kHz)
…TUNEツマミまたはSEEK/SKIPスイッチで切り換えます。

解除するとき

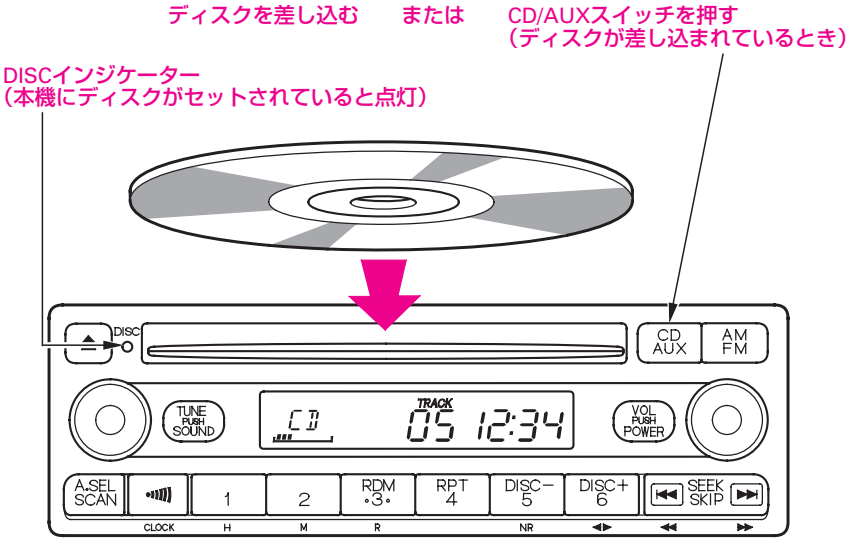
スイッチをもう一度短く押します。他のモードに切り換えたときも解除されます。

知 識

- スイッチにあらかじめセットされている受信周波数を変えることはできません。

●CDプレーヤーの使いかた

ディスク演奏のききかた



知　識

- 8 cm CDを使用するときはアダプターを使用しないでください。故障の原因になることがあります。
- ディスクやプレーヤーをゴミやほこりから保護するため、ディスクが押し出されたままで約15秒経過すると、自動的に内部に引き込まれます。

ディスクを取り出すとき

▲ スイッチを押して、ディスクを取り出します。



ディスク演奏中にエンジンスイッチを“0”にした場合でも、▲ スイッチを押せばディスクを取り出すことができます。

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

►►I ／ I◄◄ スイッチを押します。

早戻し リプレイ　SEEK SKIP　早送り スキップ

- 押し続けると、早送り（“CUE”が点灯）／早戻し（“REW”が点灯）になります。
- 短く押すと、スキップ（先の曲の頭出し）／リプレイ（前の曲の頭出し）になります。

ききたい曲を探すとき（スキャン）

SCANスイッチを押します。（“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します）
各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。



ききたい曲のところでスイッチをもう一度押すと、スキャン演奏の機能は解除されます。

知 識

- 全ての曲をスキャン演奏し終わると、スキャン演奏を開始した曲から通常の演奏になります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。（“RPT”が点灯）



リピート機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

1枚のディスクの曲順をランダムに演奏するとき

RDMスイッチを押します。（“RDM”が点灯）



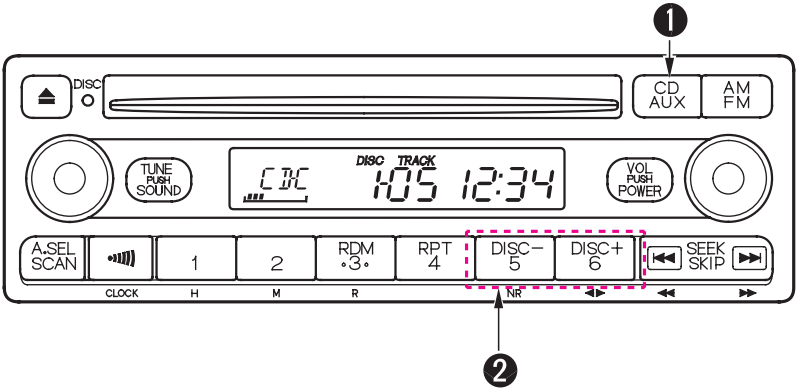
ランダム演奏の機能を解除するには、スイッチをもう一度押します。

●CDチェンジャーコントローラー、CD/MD/カセットプレーヤーの使いかた

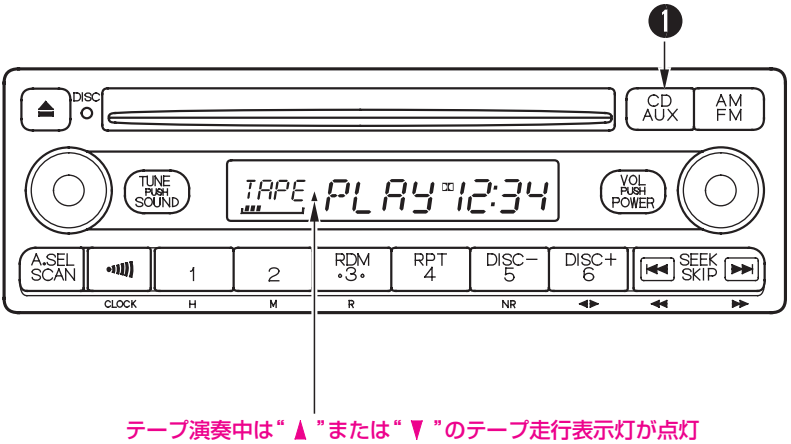
Honda純正のCDチェンジャー、CD/MD/カセットプレーヤー接続時

演奏のききかた

CDチェンジャー、CD/MDプレーヤー接続時



カセットプレーヤー接続時



テープ演奏中は“▲”または“▼”のテープ走行表示灯が点灯

❶切り換える(CD/AUXスイッチ)

スイッチを押して、切り換えます。
スイッチを押すたびに接続されているチェンジャー、CD/MD/カセットプレーヤーなどに切り換わります。



❷ディスクを選ぶ(DISC－/DISC＋スイッチ)　CDチェンジャー接続時

DISC－、DISC＋スイッチを押すごとに切り換わります。
ディスクスイッチに続けて ►►I ／ I◄◄ スイッチを短く押すと、トラックナンバーの指定もできます。

CDチェンジャー、CD/MDプレーヤー接続時

早送り／早戻し、スキップ／リプレイをするとき

I◀◀ ／ ▶▶I スイッチを押します。



早戻し
リプレイ

早送り
スキップ

- 押し続けると、早送り（“CUE”が点灯）／早戻し（“REW”が点灯）になります。
- 短く押すと、スキップ（先の曲の頭出し）／リプレイ（演奏中や前の曲の頭出し）になります。

ききたい曲を探すとき（トラックスキャン、ディスクスキャン）

SCANスイッチを押します。



- 短く押すとトラックスキャンになります。（“SCAN”が点灯し、トラックナンバーが点滅します）
  演奏中のディスクの各トラックの曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
- “ピッ”という電子音がするまで押すとディスクスキャンになります。（“D-SCAN”が点灯し、ディスクナンバーが点滅します）ディスクチェンジャー内の全てのディスクの先頭の曲の始めを約10秒間つぎつぎに演奏します。
  機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。



・短く押すとトラックリピートモードになります。（“RPT”が点灯）
演奏中の曲を繰り返し演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
・“ピッ”という電子音がするまで押すとディスクリピートモードになります。（“D-RPT”が点灯）
演奏中のディスクを繰り返し演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

ディスクの曲順をランダムに演奏するとき

RDMスイッチを押します。



・短く押すとトラックランダムモードになります。（“RDM”が点灯）
演奏中のディスクをランダムに演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度短く押します。
・“ピッ”という電子音がするまで押すとディスクランダムモードになります。（“D-RDM”が点灯）
ディスクチェンジャー内すべてのディスクでランダムに演奏します。
機能を解除するには、スイッチをもう一度“ピッ”という電子音がするまで押します。

カセットプレーヤー接続時

早送り／巻戻し、頭出しをするとき

I◀◀ ／ ▶▶I スイッチを押します。



巻戻し
頭出し
（演奏中の曲）

早送り
頭出し
（次の曲）

- “ピッ”という電子音がするまで押すと、早送り／巻戻しになり、“FF”/“REW”が点灯します。
- 短く押すと頭出し（次の曲の最初／演奏中の曲の最初）になり、“FF”/“REW”が点滅します。

早送り／巻戻しを止めるときは、スイッチをもう一度押すか ◀▶ スイッチを押します。

知 識

- 曲間の無音部分が 4 秒以上ないときや雑音が入っているとき、曲の途中に無音部分があるときは、頭出し機能が働かないことがあります。

走行方向を切り換えるとき

6（ ◀▶ ）スイッチを押します。



テープの片面が終了したときは、自動的に切り換わります。

演奏中の曲を繰り返しきくとき（リピート）

RPTスイッチを押します。（“RPT”が点灯）



リピート演奏の機能を解除するときは、スイッチをもう一度押します。

ドルビーNRについて

ドルビーNR録音されたテープを再生すると、高域雑音の少ない演奏が楽しめます。



5（NR）スイッチで、ドルビーNR再生およびその解除を行います。（ドルビーNR再生中は“ DD ”が点灯）

※ドルビーノイズリダクションシステムはドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションからの実施権に基づき製造されています。
ドルビー、DOLBY及びダブルD記号 DD はドルビーラボラトリーズライセンシングコーポレーションの登録商標です。

●エラーコードについて

表示部にエラーコードが表示されたときは、表示されているプレーヤーの取扱説明書をご覧になり、点検してください。



エラーが発生しているプレーヤーを表します。　　エラーコードの種類を表します。

CD　（本機）
CD－P　（外部CDプレーヤー）
CD－C　（CDチェンジャー）

MD　（MDプレーヤー）

TAPE　（カセットプレーヤー）

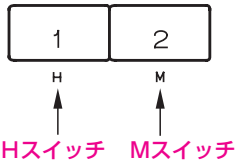
エラーコード	原　　因
ERR	ディスクマガジンやディスクの装着や取り外しができない等、機械的な不具合
	カセットテープの取り出しができない等、機械的な不具合
Hot	プレーヤー内部の温度上昇による一時停止状態
DISC	ディスクが汚れている、または裏返しになっている
NO	ディスクマガジンにディスクが入っていない

●時計

時計は、エンジンスイッチが“Ⅰ”または“Ⅱ”のときに表示されます。

表示の合わせかた

① •ıllı（CLOCK）スイッチを時計表示が点滅するまで押します。
②「時」の調整… 1（H）スイッチを押します。
　「分」の調整… 2（M）スイッチを押します。



③ •ıllı（CLOCK）スイッチをもう一度押します。

時報合わせ…時計表示が点滅しているときに、時報と同時に 3（R）スイッチを押します。



（例）　1：01 ～ 1：29の場合… 1：00
　　1：30 ～ 1：59の場合… 2：00

室内装備品

室内灯

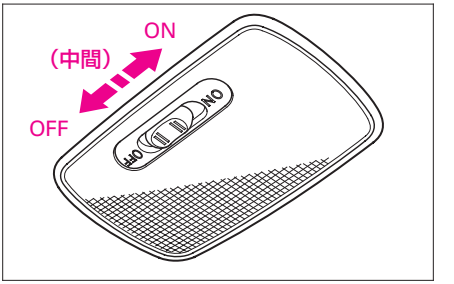
“ON”
ドアの開閉に関係なく点灯します。

（中間）
ドアを開けると点灯し、閉めると消灯します。
また、次の場合にも点灯し、その後消灯します。
・運転席ドアを解錠したとき
（ウエルカムランプ機能）
・エンジンスイッチからキーを抜いたとき

消灯するときは、徐々に減光してから消えます。

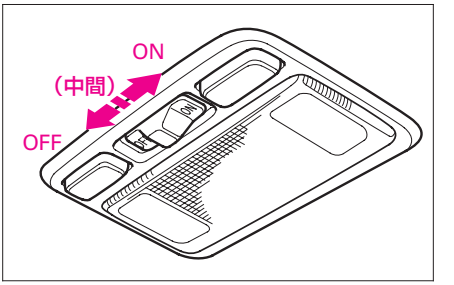
“OFF”
ドアの開閉に関係なく消灯します。

●室内灯



●室内灯／マップランプ

サンルーフ装備車



知 識

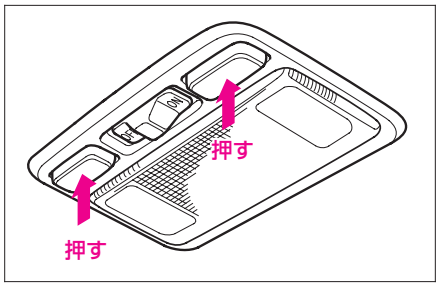
- 次の操作を行ったときは、室内灯はすぐ消灯します。
  - ・運転席ドアを施錠したとき
  - ・エンジンスイッチにキーが差し込まれた状態でドアを閉めたとき
- エンジンスイッチにキーが差し込まれているときは、運転席ドアを解錠しても室内灯は点灯しません。
- “中間”の位置のときに、エンジンスイッチにキーを差し込んでいないときは、バッテリー保護のためドアを開けたままにしていると、約 3 分後に消灯します。

マップランプ

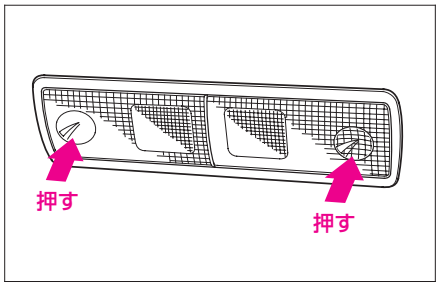
スイッチを押すと点灯し、もう一度押すと消灯します。
夜間、車を止めて地図などを見るときに便利です。

●室内灯／マップランプ

サンルーフ装備車



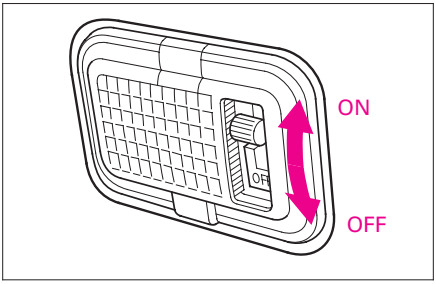
●マップランプ　サンルーフ非装備車



カーゴルーム照明灯

“ON”
テールゲートを開いたときのみ点灯します。

“OFF”
テールゲートの開閉に関係なく消灯します。

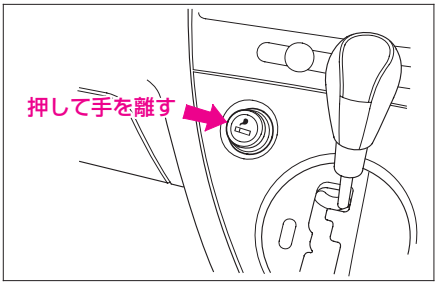


シガレットライター

エンジンスイッチが“ I ”または“II”のときだけ使えます。

▼

ライターを押し込んで、手を離し、元の位置に戻るまで待ちます。
ヒーター部が赤熱すると自動的に戻ります。



ライター使用後は灰皿で灰を落としてからすみやかに元に戻してください。

⚠注意

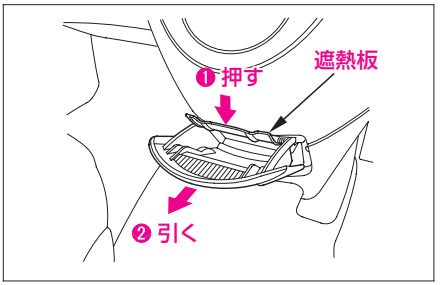
- シガレットライターの金属部分には触れないでください。
  やけどをするおそれがあります。

知 識

- シガレットライターの損傷を防ぐため、次のことをお守りください。
  - ・ライターを押し込んだあと、押さえ続けないでください。
  - ・ヒーター部に灰や異物が付着したまま使用しないでください。
  - ・ライターのさし込み口からは、Honda純正品以外の電気製品の電源を取り出さないでください。
- 他の車のライターを使ったり、自車のライターを修正したりしないでください。戻らなかったり、とび出したりするおそれがあります。
- ライターを押し込んでから、30秒以上たっても戻らないときは故障のおそれがありますので手で引き出し、ホンダプリモ店で点検を受けてください。

灰皿

清掃するときは遮熱板を下に押さえながら外します。

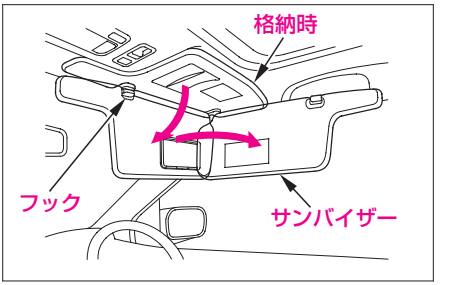


⚠注意

- タバコ、マッチなどは確実に火を消してから灰皿に捨て、灰皿は必ず閉めてください。
  また、吸いがらをためすぎたり、紙くずなどの燃えやすいものを入れないでください。
  タバコなどの火が燃え広がるおそれがあります。

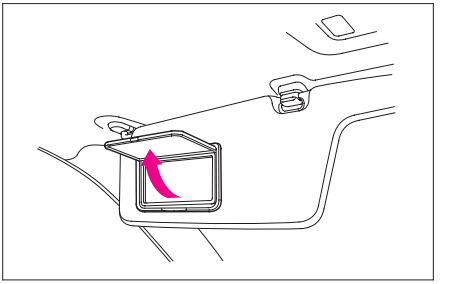
サンバイザー

サンバイザーを横にするときは、フックから外して行います。



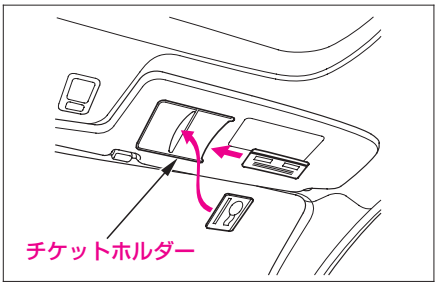
●バニティミラー(化粧鏡)

サンバイザーに鏡があります。
お化粧のときなどに便利です。



チケットホルダー

運転席側のサンバイザーにあります。



携帯電話接続キット

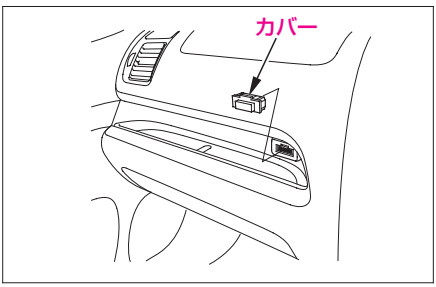
ナビゲーションシステム装備車

付属のケーブルを使って、携帯電話と助手席側のインストルメントパネルにある端子と接続して使います。

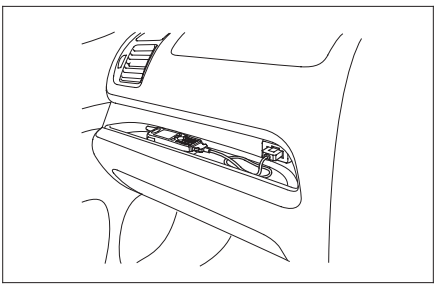
知 識

- お買い上げ時、接続ケーブルはグローブボックスに入っています。

接続するときは、カバーを取り外します。



接続した携帯電話は、図のように置いておくことができます。

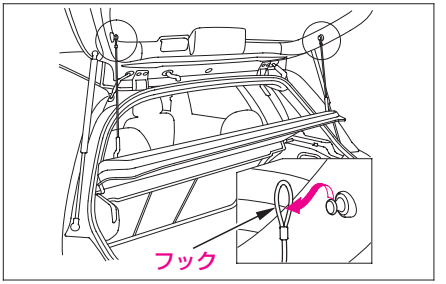


詳細に関しては、ナビゲーションシステムの取扱説明書をご覧ください。

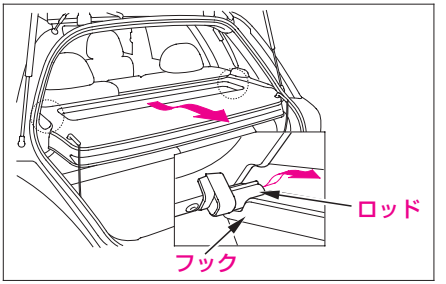
リヤシェルフ（トランクカバー）

●取り外し

①テールゲート裏側から、フックを外します。



②フックから、リヤシェルフを後方にずらしてロッドを外します。その後、リヤシェルフを持ち上げて取り外します。



取り付けるときは、逆の手順で行います。

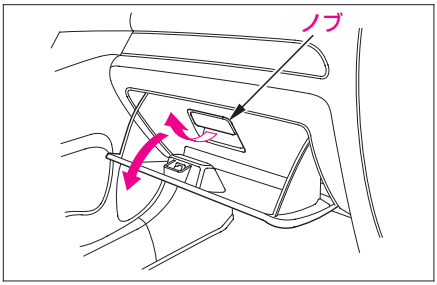
知 識

- リヤシェルフの上に物を置かないでください。
  後方視界をさまたげるばかりでなく、急ブレーキなどのときにとび出すおそれがあります。

小物入れ

●グローブボックス

ノブを引くと開きます。

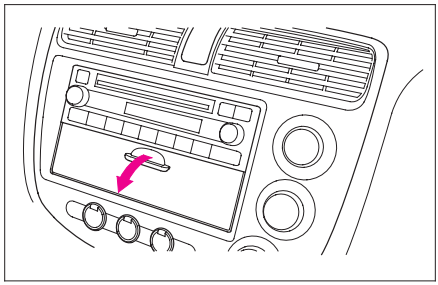


⚠警告

- 走行中は、グローブボックスのふたを必ず閉めてください。
  グローブボックスのふたが開いていると、衝突したときなどにふたにぶつかったり、内部の物がとび出したりして思わぬ事故につながります。

●ラジオポケット

ふたを下げると開きます。

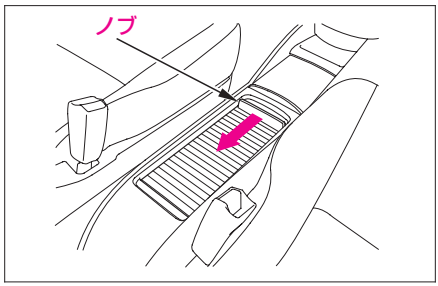


●センターコンソール

タイプ別装備

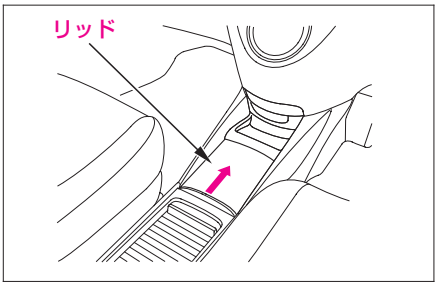
リヤコンソールボックス

スライドシャッターのノブを後方にスライドさせると、小物入れとして使えます。

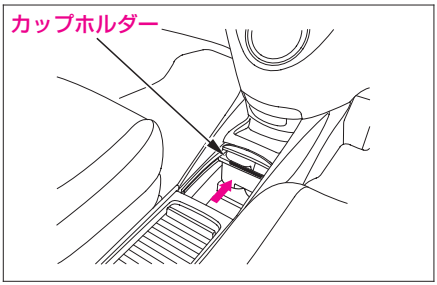


フロントコンソールボックス

①リッドを前方へスライドさせて開けます。

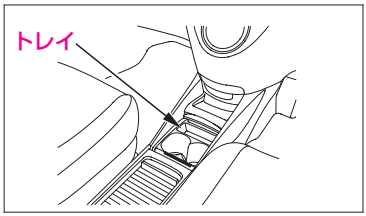


②カップホルダーが出ているときは、ホルダーを前方へ収納させます。



知 識

- カップホルダー前側にも、小物がおけるトレイがあります。



カップホルダー

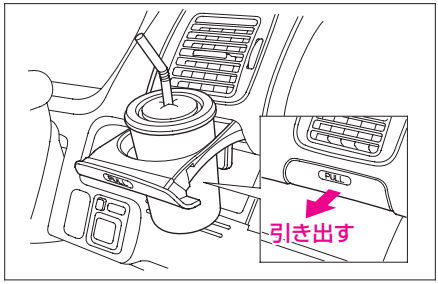
カップなどを置くときに使います。

知 識

- ドアの開閉や走行中の振動、車の動きなどで飲み物がこぼれることがあります。
  熱い飲み物などはやけどのおそれがありますので注意してください。
- 飲み物がオーディオ等にかかると、故障の原因となりますので注意してください。

●運転席用

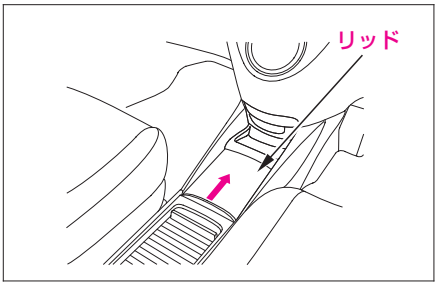
図のように引き出して使います。

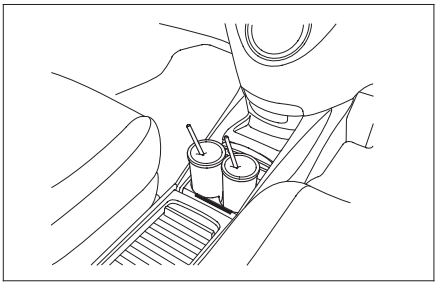


●前席用

タイプ別装備

フロントコンソールボックスの中にあります。
リッドを前方にスライドさせて開きます。





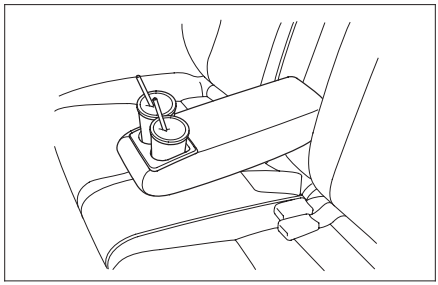
知 識

- カップホルダーがフロントコンソールボックス内前方に収納されているときは、後方へ引き出します。
- カップホルダーを前方へ収納させるとフロントコンソールボックスが広くなります。

フロントコンソールボックス
→194ページ

●後席用

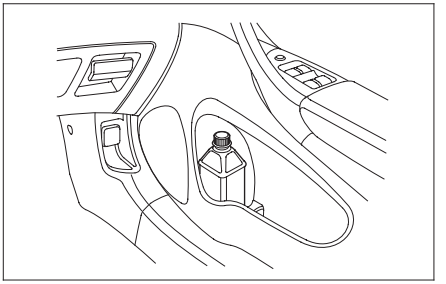
アームレストを前に倒して使います。



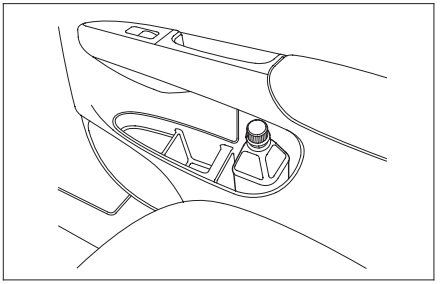
ボトルホルダー

各ドアポケットにあります。
ペットボトルなどを置くときに使います。

●フロントドア



●リヤドア

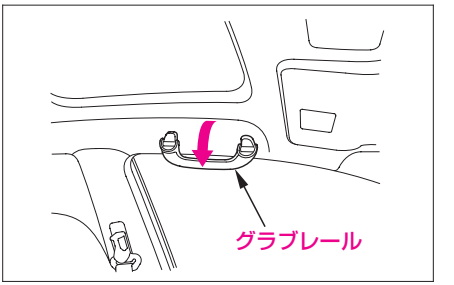


知 識

- 飲み物の入ったカップや栓のしていないペットボトルなどは、収納しないでください。

グラブレール

回転させて使います。



5

万一のとき

●工具・スペアタイヤ・発炎筒
格納場所 ……198
工具の種類 ……199
発炎筒について ……199

●故障したとき
踏切で動けなくなったとき …200
高速道路で故障したとき ……200
道路で動けなくなったとき …201
故障の修理について ……201

●事故が起きたとき ……202

●けん引
けん引されるとき
（ロープによるけん引）……204
故障車をけん引するとき ……207

●パンクしたとき
ジャッキの取り扱い ……208
応急用スペアタイヤ ……210
タイヤ交換 ……211

●オーバーヒートしたとき
……218

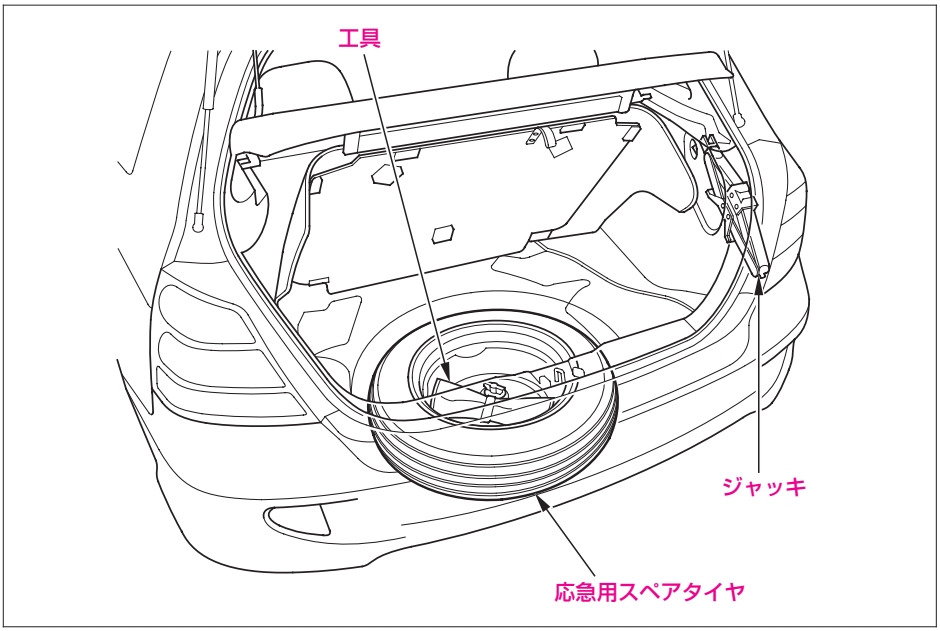
●電気系統が異常のとき
バッテリーあがりのとき ……220
ライト類が点灯しないとき、
電気装置が作動しないとき
……222
テールゲートの解錠が
できないとき ……237
サンルーフが作動しないとき
……238

＊全国のHonda販売店およびJAFの電話番号は別冊の「サービス網一覧」に記載してあります。

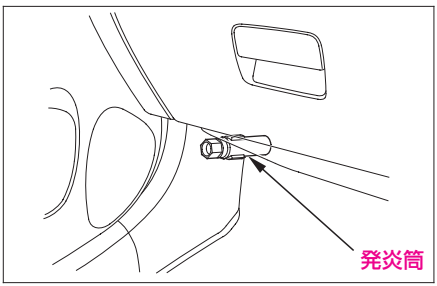
工具・スペアタイヤ・発炎筒

格納場所

●工具・スペアタイヤ

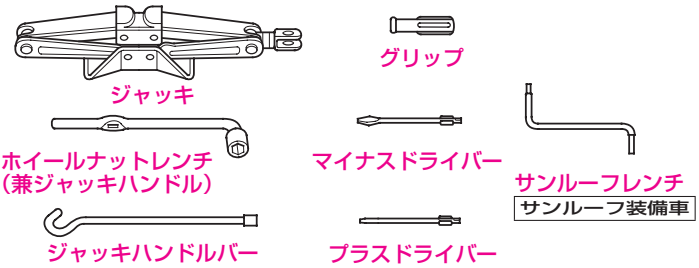


●発炎筒



発炎筒は助手席足元にあります。

工具の種類



知 識

- 工具の種類、ジャッキ、発炎筒の使いかたなどは万一のとき困らないようあらかじめ確かめておきましょう。
- スペアタイヤ、ジャッキは走行中動かないように、所定の位置にしっかり固定してください。
- 高速道路で故障などにより停止するときは、停止表示器材による表示義務がありますので、停止表示板などを常時携帯するようにしましょう。

発炎筒について

高速道路、踏切などの危険な場所で故障したときに使います。発炎筒に記載されている次のことをよく読んであらかじめ確認しておいてください。

・使いかた　・使用上の注意
・発炎時間　・有効期限

⚠警告

- ガソリンなどの燃えやすいもののそばでは使わないでください。
  火災や爆発のおそれがあります。

⚠注意

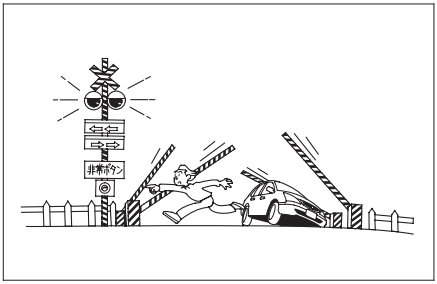
- お子さまにいじらせないでください。いたずらなどにより発炎筒が発火して思わぬ事故ややけどの原因になります。
- 発炎筒を使うとき顔やからだに向けるとやけどなどをすることがあるのでおやめください。
- トンネル内では視界を悪くするので使用しないでください。
  トンネル内では非常点滅表示灯を使ってください。

故障したとき

車を路肩に停め、非常点滅表示灯を点滅させます。必要に応じて停止表示板（または停止表示灯）、発炎筒を使い、後続する車に故障車とわかるようにします。

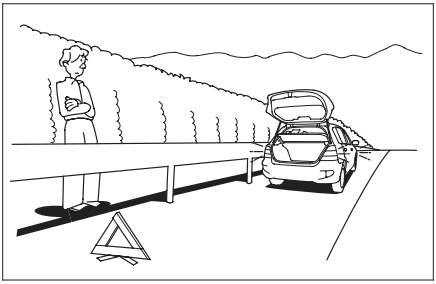
踏切で動けなくなったとき

脱輪などで踏切内で動けなくなったときは、踏切の非常ボタンを押してください。非常ボタンがわからず、緊急を要するときは、発炎筒で合図をしてください。



高速道路で故障したとき

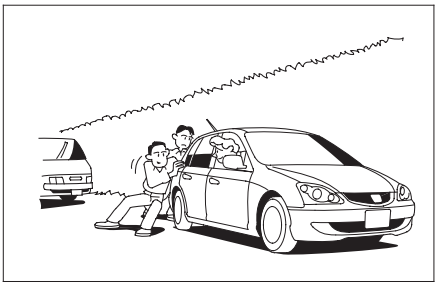
車を路側帯に寄せ、非常点滅表示灯を点滅させ、車両後方に停止表示板（または停止表示灯）を置いて表示してください。法律で義務づけられています。



人は車からおりて、安全な場所に避難してください。

道路で動けなくなったとき

一般道路で動けなくなったときは、付近の人に安全な場所まで押してもらってください。

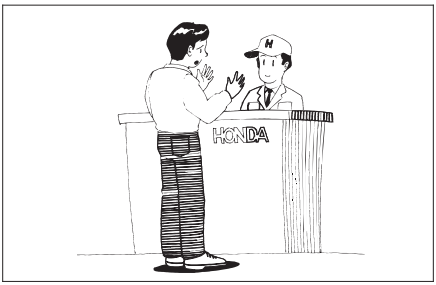


知 識

- オートマチック車はスターターを回して車を動かすことはできません。

故障の修理について

ホンダプリモ店へお申しつけください。



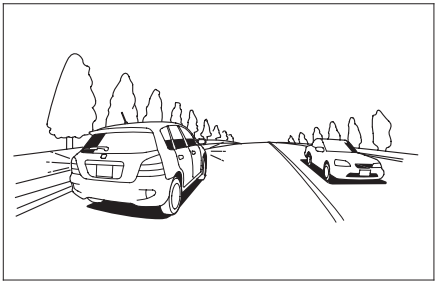
お持ちこみいただければ、簡単なものはその場で修理いたします。長くかかるものは、予定をお知らせします。
お持ちこみのむずかしいときには電話でご連絡ください。
遠出などのときは全国どこでもHonda販売店へご連絡ください。
Honda販売店およびJAFの電話番号については別冊の「サービス網一覧」をご覧ください。

事故が起きたとき

あわてずに次の処置をとります。

1事故の続発を防ぐ。

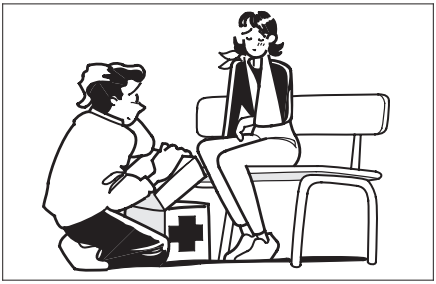
他の交通のさまたげにならないような安全な場所（路肩、あき地など）に車を移動させ、エンジンを止めます。



2負傷者がいる場合は、応急手当を行う。

医師、救急車などが到着するまでの間、可能な応急手当を行います。

この場合、とくに頭部に傷などがあるときは、そのままの姿勢で動かさないようにしますが、後続事故の心配があるときは安全な場所に移動させます。



知　識

- 外傷がなくても医師の診断を受けましょう。後になってから後遺症が出るおそれがあります。

3警察へ連絡する。

事故が発生した場所、状況、負傷者や負傷の程度などを警察官に報告し、指示を受けます。



4相手方、事故の状況をメモする。

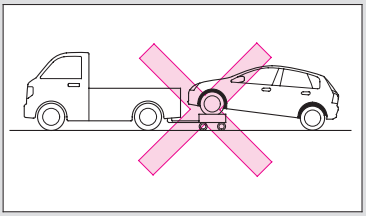
5ご購入された販売店や保険会社へ連絡する。

けん引

けん引は専門業者に依頼し、できるだけ四輪または前輪を持ち上げて行ってください。

アドバイス

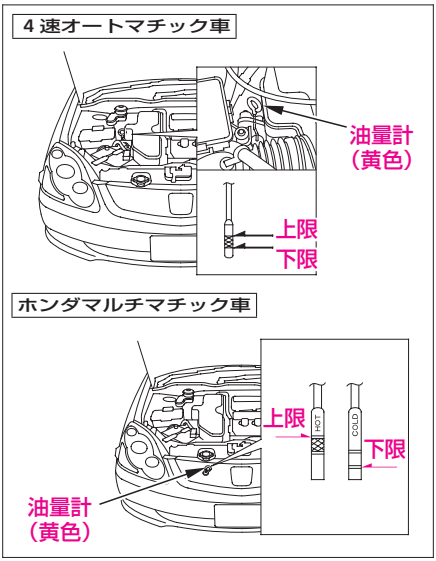
- 車輪が動かないときなど動力伝達装置に異常があると思われるときは、必ず四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。
- 4WD車の場合、前輪または後輪を台車に載せた(車輪が回転できない)状態でのけん引は、絶対に行わないでください。
  駆動装置が破損したり、車輪が台車からとび出すおそれがあります。



けん引されるとき(ロープによるけん引)

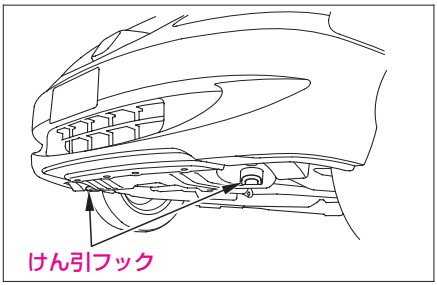
やむをえず四輪を接地させてロープでけん引を行う場合は、次の方法で行ってください。

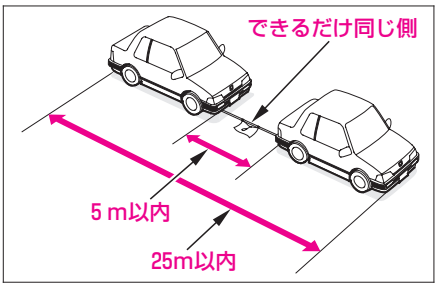
①トランスミッションオイルの量が目盛りの上限と下限の間にあるかを点検します。



下限より下がっている場合は、四輪または前輪を持ち上げてけん引してください。

②ロープをけん引フックにかけ、ロープ中央部に白い布(0.3m平方以上)を付けます。





③エンジンをかけます。
エンジンがかからないときは、エンジンスイッチを“ I ”または“II”にします。

④セレクトレバーをⓃ(ニュートラル)にします。

⑤パーキングブレーキを解除し、けん引されます。けん引中は、前の車の制動灯に注意してロープをたるませないようにしてください。

⑥速度30km/h以下、走行距離80km以内でけん引してください。

アドバイス

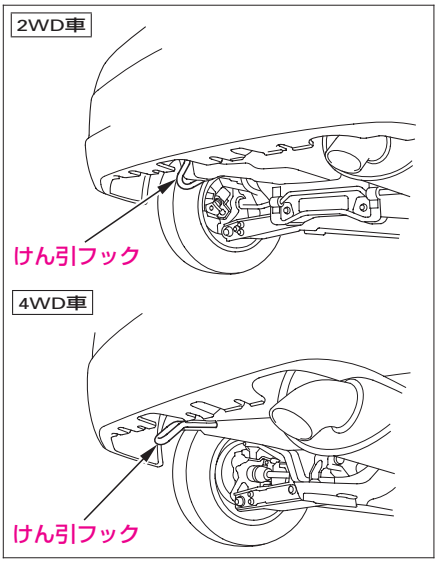
- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引されるときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。
  そのままけん引されると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

知 識

- エンジンが停止している状態でのけん引は、次のことに気をつけてください。
  - ブレーキの倍力装置がはたらかなくなるので、ブレーキのききが悪くなります。
  - パワーステアリングのパワー装置がはたらかなくなるので、ハンドル操作が重くなります。
- 長い下り坂では、ブレーキ部の温度が上がりブレーキがきかなくなるおそれがあります。レッカー車にけん引してもらってください。

故障車をけん引するとき

やむをえず故障車をけん引するときは、自車より重い車のけん引は避けてください。



アドバイス

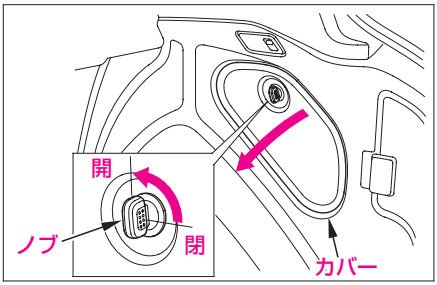
- けん引フックにロープをかけるときは、車体やフックの破損・変形を防ぐために次のことに気をつけてください。
  - ・けん引フック以外のところにロープをかけないでください。
  - ・けん引時にけん引フックに大きな衝撃が加わるような運転をしないでください。
  - ・けん引ロープはできるだけ伸縮性のあるロープを使用してください。
- ワイヤーロープや金属製のチェーンなどを使ってけん引するときは、車体にあたる部分のチェーンに布をまくなどして行ってください。そのままけん引すると、バンパーに傷をつけるおそれがあります。

パンクしたとき

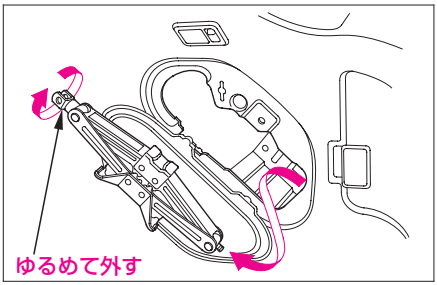
ジャッキの取り扱い

●ジャッキの取り出しかた

①ノブを回してカバーを外します。



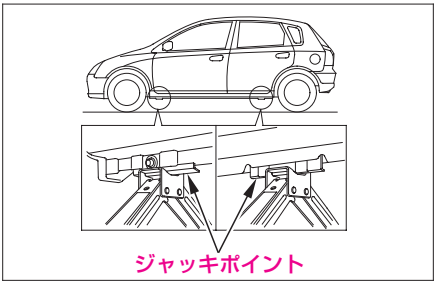
②ジャッキをゆるめて外します。



知 識

- ジャッキを格納するときはドライバーなどで無理に締めないでください。
  ジャッキ取り付け部が変形するおそれがあります。

●ジャッキをかける位置

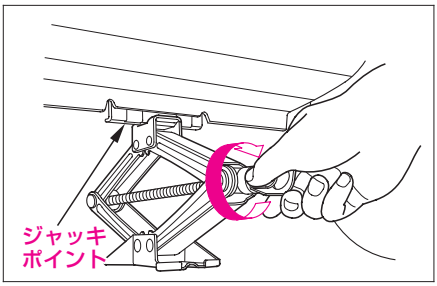


●ジャッキのかけかた

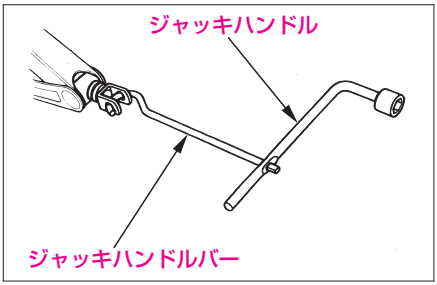
①地面が固い平らなところに車を停めます。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。

③ジャッキを地面に置き、手で回してジャッキの溝がジャッキポイントに入るまで上げます。



④ジャッキハンドルとジャッキハンドルバーを使って、タイヤと地面が少し離れるまで車体を上げます。



⚠警告

●車がジャッキだけで支えられているときは、不安定な状態にあるので車の下に入ったりしないでください。
万一、ジャッキが外れると、思わぬ事故につながります。

⚠注意

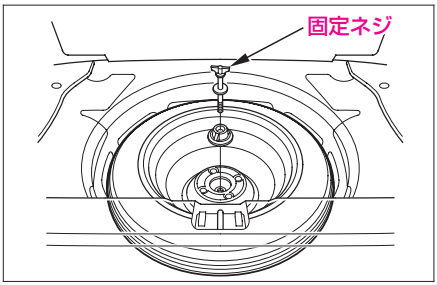
●ジャッキを使うときは安全のため、次のことを必ず守ってください。
- エンジンをかけたままにしない。
- 地面が固い平らなところ以外では使用しない。
- 指定された位置以外にかけない。
- 人や荷物をのせたままにしない。
- ジャッキの上や下に物をいれたりしない。
- タイヤ交換やタイヤチェーン着脱以外には使用しない。

知 識

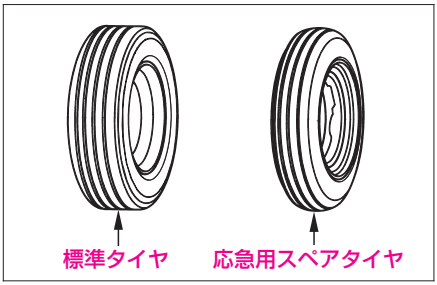
●この車に搭載されているジャッキをお使いください。他のジャッキでは支えられる重量(呼荷重)が不足したり、形状が合わないことがあります。

応急用スペアタイヤ

固定ネジをゆるめて取り出します。



応急用スペアタイヤは、タイヤがパンクしたときの応急用としてのみに使うタイヤです。



お使いになるときは次のことをお守りください。

知 識

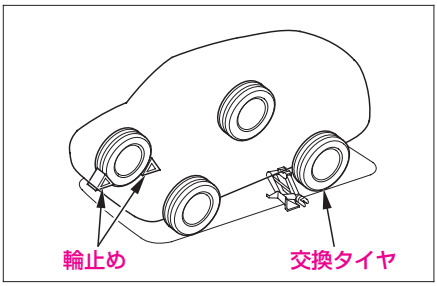
- 空気圧はときどき点検し、指定空気圧でお使いください。
  指定空気圧：
  420 kPa (4.2 kgf/cm²)
- 応急用スペアタイヤを装着したときは、100km/h以下で走行し、できるだけ早く標準タイヤに交換してください。
- 応急用スペアタイヤは標準タイヤと比べて直径が小さいため車高が低くなります。突起物など乗り越えるときは、車の下にひっかけないように注意してください。
  （4WD車を除く）
- この応急用スペアタイヤとホイールはこの車の専用品です。他のタイヤやホイールと組み合わせたり、他の車に使わないでください。
- 応急用スペアタイヤにはタイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これにタイヤチェーンを装着してください。

タイヤ交換

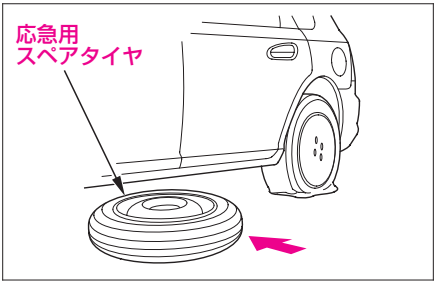
1はじめに

①車を地面が固く平らで安全な場所に停め、工具類、応急用スペアタイヤを取り出します。

②パーキングブレーキを十分にかけ、交換するタイヤと対角線上にあるタイヤの前後に石などで輪止めをします。



③応急用スペアタイヤは交換するタイヤ近くの車体の下にホイール表面を上にして置きます。

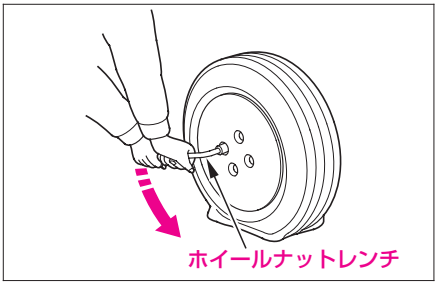


2ジャッキで車体を上げる

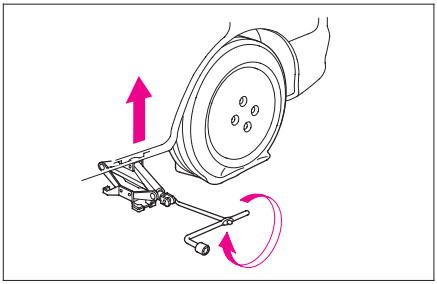
①ジャッキをセットします。

→208ページ

②ホイールナットをホイールナットレンチで少し(約１回転)ゆるめます。

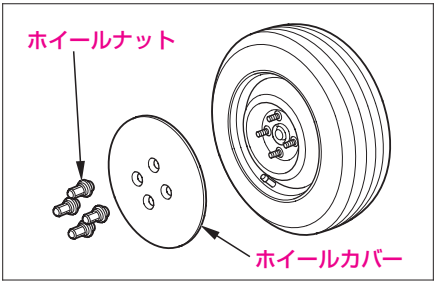


③タイヤと地面が少し離れるまでジャッキで車体を上げます。



3タイヤを交換する

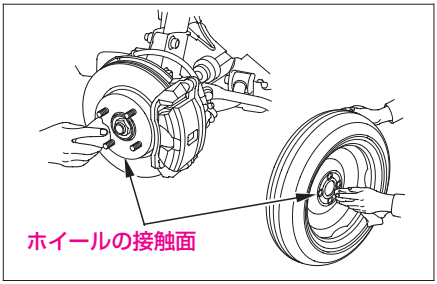
①ホイールナット、ホイールカバー(タイプ別装備)を外し、タイヤを外します。



知 識

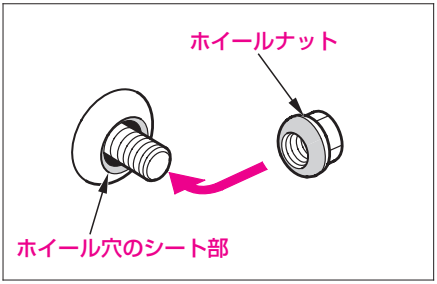
- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②応急用スペアタイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



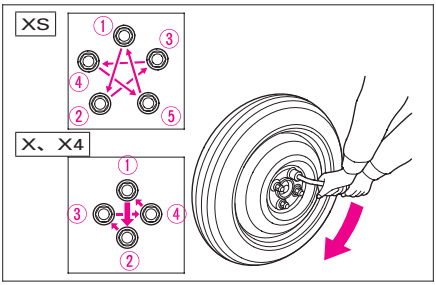
③応急用スペアタイヤを取り付けます。

④ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



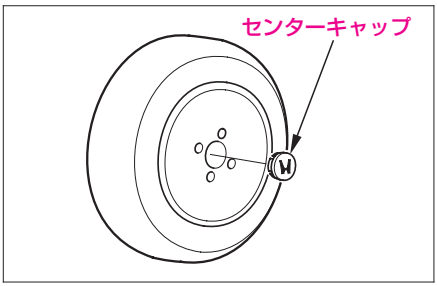
⑤ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)

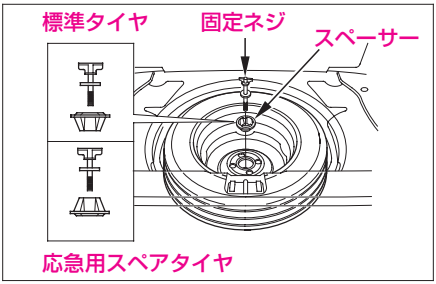


4標準タイヤを収納する

①パンクした標準タイヤにセンターキャップが付いているときは、センターキャップを外します。

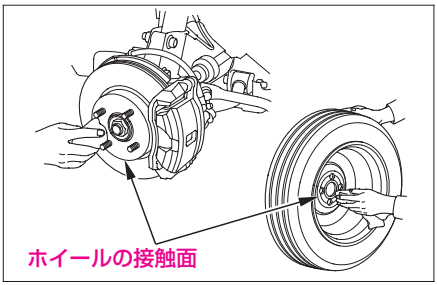


②パンクした標準タイヤをしまい、スペーサーを、応急用スペアタイヤを固定していたときとは逆向きにして固定します。



5標準タイヤを取り付けるときは

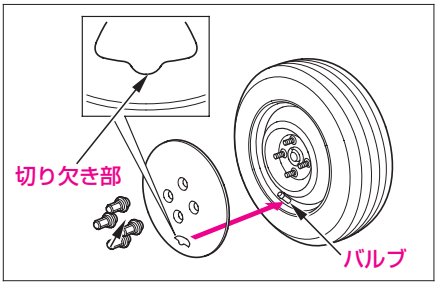
①標準タイヤのホイールの接触面のよごれをふき取ります。



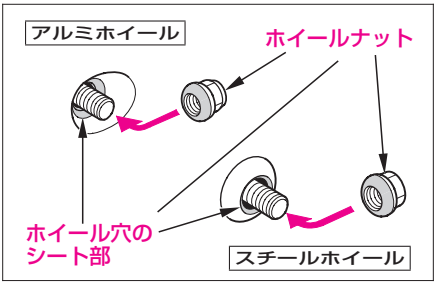
知 識

- タイヤを地面に置くときは、ホイール表面を上にして置いてください。
  下にして置くと、ホイールに傷がつくおそれがあります。

②ホイールカバーを取り付けるときは、切り欠き部がバルブの位置にくるようにします。

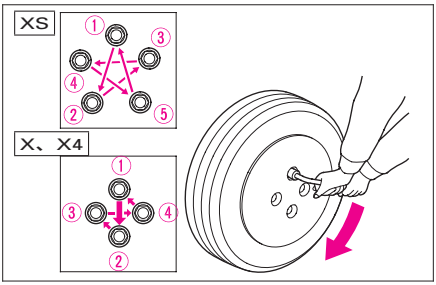


③ホイールナットがホイール穴のシート部に軽く当たり、ホイールがガタつかない程度までホイールナットを締めます。



④ジャッキをおろし、図の番号順に2～3度にわたり、ホイールナットをしっかり締め付けます。

ホイールナット締め付けトルク:
98－118 N·m (10.0－12.0 kgf·m)



アドバイス

- 4WD車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。
  サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響をあたえます。

知 識

- この車専用のホイールをお使いください。
  専用以外のホイールを使うと走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずホンダプリモ店にご相談ください。
- レンチを足で踏んだり、パイプなどを使って必要以上に締め付けないでください。トルクがかかりすぎることがあります。
- パンク修理、タイヤの摩耗、リムの変形などでホイールバランスが狂うことがあります。車体の振動などの異常を感じたらホンダプリモ店で点検を受けてください。
- タイヤ交換は安全のため、地面の硬い平らな場所で、他の交通に十分注意して行ってください。必要に応じて停止表示板、非常点滅表示灯を使ってください。
- 必ず指定サイズ、同一種類のタイヤを使ってください。指定サイズ以外のタイヤや種類の異なるタイヤを使うと安全性を損ないます。
- 応急用スペアタイヤの空気圧は使うときに調整してください。
  やむをえず、未調整のまま走る場合は、速度を控えめにしてください。

タイヤの空気圧　→278ページ

- **ホイールカバー装備車**
  ホイールカバーは、ホイールナットを外さないと取り外しができません。
  ドライバーなどで無理にこじらないでください。
- **アルミホイール装備車**
  パンク修理などでホイールを取り付け直したときには、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。



オーバーヒートしたとき

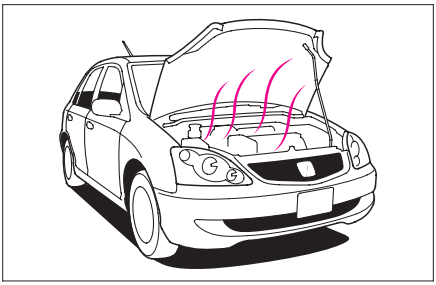
次のようなときは、オーバーヒートです。
・水温計の針が“H”の目盛に入ったり、エンジンの力が急に落ちる。
・エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている。

⚠警告

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、ボンネットを開けないでください。
  蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。
- エンジンが十分に冷え、水温が下がるまでラジエーターキャップを外さないでください。
  冷却水には圧力がかかっているため、蒸気や熱湯がふき出し、やけどなどの重大な傷害を受けるおそれがあります。

●処置のしかた

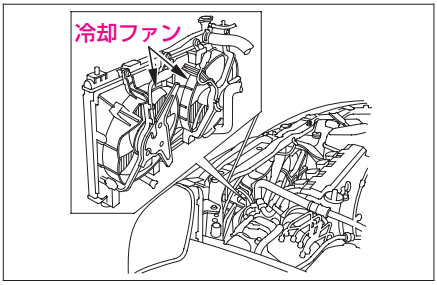
①車を安全な場所に停めます。
②エンジンをかけたままボンネットを開けて風通しをよくします。



知 識

- エンジンルームから蒸気が出ているときは、エンジンを止めます。
  蒸気が出なくなってからボンネットを開け、エンジンをかけてください。

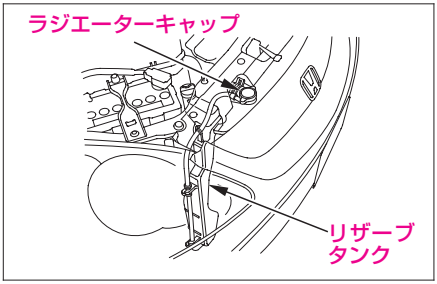
③冷却ファンの作動を確認し、水温計の針が下がってきてからエンジンを止めます。
冷却ファンが作動していないときはすぐにエンジンを止めてください。



アドバイス

- 冷却ファンが作動していない場合は、故障が考えられますので、ホンダプリモ店へご連絡ください。

④エンジンが冷えてから、冷却水量、ホースなどからの水漏れを点検します。



⑤冷却水量が不足していたらラジエーターとリザーブタンクに冷却水を補給します。冷却水がない場合は、応急的に水を補給します。

アドバイス

- エンジンが熱いときに冷却水を入れないでください。急に冷たい冷却水を入れると、エンジンが損傷するおそれがあります。
冷却水はエンジンが冷えてからゆっくりと入れてください。

⑥なるべく早くホンダプリモ店で点検を受けてください。

電気系統が異常のとき

バッテリーあがりのとき

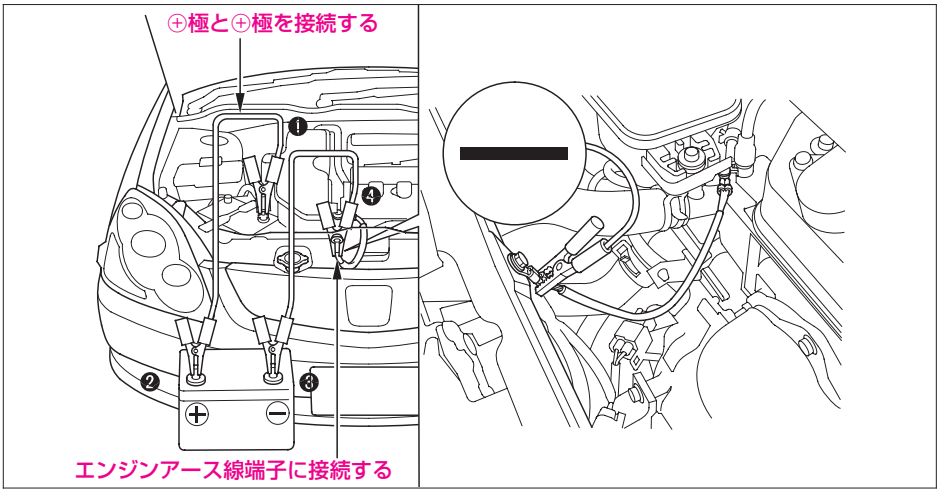
次のようなときは、バッテリーあがりです。
・スターターが回らないか、回っても回転が弱くエンジンがかからない。
・ライトがいつもより極端に暗かったり、ホーンの音が小さい。

●処置のしかた

救援車のバッテリーを利用してエンジンを始動させます。
①ブースターケーブルを次の順番でつなぎます。

1本目
- ❶自車のバッテリーの⊕端子
- ❷救援車のバッテリーの⊕端子

2本目
- ❸救援車のバッテリーの⊖端子
- ❹自車のエンジンのアース線端子



②救援車のエンジンを始動し、回転数を少し高めにします。
③自車のエンジンをかけます。
④ブースターケーブルをつないだときと逆の順番で外します。
⑤Honda販売店や最寄りのガソリンスタンドなどで点検を受けてください。

⚠警告

●バッテリーを取り扱うときは次のことを必ず守ってください。
バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
・バッテリー液が不足しているときは、エンジンの始動または充電を行わないでください。
DELPHI製バッテリーのバッテリー液について　→240ページ
・火気を近づけないでください。
・帯電した体でバッテリーに触れないでください。
・換気に十分注意し、換気の悪い場所では充電を行わないでください。
・バッテリーを充電するときは、すべてのキャップを外してください。（DELPHI製バッテリーを除く）

●ブースターケーブルをつなぐときは次のことを必ず守ってください。火花が出て、バッテリーから発生する可燃性のガスに引火すると爆発のおそれがあります。
・自車のバッテリーの⊖端子に直接ケーブルをつながないでください。
・⊕端子と⊖端子を間違えないでください。
・ケーブルの先端どうしを接触させないでください。

●バッテリー液は希硫酸です。目や皮ふに着くとその部分が侵されますので十分注意してください。
万一、付着したときはすぐに多量の水ですくなくとも5分間以上洗浄し、飲み込んだときはすぐに多量の飲料水を飲んでください。応急処置後は、専門医の診察を受けてください。

知　識

●バッテリー液が不足しているときは、使用しないでください。
バッテリー内部の劣化の進行が促進するおそれがあります。

●ブースターケーブルのクリップは、エンジン始動時などの振動で外れたりしないように確実に固定してください。また、ブースターケーブルが冷却ファンやベルトに巻き込まれないように十分気をつけてください。

●救援車には、12Vのバッテリーを装着している車を使用してください。

●バッテリー交換などでバッテリーケーブルを取り外すと、ラジオにセットされた周波数が消去されます。また、バッテリーを取り付けた後は運転席パワーウィンドーのオート作動ができなくなります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。
はさみ込み防止機構　→47ページ

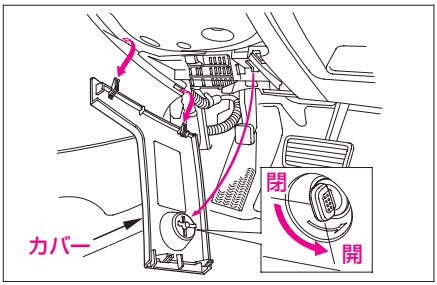
ライト類が点灯しないとき、電気装置が作動しないとき

バッテリーがあがっていないときは、ヒューズ切れや電球(バルブ)切れが考えられます。

①エンジンスイッチを“0”の位置にします。
②ヒューズが切れていないかを点検します。
・故障の状況から点検すべきヒューズをヒューズボックスの表示で確認し、点検します。
③必要に応じて、ヒューズや電球を交換します。

●ヒューズの点検、交換

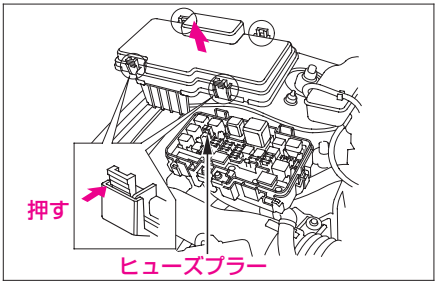
運転席足元のヒューズボックス



・各ヒューズの装備と容量

	表示	装備	容量
1		イグニッションコイル	15A
2		ECU	20A
3	—	—	—
4		発電機	10A
5	—	—	—
6		パワーウィンドー／サンルーフ	7.5A
7		サンルーフ	20A
8		オーディオ	7.5A
9		リヤワイパー／ウォッシャー	10A
10		メーター	7.5A
11		ABSユニット	7.5A
12	—	—	—
13		SRSエアバッグシステム	10A
14		電動ドアミラー	10A
15	—	—	—
16	—	—	—
17		フューエルポンプ	15A
18		シガレットライター	15A
19		方向指示器	7.5A
20		フロントワイパー／ウォッシャー	20A
21	—	—	—
22	AS	パワーウィンドー助手席	20A
23	DR	パワーウィンドー運転席	20A
24	RR L	パワーウィンドー後席左側	20A
25	RR R	パワーウィンドー後席右側	20A

エンジンルーム

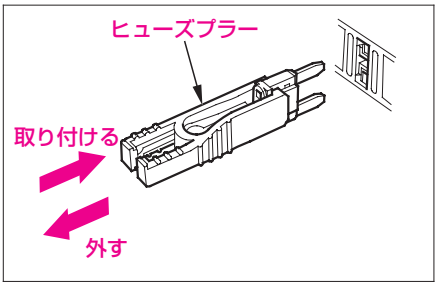


・各ヒューズの装備と容量

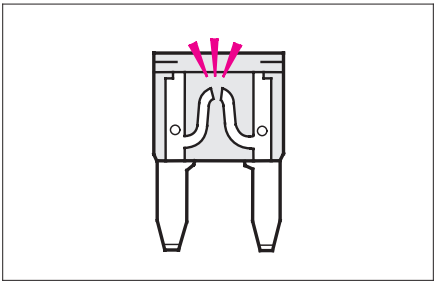
	表示	装備	容量
1		冷却ファン（コンデンサーファン）	20A
2		車幅灯／尾灯	15A
3		室内灯／マップランプ	7.5A
4		冷却ファン（ラジエーターファン）	20A
5		非常点滅表示灯	10A
6		ECU	15A
7		ホーン／制動灯	15A
8		ABSユニット	20A
9		バックアップ	10A
10		ABSユニット	40A
11		リヤデフロスター	30A
12		ヒーターモーター	40A
13		パワーウィンドー／サンルーフ	40A
14		ECU	40A
15		左側ヘッドライト	20A
16		MPCSユニット	20A
17		右側ヘッドライト	20A
18		EPS	60A
19		バッテリー	80A
20		イグニッション	40A
		スペアヒューズ	

ヒューズの外しかた

備え付けのヒューズプラーでヒューズを外します。



ヒューズが切れているとき



ヒューズボックスの表示に従い規定容量のヒューズに交換します。

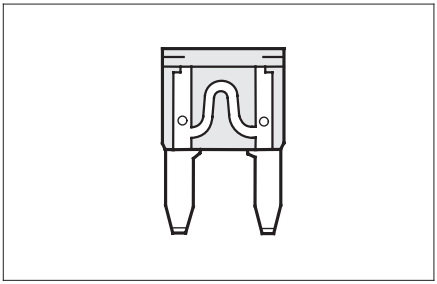
アドバイス

- 規定容量のヒューズ以外のものは絶対に使わないでください。
  配線コードなどを焼損させる原因となります。

知 識

- オーディオのヒューズが切れると、ラジオにセットされた周波数が消去されます。
- 運転席パワーウィンドーのヒューズが切れると、ヒューズを交換した後も運転席パワーウィンドーのオート作動ができなくなります。その場合は、オート作動の機能を復帰させてください。
  はさみ込み防止機構　→47ページ
- 交換しても、またヒューズが切れる場合は、電気系統の異常が考えられますので、ホンダプリモ店で点検を受けてください。

ヒューズが切れていないとき



●ライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。

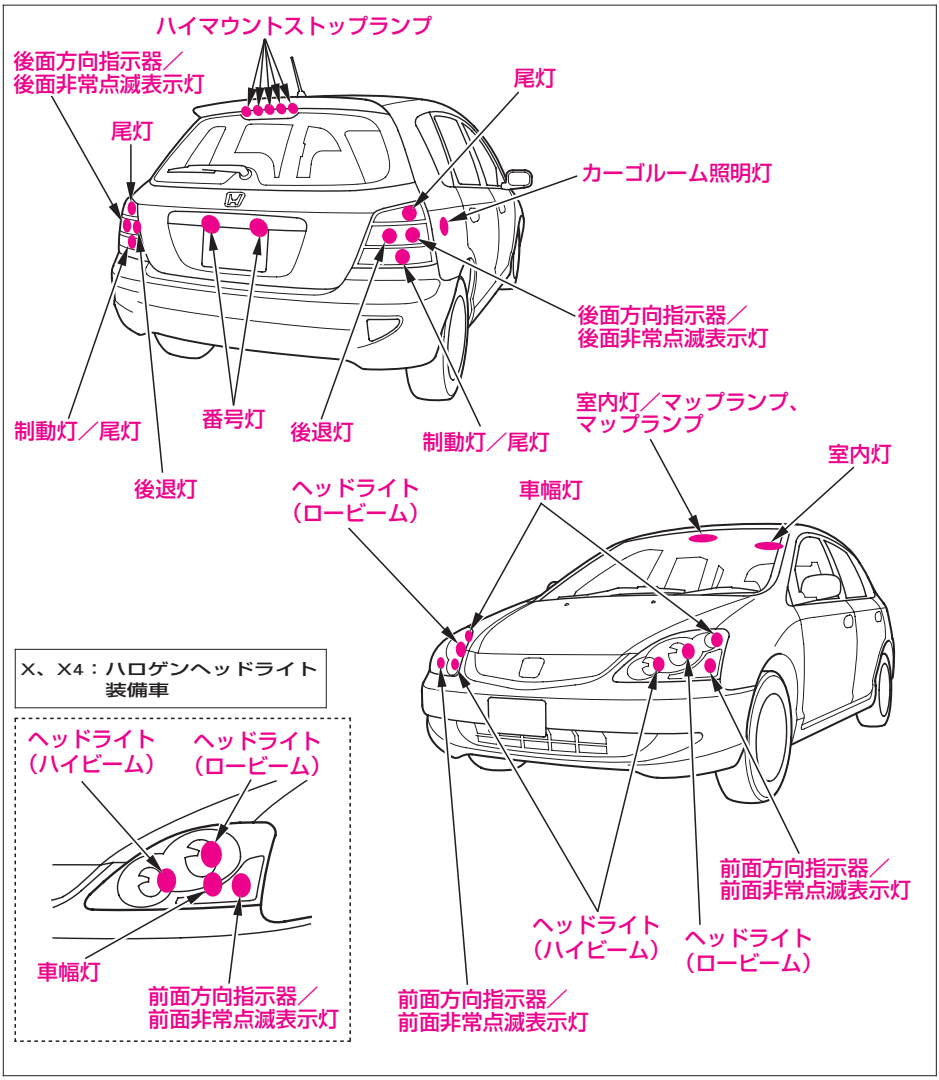
知 識

●電球が切れていない場合は、電気系統の異常が考えられますので、ホンダプリモ店で点検を受けてください。

●ライト類以外の電気装置が作動しないときは、電気系統の異常が考えられますので、ホンダプリモ店で点検を受けてください。

●電球(バルブ)の交換

ヒューズが切れていないのにライト類が点灯しないときは、電球切れが考えられます。
電球を点検し、切れているときは交換してください。





知 識

- ランプ本体やレンズを外すときは、ボディに傷を付けないように注意してください。
- 電球を交換するときはワット(W)数の違うものを使わないでください。

電球のワット数　→275ページ

- ハロゲンバルブはガラス球内部の圧力が高いため、落としたり、物をぶつけたり、傷をつけたりすると破損してガラスがとび散ることがあります。
  取り扱いには十分に注意してください。
  また、ハロゲンバルブの電球の表面に手などが、触れないようにしてください。
  使用時電球が高温になるため、油などが付着すると寿命が短くなります。触れた場合は、中性洗剤の薄い水溶液を柔らかい布に含ませてよくふき取ってください。
- ヘッドライト、制動灯などのランプは、雨天走行や洗車などの使用条件によりレンズ内面が一時的に曇ることがあります。これはランプ内部と外気の温度差によるもので、雨天時などに窓ガラスが曇るのと同様の現象であり、機能上の問題はありません。
  ただし、レンズ内面に大粒の水滴がついているときやランプ内に水がたまっているときは、ホンダプリモ店にご相談ください。

ヘッドライト(ロービーム)について

ディスチャージヘッドライト装備車

ヘッドライトの電球切れの点検、交換は必ずホンダプリモ店で行ってください。

⚠注意

- ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

ヘッドライト(ロービーム)

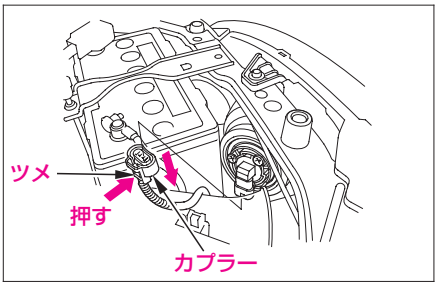
ハロゲンヘッドライト装備車

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

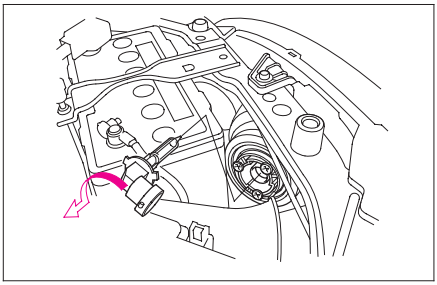
ハロゲンバルブについて　→227ページ

X、X4

①カプラーのツメを押しながらカプラーを外します。



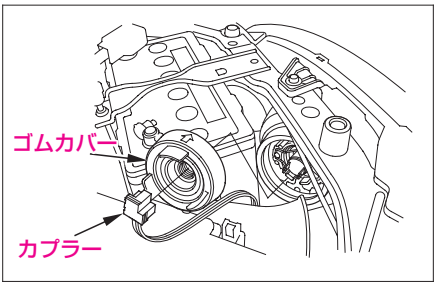
②電球を左へ回して抜き取ります。



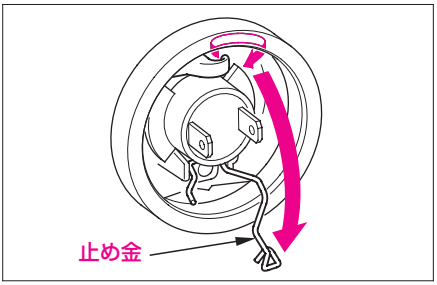
XS

①カプラーを抜き取ります。

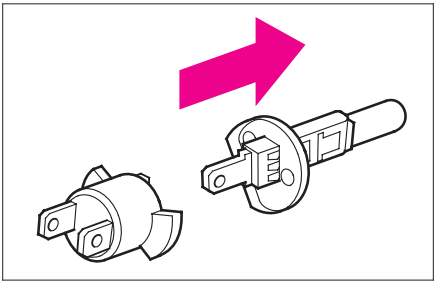
②ゴムカバーを外します。



③止め金を外し、電球を外します。



④電球本体を抜き取ります。



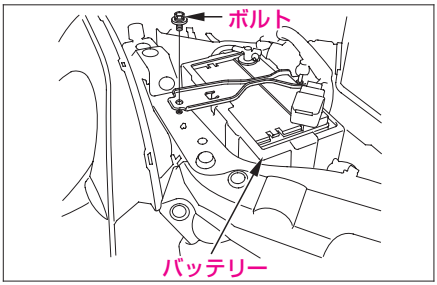
ヘッドライト(ハイビーム)

ハロゲンバルブを使用していますので、取り扱いに注意してください。

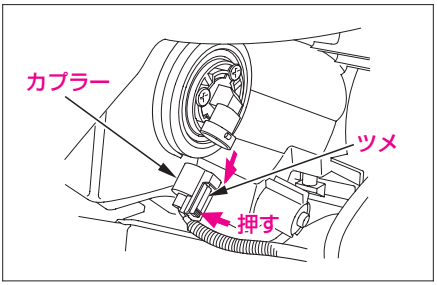
ハロゲンバルブについて　→227ページ

① **右側のみ**

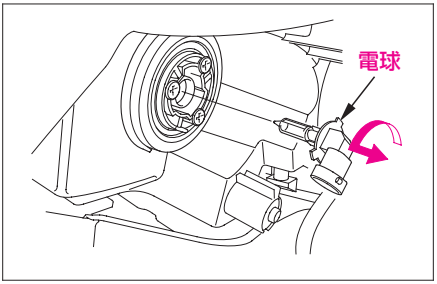
ボルトを外し、バッテリーをずらします。



②カプラーのツメを押しながらカプラーを外し、電球を抜き取ります。



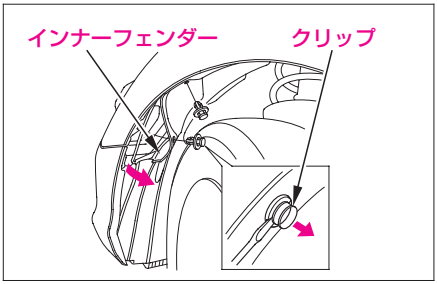
③電球を左へ回して抜き取ります。



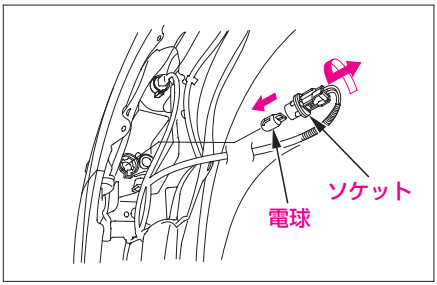
前面方向指示器／前面非常点滅表示灯

①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。

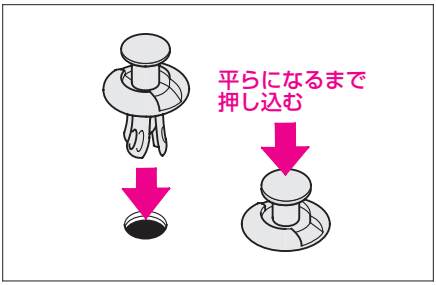
②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。



③ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



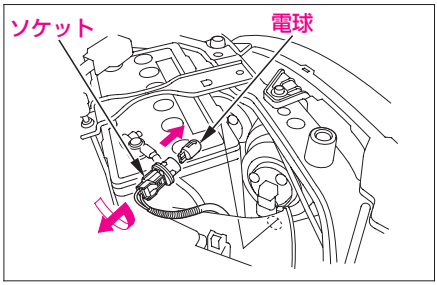
インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。



車幅灯

X、X4：ハロゲンヘッドライト装着車

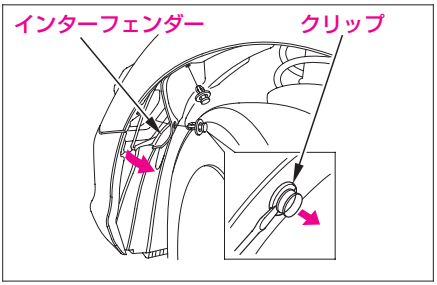
ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。



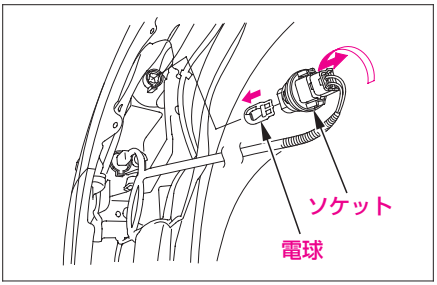
**XSおよび
X、X4：ディスチャージヘッドライト装着車**

①交換する側と反対にハンドルをいっぱいに切ります。

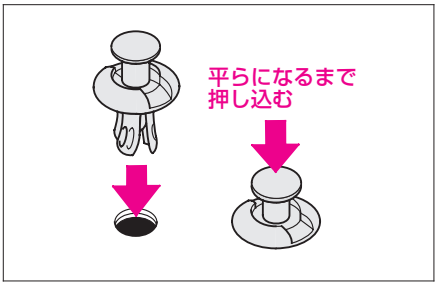
②クリップを外してインナーフェンダーをめくります。



③ソケットを左へ回して外し、電球を抜き取ります。

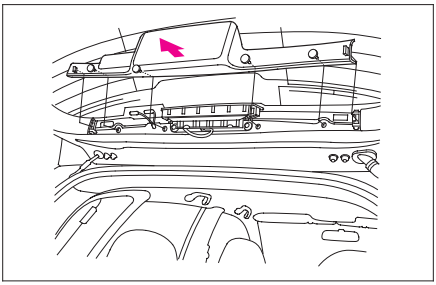


インナーフェンダーを固定するときは、クリップの中央部のピンを起こしたままインナーフェンダーに差し込み、ピンを平らになるまで押し込みます。

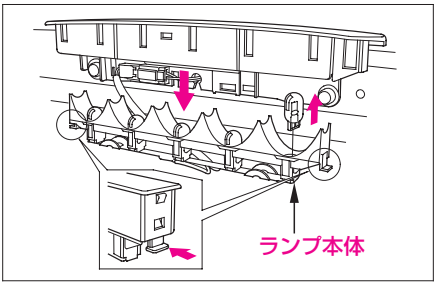


ハイマウントストップランプ

①カバーを取り外します。

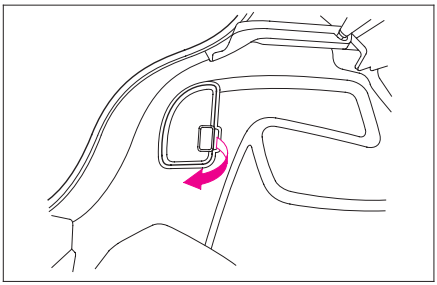


②ツメを押しながらランプ本体を外し、電球を抜き取ります。

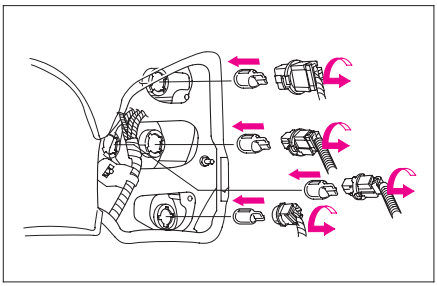


制動灯／尾灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯、尾灯、後退灯

①カバーをめくります。

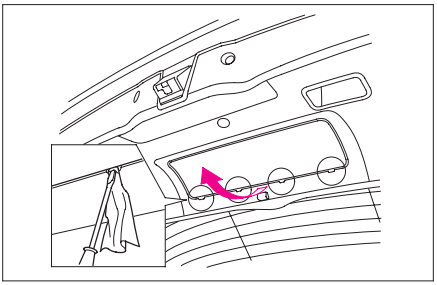


②ソケットを左へ回して外し、制動灯／尾灯、後面方向指示器／後面非常点滅表示灯、後退灯は電球を押しながら左に回して抜き取ります。尾灯は電球を抜き取ります。

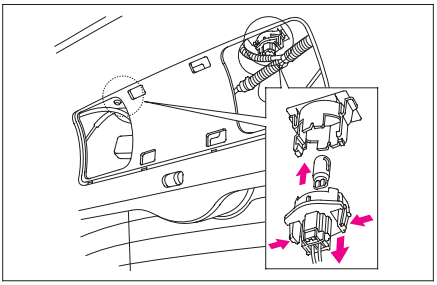


番号灯

①カバーを取り外します。

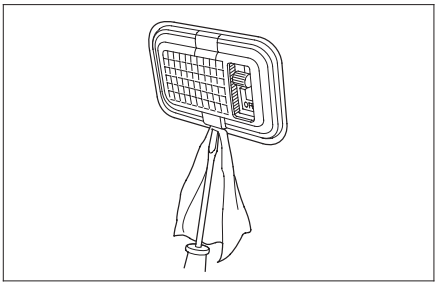


②ツメを押しながら本体を外し、電球を抜き取ります。

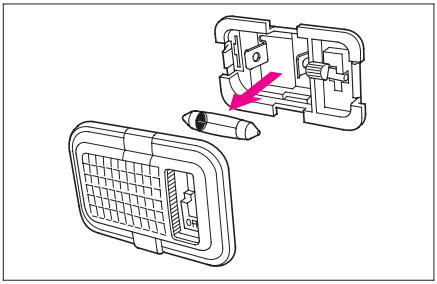


カーゴルーム照明灯

①レンズを外します。

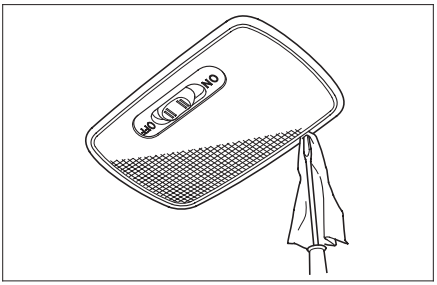


②電球を抜き取ります。

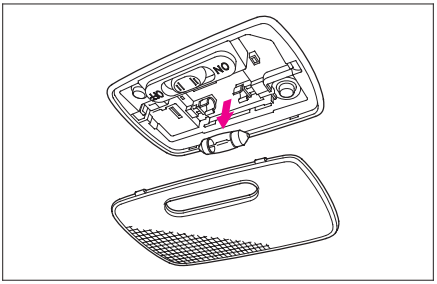


室内灯

①レンズを外します。



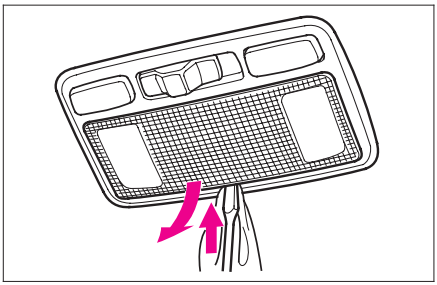
②電球を抜き取ります。



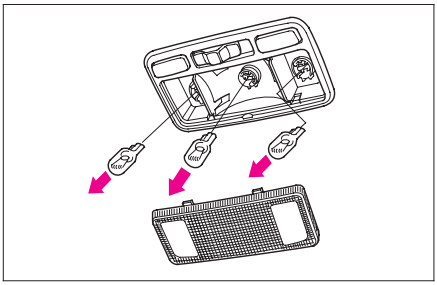
室内灯／マップランプ

サンルーフ装備車

①レンズを外します。



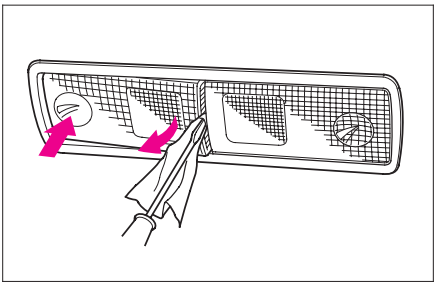
②電球を抜き取ります。



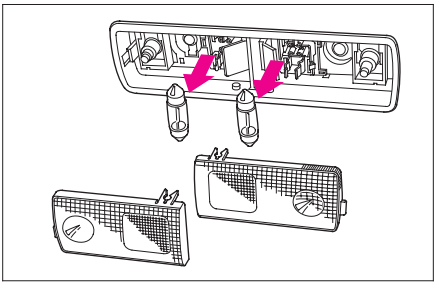
マップランプ

サンルーフ非装備車

①レンズを押してすきまを作り、ドライバーを差し込んでレンズを外します。



②電球を抜き取ります。

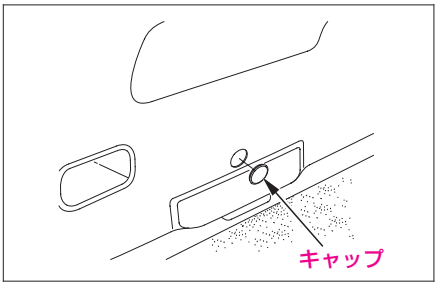


テールゲートの解錠ができないとき

万一、テールゲートが解錠できなくなった場合は、応急処置としてテールゲート解錠レバーを矢印の方向に動かして解錠してください。

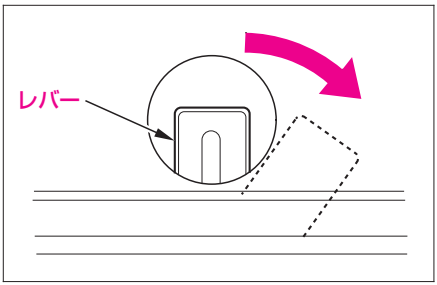
▼

①テールゲートの内側にあるキャップを外します。



②レバーを矢印の方向に動かし、テールゲートを解錠します。

テールゲートの開閉　→43ページ



テールゲート解錠レバーを元の位置にすると施錠します。

知 識

- 応急処置後はホンダプリモ店で点検を受けてください。

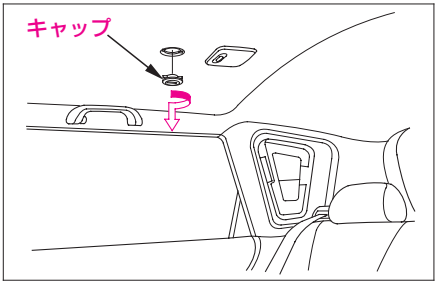
サンルーフが作動しないとき

サンルーフ装備車

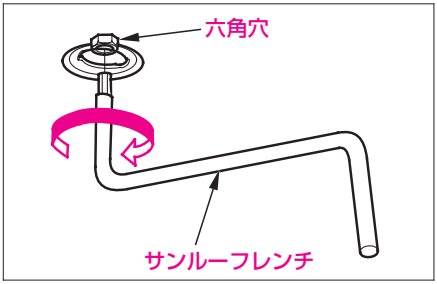
万一、電動でサンルーフが閉まらなくなった場合は、応急処置として工具袋内のサンルーフレンチを使って閉めてください。

工具　→199ページ

①後席ルーフ中央のキャップをコインなどで回し、キャップの溝が図のように前後を向いたところで取り外します。



②六角穴にサンルーフレンチを差し込んで回します。



知　識

- サンルーフが閉まった後もレンチを回し続けるとサンルーフ後部が持ち上りますので、そのときはレンチを反対方向に回して正しい位置まで戻してください。
- 応急処置後はホンダプリモ店で点検を受けてください。

6

車の手入れ

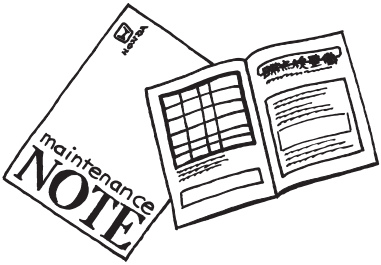
●点検・整備について……240

●日常の手入れ
外装の手入れ……244
内装の手入れ……246
タイヤについて……248
アルミホイールについて……250

●車にあった部品の使用……252

点検・整備について

車は走行するにしたがい、また時間が経過するとともに部品の劣化や摩耗などが進んでいき、適切な点検整備を行わないと、安全・快適に乗っていただけなくなるばかりか大気汚染や騒音の増加などを引き起こすことがあります。
このようなことから点検整備が必要であり、ドライバー(運転者)は点検整備を実施することが法律でも義務づけられています。



詳しくは、別冊のメンテナンスノートに記載してありますので、よくお読みになり必ず点検整備を行ってください。

●点検整備の種類

日常点検

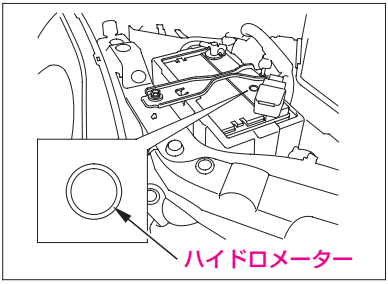
日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検で、お客様自身で実施が可能な項目となっています。
点検時期の目安としては長距離走行前や洗車時、給油時などに実施します。

バッテリー液について

DELPHI製バッテリー装備車

バッテリー液量の点検は、バッテリー上部に埋め込まれているハイドロメーターで行います。
ハイドロメーターの色で、バッテリーの状態を示します。
ハイドロメーターがクリア(透明)になったらバッテリー液が不足していますので交換してください。

メーターの色	状態	必要な処置
グリーン	良好	使用可能
ブラック	要充電	補充電が必要
クリア(透明)	要交換	交換が必要



法定定期点検

年間走行距離が10,000km程度の標準的な使用を前提に、12か月および24か月毎に実施する点検です。
法律で定められているものと、Hondaが指定するものがあります。



その他

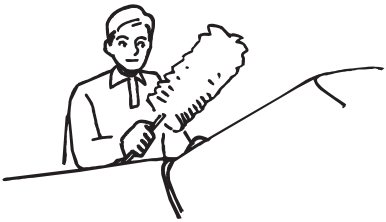
新車時の無料点検や定期交換、厳しい使われかたをしたときの点検整備があります。



日常の手入れ

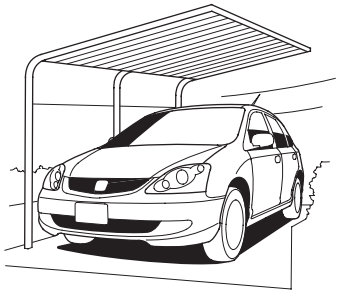
走行後は

- 塗装面に付着したほこりを毛ばたきなどではらい落としましょう。
- とび石などによる塗装面の傷は錆の原因となります。見つけたら早めに補修してください。



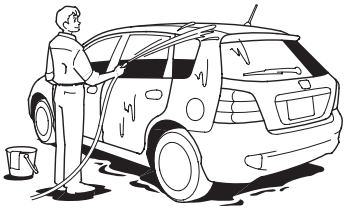
保管、駐車は

- 風通しのよい車庫や、屋根のある場所をおすすめします。



洗車を忘れずに

- 少なくとも月に一度は洗車しましょう。
- 次の場合は、必ず洗車してください。
  - 凍結防止剤を散布した道路を走行したとき、海岸地帯を走行したとき。
    錆の原因となるので車体の下回り、フェンダーの内側を念入りに洗ってください。
  - コールタール、ばい煙、鳥のふん、虫、樹液などがついたとき。
    化学変化で塗装面にむらができるので、中性洗剤で洗ってから水で完全に流し、必要に応じてポリシングワックス（ワックス乳液）で磨いてください。
    ポリシングワックスは、Honda純正ケミカル用品をお使いください。

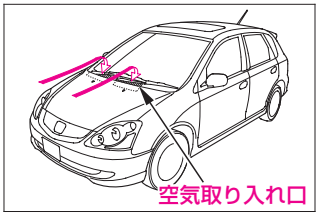


外装の手入れ

●洗車のしかた

・十分に水をかけながら、下回り、足まわりの汚れを落とします。
・塗装面は屋根から順に下のほうへ水をかけながら、スポンジかセーム皮のような柔らかいもので洗います。
・汚れがひどいところは中性洗剤で洗い、さらに水で完全に洗い落とします。
・水が乾かないうちに拭き取ります。

●ボンネットの裏にインシュレーターが貼ってあるものは、直接水をかけて洗わないでください。
●故意に空気取り入れ口やエンジンルーム内の電気部品に水をかけないでください。
故障のもとになります。



自動洗車機を使うとき

・ドアミラーを格納して洗車してください。
・ホイールカバー装備車は、自動洗車機のホイール専用ブラシを使わないでください。十分水をかけスポンジまたはセーム皮のような柔らかいもので洗ってください。

●自動洗車機を使うと、ブラシの傷がつき光沢が失われたり、劣化を早めることがあります。
●センターアンテナを前方に倒したまま、自動洗車機にかけないでください。
センターアンテナが破損するおそれがあります。

コイン洗車機を使うとき

洗車ノズルと車体の距離を十分に離して洗車してください。
ウィンドーまわりは、特に注意して行ってください。近づけすぎると室内へ水が侵入することがあります。

●ワックスをかけるとき

月に一回程度または水をはじかなくなったときに行います。
洗車したあと、日陰か車体表面が体温以下になっているときにワックスをかけます。

・ワックスはHonda純正ケミカル用品をお使いください。



●みがき粉(コンパウンド)入りのワックスは使わないでください。
塗装面に細かい傷が残ることがあります。

●樹脂塗装部品（バンパーなど)の手入れ

ガソリン、オイル、ラジエーター液、バッテリー液などが付着すると、しみの発生や塗膜がはがれる原因となります。
すみやかに柔らかい布で拭き取ってください。

●樹脂塗装部品の傷の補修をする場合は、ホンダプリモ店にご相談ください。不適当な塗料を使うと塗膜を傷めます。

●ガラスの手入れ

ガラスの油膜を取るときは、ガラスクリーナーをお使いください。

・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

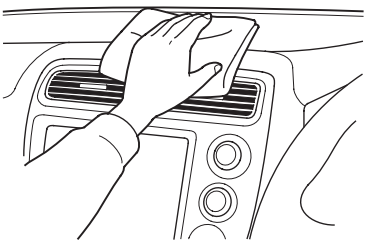
ガラスの清掃をするとき

ガラスの内側に電熱線やアンテナ線が装着されていますので、これに沿って柔らかい布で拭いてください。

内装の手入れ

①中性洗剤の水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。
・飲食物などをこぼしたときは、すぐに汚れを落としてください。
②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいに拭き取ります。
③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

●室内に水をかけないでください。電気部品に水がかかると故障の原因となります。



●ケミカル類、液体芳香剤について

ケミカル類、液体芳香剤はその成分によっては、樹脂部品、布材、本革の変色、しみ、ひび割れを起こすことがあります。
取り扱いには十分にご注意ください。

●ベンジン、ガソリンなどの有機溶剤や酸、アルカリ性の溶剤は使わないでください。
また、ケミカル類には、これらの成分が含まれているおそれがあります。ご使用の前に確認してください。
●ケミカル類を使用したあとは、必ず乾いた布で軽く拭き取ってください。
また、使用した布はそのまま樹脂部品、布材の上に長時間放置しないでください。
●液体芳香剤はこぼさないように、容器を確実に固定してください。
芳香剤の使用にあたっては固形タイプのものをおすすめします。



●本革の取り扱い

タイプ別注文装備

①ウール用中性洗剤の５％水溶液を柔らかい布に軽く含ませて、汚れを落とします。

②真水を含ませた柔らかい布で、残った洗剤分をきれいにふき取ります。

③直射日光を避け、風通しのよい日陰で乾燥させます。

知　識

- 本革部分に油汚れなどが付くとカビなどの原因となるので、早めに落としてください。
- 本革部分を直射日光に長時間さらすと、変質、縮みの原因となります。駐車するときは、日よけに心がけてください。
- 夏期などは、ビニール類を本革部分の上に置かないでください。
  室内が高温になっていると、ビニールが変質して本革部分に付着するおそれがあります。
- 雨などでぬれたときは、早めに水分をふき取り風通しのよい日陰で乾燥させてください。
  シート表面に水分が残っていると、皮革の硬化、収縮の原因となります。
- **サイドエアバッグシステム装備車**
  助手席シートは、乾燥していない状態で使用するとサイドエアバッグの乗員姿勢検知システムが正しく作動しないおそれがあります。

タイヤについて

タイヤの異常摩耗、亀裂、損傷および指定外の空気圧は、乗り心地、操縦性、タイヤの寿命を損ないます。また、摩耗したタイヤは雨天時の高速走行で通常よりもハイドロプレーニング現象を起こしやすくなります。

・安全のため、こまめに点検を行ってください。
　また、必ず指定サイズ、同一種類のタイヤをお使いください。

⚠警告

●次のようなタイヤは使わないでください。
　コントロールを失うことがあり、思わぬ事故につながります。
　・摩耗限度を超えたタイヤ
　・指定空気圧に調整されていないタイヤ
　　タイヤの空気圧
　　→280ページ

⚠注意

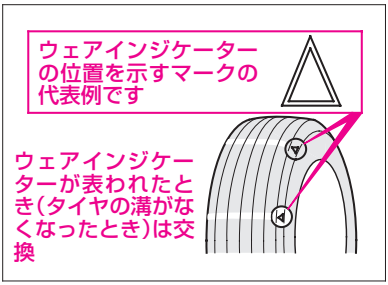
●タイヤの空気圧を調整するときは、規定圧力を守ってください。
　空気を入れ過ぎると、タイヤが破裂しけがをするおそれがあります。

●4WD車は、四輪とも同一指定サイズ、同一種類、同一銘柄および摩耗差のないタイヤをお使いください。サイズ、種類、銘柄や摩耗度合の異なるタイヤを混用すると動力伝達装置に悪影響を与えます。

摩耗限界表示（ウェアインジケーター）

ウェアインジケーターが表れたらタイヤを交換してください。

・ウェアインジケーターは、タイヤの接地面にあり、他の部分より溝が1.6mmだけ浅くなっています。



●位置交換（タイヤローテーション）

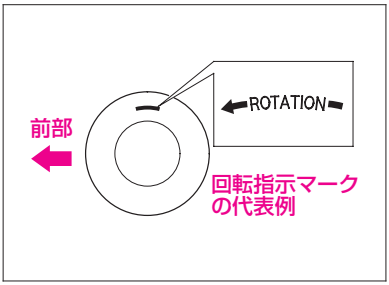
5,000kmごとにタイヤの位置を交換します。

・同じ位置で長く走ると偏摩耗し、タイヤの寿命を縮めるだけでなく走行性、制動力にまで悪影響を与えます。

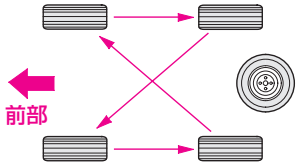
●応急用スペアタイヤは、位置交換に使わないでください。

タイヤ回転指示マーク

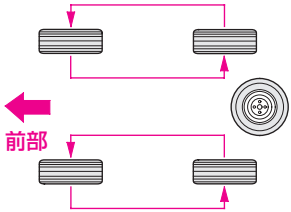
タイヤの性能上、回転方向が指定されているタイヤには、タイヤ側面に回転指示マークがあります。
回転指示マークが前部へ向くように取り付けてください。



回転指示マークがないタイヤの場合



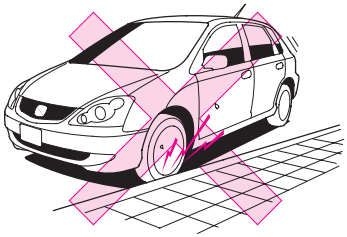
回転指示マークがあるタイヤの場合



アルミホイールについて

アルミホイール装備車

アルミホイールは一般的なスチールホイールと取り扱いかたが異なります。
アルミホイールの特性を維持するため、必ず次のことをお守りください。



●取り扱い

- この車専用のホイールをお使いください。専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。ホイール交換に際しては、必ずホンダプリモ店にご相談ください。
- パンク修理などでホイールを取り付け直した際には、念のため1,000km走行時にホイールナットのゆるみの有無を点検してください。
- アルミホイールは傷つきやすいので歩道の縁石などに乗り上げたり、すり当てたりすることを避けてください。
- バランスウェイトやバルブはHonda純正のアルミホイール専用品をお使いください。ホイールに傷をつけたり、機能を損なうことがあります。
- タイヤチェーンを装着するときは、正しく装着してください。ホイールに対して片寄ったり、ゆるかったりするとホイールに傷をつけるおそれがありますので注意して装着してください。



●手入れ

- アルミホイールは、塩分や汚れを嫌いますので、海水や道路凍結防止剤などが付いたときには、スポンジに中性洗剤を含ませ、汚れを早めに落としてください。
- ホイールの光沢を維持するため、時々ワックスがけをしてください。
- アルミホイールは傷つきやすいので、砂入り石鹸や硬いブラシを使わないでください。高速洗車機（ホイール専用ブラシ付きのもの）によるホイールの洗浄は避けてください。
- スチーム洗浄などで、熱湯がホイールに直接かからないようにしてください。
  光沢を失うおそれがあります。

車にあった部品の使用

車の性能、品質を維持するために、Honda車に最も適したHonda純正部品をお使いください。
純正部品は厳しい検査を実施し、Honda車に適合するように作られています。
お求め、装着に際しては、ホンダプリモ店にご相談ください。

・純正部品には下のマークがついています。

HONDA
GENUINE PARTS

・Honda純正部品以外の車の性能や機能に適さない部品を使用しないでください。
適正な性能や機能を発揮しなかったり、思わぬ事故のもとになったりすることがあります。
・車の改造はしないでください。
不正改造は、法律に触れることはもちろん思わぬ事故を起こす場合があります。

7

車との上手なつきあいかた

●積雪・寒冷時の取り扱い
運転するまえ……254
運転するとき……256
駐車するとき……260
冬期の手入れ……262

●こんなときは
雨の日の運転……264
夏場の取り扱い……266

●環境にやさしい省エネドライブをするために……268

積雪・寒冷時の取り扱い

運転するまえ

●車に積もった雪や着氷は取り除く

屋根に積もった雪

走行時にガラス面に落ちた雪が視界のさまたげとなり危険です。走行するまえに取り除いてください。

・氷結している部分を無理に取り除くと塗装などを傷めます。氷が溶けてから取り除いてください。



ガラス面の雪や霜

雪や霜を落として視界を確保してください。

・プラスチックの板などを使うとガラスに傷をつけずに落とすことができます。

足まわりの着氷

足まわりなどに氷塊が付着している場合は、部品を損傷しないように十分注意して取り除いてください。

●凍結しているとき

ドアの凍結

無理に開けるとドアまわりのゴムがはがれたりするので、お湯をかけて氷を溶かしてから開けてください。

・ドアキー穴部には、お湯をかけないでください。凍結すると、キーが差し込めなくなります。



お湯をかけたあとは、凍結防止のために水分をよく拭き取ってください。

ワイパーの凍結(ガラス面が着氷、積雪しているとき)

ワイパーブレード(ゴム部)を損傷したり、モーターの故障となりますので、氷や雪を取り除いてから動かしてください。

●乗車するとき

靴にこびりついた雪をよく落としてから、乗車してください。

・ペダル類を操作するときに滑ったり、室内の湿気が多くなりガラスが曇ったりすることがあります。



運転するまえに

ペダル類やハンドルの動きが円滑かどうか確認してください。

運転するとき

●雪道や凍結路では、たいへん滑りやすくなっているので、速度を落とし車間距離を十分とって運転しましょう。
また、ハンドルやブレーキの操作は特に慎重にしてください。
・急加速、急減速、急ブレーキや急ハンドルは横すべりを起こして方向性を失います。

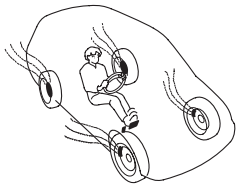


●冬用タイヤ、タイヤチェーンを装着して走行してください。
タイヤチェーンについて
→258ページ
・冬用タイヤを装着するときは、四輪とも同じ種類のものに交換してください。
・地区条例により違いがありますので、その地区の条例に従ってください。

●冬用タイヤを装着したときには、安全のため高速走行は避けてください。

●ブレーキのききについて

ブレーキ装置に付着した雪や水が凍結し、ブレーキのききが悪くなることがあります。
その際には、前後の車に十分注意して、ブレーキペダルを軽く踏みながら低速で走行し、ブレーキのしめりを乾かしてください。



- ブレーキのききが回復しないときは、ブレーキ系統に異常が考えられますので、ただちにホンダプリモ店で点検を受けてください。

●ウォッシャー液を噴射するとき

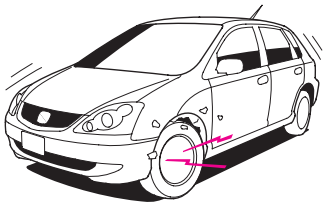
先にヒーターを使ってフロントガラスを暖めてからウォッシャー液を噴射します。

⚠注意

- 寒冷時はフロントガラスが暖まるまでウォッシャー液を噴射しないでください。
  ウォッシャー液が凍りついて視界のさまたげとなり、思わぬ事故につながるおそれがあります。

●ハンドルのきれについて（タイヤまわりの着氷）

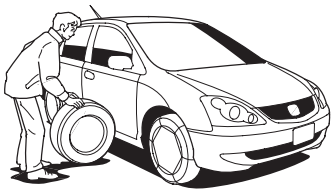
フェンダー裏側に付着した雪が氷結し、次第にたい積してハンドルのきれが悪くなることがあります。
ときどき確認し、着氷が大きくなる前に取り除いてください。



●パンクしたとき（タイヤチェーン装着時）

前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に付け、外した後輪タイヤを前輪につけてタイヤチェーンを装着します。

・応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。



●タイヤチェーンについて

推奨タイヤチェーン

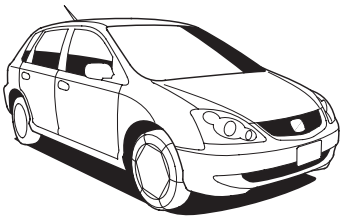
お求めはホンダプリモ店へお申し付けください。

タイヤサイズ	適合チェーン
195/60R15 88H	Honda純正 スーパーグリップ チェーン
205/55R16 89V	Honda純正 スチールチェーン

●タイヤチェーンはタイヤに合った適正なものをお使いください。
推奨タイヤチェーン以外のものを使うと、ブレーキ配管やフェンダーなどを破損するおそれがあります。

標準的なタイヤチェーンの取り付けかた

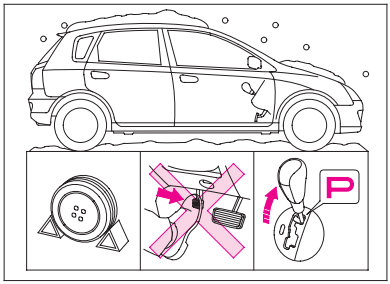
タイヤチェーンは、駆動輪の前輪に装着してください。
4WD車の場合も前輪駆動を主とした四輪駆動なので、チェーンは前輪に装着してください。
後輪には、タイヤチェーンを装着しないでください。



- タイヤチェーンに付属の取扱説明書にしたがって、正しく取り付けてください。
- タイヤチェーンは平らな所で他の交通に十分注意して取り付けてください。
  必要に応じて非常点滅表示灯などを使ってください。
- タイヤチェーンを取り付けたときには、安全のため雪道、凍結路では30km/h以下の速度で運転してください。
  なお乾燥路面ではタイヤチェーンを装着したままで走行するのは避けてください。チェーンの摩耗を早めます。
- 応急用スペアタイヤには、タイヤチェーンは装着できません。
  チェーン装着時に前輪がパンクしたときは、応急用スペアタイヤを後輪に装着し、外した後輪タイヤを前輪に取り付け、これに標準タイヤ用のタイヤチェーンを装着してください。

駐車するとき

パーキングブレーキの凍結を防ぐために、パーキングブレーキは使わないでください。
セレクトレバーを[P]に入れます。
石などで輪止めをしておきます。



●屋外に駐車するとき

- エンジンの冷えすぎを防ぐために、車の前部を風下や日の当たる方向に向けて停めてください。
  - ・エンジンが冷えすぎると始動しにくくなることがあります。
- 落雪や積雪を避けるために、軒下や樹木の下などには停めないでください。
  - ・車の屋根などがへこむことがあります。
- ワイパーアームは起こしてください。
  - ・雪の重みでアームの取り付け部がこわれることがあります。

ワイパーアームの起こしかた
→265ページ

●長期間使わないで屋外におくとき

塗装面の保護とドアまわりの凍結を防ぐために、ボディカバーを使ってください。

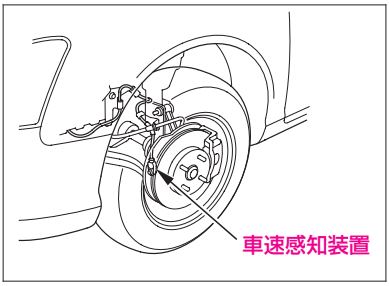
⚠注意

- 格納するとき、エンジン部を毛布で覆ったり、ラジエーターのまわりに段ボールや新聞紙をはさみ込んだりしないでください。
  そのまま走行すると、火災のおそれがあります。

冬期の手入れ

●雪道走行後の手入れ

・フェンダー裏側や足まわりに付着した泥、雪は周囲の部品を損傷しないように取り除いてください。足まわり(前、後輪の4か所)に車速感知装置が取り付けてありますので、傷をつけないように特に注意してください。



・積雪時には道路に凍結防止剤がまかれていることがあります。錆の原因になりますので、走行後はすぐに洗車してください。特に下回りは念入りに行ってください。

●点検・整備

バッテリーについて

気温が下がるとバッテリーの性能が低下し、エンジン始動に支障をきたすことがありますので、液量、比重の確認をし、必要に応じて液の補給や補充電をしてください。

DELPHI製バッテリーの
バッテリー液について
→240ページ

エンジンオイルについて

冬期はオイルの劣化が激しくなります。
冬期に主として短距離、または市街地を運転される方は、早めに交換してください。

冷却水について

冷却水の凍結を防ぐために点検してください。

ウォッシャー液について

ウォッシャー液の凍結を防ぐために、ウォッシャー液の濃度を上げてください。

● 点検方法はメンテナンスノートを参照し、交換はホンダプリモ店にご相談ください。

こんなときは

雨の日の運転

雨の日は視界が悪くなるうえ、窓ガラスが曇ったり、路面が滑りやすくなるなど悪条件が重なるので通常より注意深い運転が必要です。

- 急加速、急ブレーキや急ハンドルを避け、晴れの日よりも速度を落とし、車間距離を十分にとって運転しましょう。
- ハイドロプレーニング現象に注意しましょう。
- 雨の降り始めの舗装道路は滑りやすいので特に気を付けましょう。
- 冠水路などの深い水たまりは走行しないでください。
  エンジンの破損や電装品の故障および車両故障につながるおそれがあります。

⚠警告

- 滑りやすい路面では、急加速、急ブレーキや急ハンドルは避けてください。
  車のコントロールを失い思わぬ事故につながります。

ハイドロプレーニング現象とは

路面が水でおおわれているところを高速で走行しようとしたときに、タイヤと路面の間に水の膜ができ、タイヤが浮いた状態になることをいいます。

- このような状態になると、ハンドルやブレーキがきかなくなり、非常に危険です。

●ガラスの曇りをとりたいとき

ガラスが曇って外が見にくいときは、エアコンのデフロスターを使って曇りをとります。

リヤガラスの曇りは

リヤデフロスタースイッチを押して、曇りをとります。

●ガラスの油膜をとりたいとき

油膜があると、雨の夜は対向車のライトなどが乱反射します。
ガラスクリーナーを使ってガラスの表面をきれいにします。

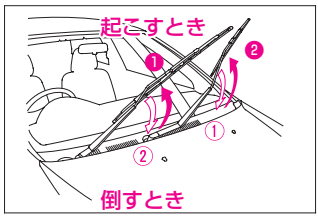
・ガラスクリーナーはHonda純正ケミカル用品をお使いください。

●ワイパーのふきむらがあるとき

ワイパーブレードのラバーが傷んでいると、ふきむらが出て視界のさまたげとなります。また、ガラス面を傷つけることがありますので、早めに交換してください。



●ワイパーアームを起こしたり倒したりするときは、図の順に行ってください。

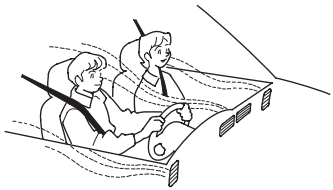


夏場の取り扱い

●エアコンの上手な使いかた

・冷媒(ガス)が不足していると、冷房性能が低下します。
夏になる前に点検、補充をしておきましょう。
・室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。
・エアコンの冷やしすぎは健康上良くありません。

● この車の冷媒は、環境保護のため、新冷媒HFC-134a（R-134a)を使用しています。
補充・交換が必要な場合は、ホンダプリモ店にご相談ください。



●炎天下に駐車するときは

・ボディーに覆いをかけたり、ハンドルやシートにタオルなどをかけて、室内温度の上昇を抑えましょう。
・フロントガラスにアルミ光沢性の日除けバイザーを使うと、反射光が集光し、インストルメントパネルなどが変色、変形することがあります。

●海から帰ってきたときは

海に出かけた後は車も塩分を浴びています。錆の原因になりますので早めに洗車してください。下回りも念入りに洗いましょう。

●オーバーヒートを防ぐために

冷却水の量が不足しないように、こまめに点検します。

・走行中、水温計の針が“H”の目盛に入った場合は、オーバーヒートのおそれがあります。安全な場所に停車してエンジンを冷やしてください。

オーバーヒートしたとき
→218ページ

環境にやさしい省エネドライブをするために

●点検整備をきちんとし、タイヤの空気圧を適正にしましょう。

■適正空気圧で50km走ると50kPa {0.5kgf/cm²} 減のときに比べてガソリン 150ccの節約。

▲CO_2 1250g削減(650km／月)



●タイヤの空気圧が低下すると走行抵抗が増加し、燃費に大きく影響します。また、冬用タイヤや幅広タイヤを装着したときも同様に燃費に影響します。

●不必要な荷物は降ろして走行しましょう。

■10kgの荷物を降ろして50km走ると、ガソリン 15ccの節約。

▲CO_2 130g削減(650km／月)



●エアコンは少し控えめにしましょう。
室内温度が高いときは、窓を開けて熱気を逃がしてからエアコンをかけましょう。

■エアコンを 6 分停止して、ガソリン 70ccの節約。

▲CO_2 1340g削減(3 時間／月)



●エアコンは冷媒を循環するため、コンプレッサーをエンジンで駆動しており、エンジンに大きな負荷が発生します。それを補うため、燃料消費が多くなります。

●ヘッドライトやリヤデフロスターは電力を多く消費するため、不必要なときはスイッチを“OFF”にしてください。

●発電機はエンジンで駆動しており、消費電力が増加すると発電量が増加し、エンジンの負荷が大きくなり、それを補うため、燃料消費が多くなります。

●空ぶかしはしないようにしましょう。

■空ぶかしを1回やめて、ガソリン 6 ccの節約。
▲CO_2 1150g削減(300回／月)



●長時間停車するときは、エンジンを停止してください。また、長すぎる暖機運転をしないようにしましょう。

■5分間のアイドリングを止めて、ガソリン65ccの節約。
▲CO_2 420g削減(10回／月)



●変速位置の選択は、走行速度や坂の勾配に合わせて適切に行ってください。

・通常はDで走行します。
・下り坂で速度が出すぎてしまうときは、オートマチック車はD3または2、マルチマチック車はSまたはLにし、エンジンブレーキを使います。
XSタイプで7速マニュアルシフトモードのときには、走行速度に合わせて、変速段を一段ずつ落としてください。



●下り坂などでエンジンブレーキを使う目的で、より低速のギヤを有効に使うと、燃料供給の停止時間が長くなり、燃費が良くなることがあります。

●経済速度について。

・高速道路では100km/hを80km/hにして燃費10～30%の節約。
・一般道路では法定速度(40～60km/h)の範囲で一定走行すると燃費は良くなります。



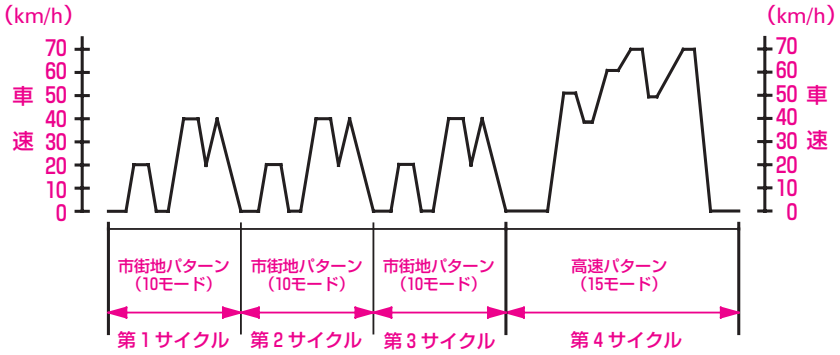
参考資料＊社団法人日本自動車工業会：「あしたへECO－MOTION参照
《対象車種2.0L乗用(AT)の燃費＝11.7km/l(10・15モード)が計算ベース》」

●10・15モード燃費について

10・15モード燃費とは

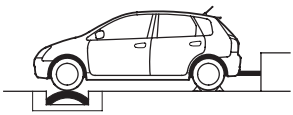
東京都内の幹線道路における平均的な走行形態の10モードと、高速走行や渋滞など大都市における走行形態を反映させた15モードを図のように
・市街地パターン(10モード)を３回
・高速パターン(15モード)を１回
の計４サイクルで走行したときの排出ガス量(g/km)を測定します。
このときに消費した燃料を10・15モード燃費(km/l)として表示しています。

＊計測走行距離　4.2km、平均時速　23km/h



10・15モード燃費と実走行燃費との違い

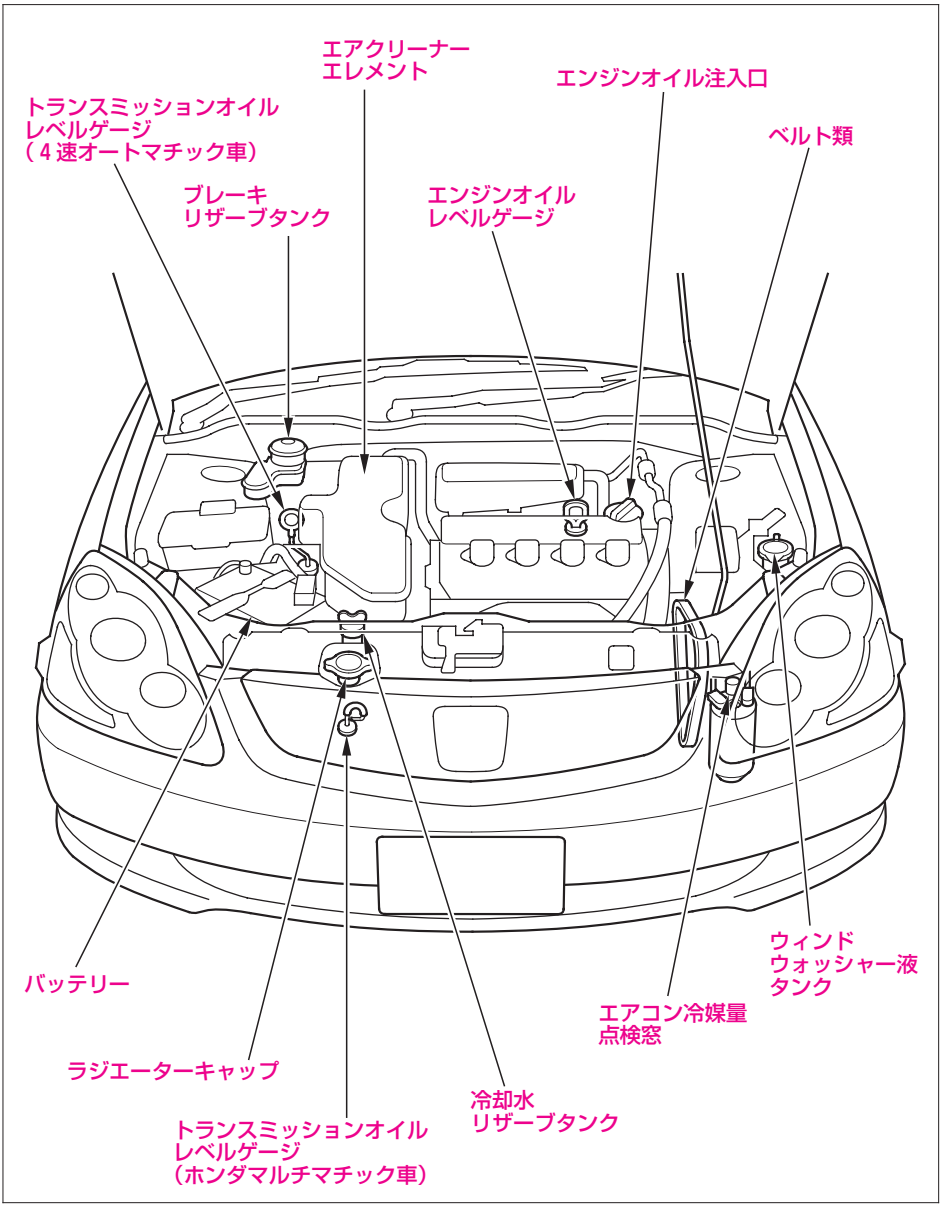
10・15モード燃費は図のようにシャーシダイナモメーター上で定められた試験条件のもとで行われた燃費値です。
実際の走行時には気象、道路、車両、運転、整備などの状況が異なってきますので、それに応じて燃費が異なります。



10・15モード燃費の計測方法（国土交通省認可時 測定条件）

- 3,000km慣らし走行後の車両
- 完全暖機状態　60km/h 15分暖機後モード測定
- 走行抵抗設定　車両（空車）状態＋110kg（2名乗車分）
- 搭載電気機器“OFF”状態
- エアコン“OFF”で測定

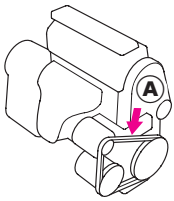
サービスデータ


エアクリーナー
エレメント
エンジンオイル注入口
トランスミッションオイル
レベルゲージ
（4速オートマチック車）
ベルト類
ブレーキ
リザーブタンク
エンジンオイル
レベルゲージ
ウィンド
ウォッシャー液
タンク
バッテリー
エアコン冷媒量
点検窓
ラジエーターキャップ
冷却水
リザーブタンク
トランスミッションオイル
レベルゲージ
（ホンダマルチマチック車）

点検整備については「メンテナンスノート」も合せてご覧ください。

項目		サービスデータ	
点火プラグ※	タイプ	NGK	ZFR6J-11
		DENSO	KJ20CR-L11
	電極のすき間	1.0－1.1 mm	

※：ISO（国際標準化機構）規格品の突出しタイプを使用しています。、のマークがついています。

項　目		サ　ー　ビ　ス　デ　ー　タ	
ベルトのたわみ量		⬇ の位置を押す Ⓐ：発電機ベルト （エアコンディショナーベルト兼用）	
	発電機ベルト	8.5－11.0 mm｛約98N（10kgf）の力｝	
ブレーキペダル	遊び	1－5 mm	
	床板とのすき間	144 mm｛約196N（20kgf）の力｝	
	カーペットとのすき間（参考値）	106 mm｛約196N（20kgf）の力｝	
パーキングブレーキ	踏みしろ	7－8回｛約294N（30kgf）の力｝	
バッテリー	容量／タイプ	ナビゲーションシステム装備車	36AH(5)／46B24R
		ナビゲーションシステム非装備車	34AH(5)／44B20R

項　目		サ　ー　ビ　ス　デ　ー　タ
電球（バルブ）	W（ワット）数	ヘッドライト(ロービーム)・・・・・・ 12V－35W ※1 12V－51W ※2 12V－55W ※3 (ハイビーム)・・・・・・ 12V－60W 前面方向指示器／前面非常点滅表示灯 ・・・・ 12V－21W(橙色) 車幅灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W 後面方向指示器／後面非常点滅表示灯 ・・・・ 12V－21W(橙色) 番号灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W 尾灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－5W 制動灯／尾灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－21/5W ハイマウントストップランプ・・・・ 12V－5W×5 後退灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－21W 室内灯・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－8W 室内灯／マップランプ・・・・・・・・・・ 12V－5W マップランプ・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 12V－8W カーゴルーム照明灯・・・・・・・・・・・・ 12V－3.4W

※1：ディスチャージヘッドライト装備車
※2：X、X4 ハロゲンヘッドライト装備車
※3：XS ハロゲンヘッドライト装備車

⚠注意

●ディスチャージヘッドライトのバルブを交換する場合は、必ずホンダプリモ店で行ってください。
ディスチャージヘッドライトは高電圧を使用しており、不適切な取り扱いや分解を行うと感電するおそれがあります。

項目		サービスデータ	
エアクリーナーエレメント	タイプ	湿式	
エンジンオイル	推奨オイル	Honda純正オイル（4サイクル四輪車用） ウルトラLEO SL（API SL/GF-3級 SAE 0W-20）※ ウルトラLTD SL（API SL/GF-3級SAE 5W-30） ウルトラGOLD SL（API SL級SAE 5W-40） ウルトラMILD SL（API SL/GF-3級SAE 10W-30）	
	規定量	オイル交換時	3.3ℓ
		オイル、オイルフィルター同時交換時	3.5ℓ

※：0W-20は、最も省燃費性に優れたオイルです。

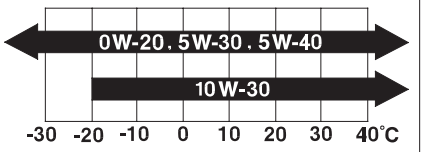
推奨エンジンオイル

Honda純正エンジンオイルまたはAPI SJ級以上か、オイル缶にAPI CERTIFICATION（エーピーアイ サーティフィケーション）マークの入ったエンジンオイルをお使いください。



API CERTIFICATIONマーク

市販のエンジンオイルは、外気温に応じた粘度のものを下表にもとづきお使いください。

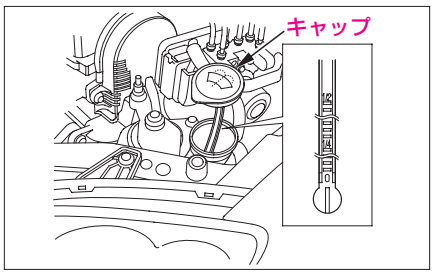


（外気温）

項目		サービスデータ	
燃料	指定燃料	無鉛レギュラーガソリン（無鉛ハイオクも使用可能）	
	タンク容量	2WD車	50 ℓ
		4WD車	45 ℓ
トランスミッションオイル	指定液	Honda純正ウルトラATF-Z1	
	規定量（交換時）	X4	2.9 ℓ
		X、XS	3.1 ℓ
デファレンシャルオイル（4WD車）	指定液	Honda純正ウルトラDPSF	
	規定量（交換時）	1.0 ℓ	
冷却水	指定液	Honda純正ウルトラｅクーラント	
	規定濃度	50%	
	規定量（交換時リザーブタンク0.4ℓ含む）	3.9 ℓ	
ブレーキ液	指定液	Honda純正ウルトラブレーキフルードDOT 3またはDOT 4	
ウォッシャー液	タンク容量	2.5 ℓ	

ウォッシャー液の量の点検

ウォッシャー液の量は、キャップに付いているウォッシャー液レベルゲージにより確認します。



X

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	195/60R15 88H	210 (2.1)		15×6JJ	15×6JJ
応急用スペアタイヤ	T125/70D15 95M	420 (4.2)		15×4T	

X4

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	195/60R15 88H	210 (2.1)		15×6JJ	15×6JJ
応急用スペアタイヤ	T135/80D15 99M	420 (4.2)		15×4T	

XS

項目 / タイヤサイズ		タイヤ空気圧 kPa(kgf/cm²)		リムサイズ※	
		前輪	後輪	スチールホイール	アルミホイール
標準タイヤ	205/55R16 89V	210 (2.1)			16×6½JJ
応急用スペアタイヤ	T135/70D15 99M	420 (4.2)		15×4T	

タイヤの溝の深さ	1.6 mm 以上
位置交換時期(タイヤローテーション)	5,000 km ごと

※：この車専用のホイールをお使いください。
専用以外のホイールを使うと、走行装置やブレーキ装置に支障をきたすおそれがあります。
ホイール交換に際しては、必ずホンダプリモ店にご相談ください。

名称	排気量(cm³)	車体形状	乗車定員(人)	タイプ
シビック	1,668	4 ドア ステーション ワゴン	5	X
				X4
				XS

さくいん

ア

アームレスト ····· 53・55
雨の日の運転 ····· 264
アルミホイール ····· 250
アンチロックブレーキシステム(ABS)
　運転のしかた ····· 148
　ABSのしくみ ····· 148
　警告灯 ····· 149
　取り扱いについて ····· 149
アンテナ ····· 166

イ

イグニッション(エンジン)
　キー ····· 32
　スイッチ ····· 96
イモビライザーシステム ····· 33
　表示灯 ····· 87
イルミネーションコントロール ····· 82

ウ

ウィンカー
　スイッチ ····· 99
　電球の交換 ····· 231・234
　表示灯 ····· 86
　W(ワット)数 ····· 275
ウィンドー ····· 46・48
ウェルカムメーター照明 ····· 83
ウェルカムランプ ····· 186
ウォッシャー液
　スイッチ ····· 101
　タンクの容量 ····· 277
　冬期の手入れ ····· 263
運転席カップホルダー ····· 194
運転のしかた ····· 104

エ

エアコン ····· 154
AM/FMラジオ一体式CDステレオ ····· 170
SRSエアバッグシステム
　SRSエアバッグシステムのしくみ ···· 128
　お子さまを乗せるときは ····· 133
　警告灯 ····· 135
　作動しないとき ····· 131
　作動するとき ····· 130
　取り扱いについて ····· 134
エレクトリックパワーステアリング(EPS)
　警告灯 ····· 95
エンジンオイル
　オイル量 ····· 276
　冬期の手入れ ····· 262
エンジンキー(キー) ····· 32
エンジンスイッチ ····· 96
エンジンのかけかた ····· 104・119
エンジンブレーキ ····· 18

オ

応急用スペアタイヤ
　格納場所 ····· 198
　空気圧 ····· 278
　サイズ ····· 278
　スペアタイヤについて ····· 210
オーディオ
　インデックス ····· 168
　上手な使いかた ····· 164
オートエアコン ····· 158
オートマチック車
　運転のしかた ····· 118
　オイル ····· 277
　セレクトレバー ····· 108・114
オーバーヒートしたとき ····· 218
オドメーター ····· 81
温度感知装置 ····· 163

カ

カーゴルーム照明灯
　使いかた ····· 188
　電球の交換 ····· 235
　W(ワット)数 ····· 275
外装の手入れ ····· 244
学童用(ジュニア)シート ····· 15・69
カップホルダー ····· 194
換気 ····· 13
環境にやさしい省エネドライブを
　するために ····· 268
寒冷時の取り扱い ····· 254

キ

キー ····· 32
キー抜き忘れ警告ブザー ····· 97
キーレスエントリー ····· 38
キーレステールゲートオープナー ····· 42
キックダウン ····· 20

ク

曇り取り(デフロスター) ····· 162
グラブレール ····· 196
クリープ現象 ····· 20
車にあった部品の使用 ····· 252
グローブボックス ····· 193

ケ

警告灯
　警告灯類 ····· 88
　電球切れの点検 ····· 95
携帯電話接続キット ····· 191
けん引
　けん引されるとき ····· 204
　故障車をけん引するとき ····· 207

コ

工具(ツール)
　格納場所 ····· 198
　種類 ····· 199
高速道路で故障したとき ····· 200
後退灯(バックランプ)
　電球の交換 ····· 234
　W(ワット)数 ····· 275
故障したとき ····· 200
故障の修理について ····· 201
小物入れ ····· 193

サ

サービスデータ ····· 272
サイドエアバッグシステム
　警告灯 ····· 145
　サイドエアバッグシステム
　　自動停止表示灯 ····· 87
　サイドエアバッグシステムのしくみ ·· 136
　作動しないとき ····· 139
　作動するとき ····· 138
　乗員姿勢検知システム ····· 142
　取り扱いについて ····· 144
三点式シートベルト ····· 67
サンシェード(遮光板) ····· 48
サンバイザー ····· 190
サンルーフ
　作動しないとき ····· 238
　操作 ····· 48

シ

シート
　カーゴスペースの作りかた ····· 56
　正しい運転姿勢 ····· 50
　フロントシート ····· 52
　リヤシート ····· 54
シートベルト ····· 64
　非着用警告灯 ····· 92
　ショルダーアンカー ····· 71
　種類 ····· 66
　着用のしかた ····· 70
　リマインダー ····· 67
シートベルトプリテンショナー
　シートベルトプリテンショナーの
　　しくみ ····· 146
　取り扱いについて ····· 147
シガレットライター ····· 189
事故が起きたとき ····· 202
室内灯(ルームランプ)
　使いかた ····· 186
　電球の交換 ····· 235・236
　W(ワット)数 ····· 275
シフトロック装置 ··· 23・109・115・121
霜取り・曇り止め ····· 162
ジャッキの取り扱い ····· 208
車幅灯(ポジションランプ)
　電球の交換 ····· 232
　W(ワット)数 ····· 275
充電警告灯 ····· 91
樹脂塗装部品 ····· 245
ジュニア(学童用)シート ····· 15・69
純正部品 ····· 252

ス

水温計 ····· 82
スイッチの使いかた ····· 96
スノータイヤ(冬用タイヤ) ····· 256
スパークプラグ(点火プラグ) ····· 273
スピードメーター ····· 81
スペアタイヤ
　格納場所 ····· 198
　空気圧 ····· 278
　サイズ ····· 278
　スペアタイヤについて ····· 210

セ

制動灯(ブレーキランプ)
　電球の交換 ····· 234
　W(ワット)数 ····· 275
積雪・寒冷時の取り扱い
　運転するとき ····· 256
　運転するまえ ····· 254
　駐車するとき ····· 260
　冬期の手入れ ····· 262
セレクトレバー
　操作 ····· 108・114
　ポジション表示灯 ····· 86
洗車 ····· 244
前照灯(ヘッドライト)
　上向きと下向きの切り換え ····· 98
　上向き表示灯 ····· 86
　追越合図(パッシング) ····· 98
　スイッチ ····· 98
　電球の交換 ····· 228
　W(ワット)数 ····· 275
センターアンテナ ····· 166
センターコンソール ····· 193

ソ

速度計 ····· 81
速度範囲 ····· 116
その他の安全装備 ····· 151

タ

タイヤ
　位置交換(ローテーション) ····· 249
　ウェアインジケーター ····· 248
　応急用スペアタイヤ ····· 210
　空気圧 ····· 278
　交換 ····· 211
　サイズ ····· 278
　スノータイヤ ····· 256
　チェーン ····· 258
　点検 ····· 248
タコメーター ····· 81

チ

チェーン ····· 258
チケットホルダー ····· 191
チャイルド(幼児用)シート ····· 15・69
チャイルドシート固定機構
　付きシートベルト ····· 74
チャイルドシート固定専用バー ····· 76
チャイルドシート固定装置 ····· 74
チャイルドプルーフ ····· 39
駐車
　坂道 ····· 25
　積雪・寒冷時の取り扱い ····· 260
駐車ブレーキ(パーキングブレーキ)
　警告灯 ····· 90
　積雪・寒冷時の取り扱い ····· 260
　操作 ····· 106
チルトステアリング ····· 60

テ

テールゲート
　開閉 ····· 43
　開閉警告灯 ····· 93
　施錠・解錠 ····· 42
デフロスター ····· 162
点火プラグ ····· 273
電気系統が異常のとき ····· 220
電気装置が作動しないとき ····· 222
電球(バルブ)
　交換 ····· 226
　W(ワット)数 ····· 275
点検・整備について ····· 240
電動リモコンドアミラー ····· 62

ト

ドア
　開閉警告灯 ····· 93
　施錠・解錠 ····· 36
　積雪・寒冷時の取り扱い ····· 255
ドアミラー ····· 62
冬期の手入れ ····· 262
道路で動けなくなったとき ····· 201
トランスミッション
　オイルの容量 ····· 277
　警告灯 ····· 92
トリップメーター ····· 81

ナ

内装の手入れ ····· 246
夏場の取り扱い ····· 266
7速モード ····· 110

ニ

日常の手入れ ····· 242
二点式シートベルト ····· 72
乳児用(ベビー)シート ····· 15・69

ネ

燃料(ガソリン)
　指定燃料 ····· 44・277
　タンク容量 ····· 44・277
　燃料計 ····· 82
　燃料残量警告灯 ····· 93
　補給口 ····· 44

ハ

パーキングブレーキ
警告灯 …… 90
積雪・寒冷時の取り扱い …… 260
操作 …… 106
灰皿 …… 190
ハイドロプレーニング現象 …… 264
ハイビーム表示灯 …… 86
ハイマウントストップランプ
電球の交換 …… 233
W(ワット)数 …… 275
ハザードランプ(非常点滅表示灯)
スイッチ …… 99
電球の交換 …… 231・234
W(ワット)数 …… 275
発炎筒
格納場所 …… 198
発炎筒について …… 199
バックミラー(後写鏡)
使いかた …… 61
バッテリー
冬期の手入れ …… 262
バッテリーあがり …… 220
バッテリー液について …… 240
容量 …… 274
バニティミラー(化粧鏡) …… 190
パワーウィンドー …… 46
パワードアロック(オートドアロック) …… 36
パンク
積雪・寒冷時の取り扱い …… 257
パンクしたとき …… 208
番号灯(ライセンスランプ)
電球の交換 …… 234
W(ワット)数 …… 275

ヒ

PGM-FI警告灯 …… 91
非常点滅表示灯(ハザードランプ)
スイッチ …… 99
電球の交換 …… 231・234
W(ワット)数 …… 275
尾灯
電球の交換 …… 234
W(ワット)数 …… 275
ヒューズ …… 222
表示灯 …… 84

フ

吹き出し風の調節 …… 155
踏切で動けなくなったとき …… 200
フューエルリッド …… 45
プラグ …… 273
ブレーキ
警告灯 …… 90
積雪・寒冷時の取り扱い …… 257
倍力装置 …… 18
フロントコンソールボックス …… 194
フロントシート …… 52

ヘ

ヘッドライト
　上向きと下向きの切り換え …… 98
　上向き表示灯 …… 86
　追越合図(パッシング) …… 98
　スイッチ …… 98
　電球の交換 …… 228
　W(ワット)数 …… 275
ヘッドレスト …… 52・54
ベビー(乳児用)シート …… 15・69

ホ

ホーンスイッチ …… 103
ホイールサイズ …… 278
芳香剤 …… 246
方向指示器(ウィンカー)
　スイッチ …… 99
　電球の交換 …… 231・234
　表示灯 …… 86
　W(ワット)数 …… 275
ボトルホルダー …… 196
ボンネット …… 40

マ

マップランプ
　使いかた …… 187
　電球の交換 …… 236
　W(ワット)数 …… 275
窓ガラスアンテナ …… 166
万一のとき …… 197

ミ

ミラー
　ドアミラー …… 62
　ルームミラー …… 61

ム

無線装置 …… 27

メ

メーター(計器類) …… 80

ユ

油圧警告灯 …… 90

ヨ

幼児用(チャイルド)シート …… 15・69
四輪駆動機構(4WD)
　運転するときは …… 150
　取り扱いについて …… 150

ラ

ライト消し忘れ警告ブザー …… 98
ライトスイッチ …… 98
ライト類が点灯しないとき …… 222
ラジオポケット …… 193

リ

リムサイズ …… 278
リモートコントロールドアミラー …… 62
リヤコンソールボックス …… 193
リヤシート …… 54
リヤシェルフ …… 192
リヤデフロスター …… 102
リヤワイパー …… 102・151

ル

ルームミラー(防眩式室内後写鏡) …… 61

レ

冷却水(ラジエーター液)
　水量 …… 277
　冬期の手入れ …… 263
レザークリーナー …… 247

ワ

ワイパー
　スイッチ …… 100
　積雪・寒冷時の取り扱い …… 255
ワックスがけ …… 245

A

ABS(アンチロックブレーキシステム)
運転のしかた ····· 148
ABSのしくみ ····· 148
警告灯 ····· 149
取り扱いについて ····· 149
A/C(エアコン)
エアコンインデックス ····· 156
オートエアコン ····· 158
吹き出し風の調節 ····· 155
ベルト ····· 274
AT(オートマチックトランスミッション)
運転のしかた ····· 118
オイル ····· 277
セレクトレバー ····· 108・114

E

ELR付き三点式シートベルト ····· 66
ELR・ALR付き三点式シートベルト ····· 66
EPS(エレクトリックパワーステアリング)
警告灯 ····· 95

H

HFC-134a(エアコン冷媒) ····· 266

I

INT(間欠ワイパー) ····· 101
ISO FIXテザータイプチャイルドシート
固定装置 ····· 15・16・69・74

P

PGM-FI警告灯 ····· 91
PRESS(シートベルトバックル) ····· 71・73

S

SRSエアバッグシステム
SRSエアバッグシステムのしくみ …… 128
お子様を乗せるときは …… 133
警告灯 …… 135
作動しないとき …… 131
作動するとき …… 130
取り扱いについて …… 134

W

W数(ライト類の電球のワット数) …… 275

お車についてのお問い合わせ、ご相談は、まず、ホンダプリモ店にお気軽にご相談ください。

お問い合わせ、ご相談は、全国共通のフリーダイヤルで下記のお客様相談センターでもお受け致します。

本田技研工業株式会社　お客様相談センター

フリーダイヤル　0120-112010（イイフレアイオ）

受付時間　9：00～12：00　13：00～17：00
〒351-0188　埼玉県和光市本町 8 － 1

所在地、電話番号などが変更になることがありますのでご了承ください。

お車に関してお問い合わせいただく際は、お客様へ正確、迅速にご対応させていただくために、あらかじめ、お手元にお車の車検証をご準備いただき、下記の事項をご確認のうえ、ご相談ください。

①車検証記載事項
　車両型式、車体番号、エンジン型式、登録番号、登録年月日
②車種名、タイプ名、走行距離
③ご購入年月日
④販売店名

こんなことでお困りのとき

●キーが回せない

“0”から“I”に回らないとき（ハンドルロックの解除）

・ハンドルを左右に動かしながらキーを回してください。

エンジンスイッチ　→96ページ

“I”から“0”に回らないとき

・セレクトレバーがPに入っていますか。

キーを抜くとき　→96ページ

●エンジンがかからない

・セレクトレバーがPかNに入っていますか。

・**イモビライザーシステム装備車**

イモビライザーシステム表示灯が点滅していませんか。

イモビライザーシステム　→33ページ

・ガソリンが入っていますか。（メーター内の燃料計で確認してください。）

・バッテリーがあがっていませんか。

バッテリーあがりのとき　→230ページ

●セレクトレバーがPから動かせない

・ブレーキペダルを踏んでから操作していますか。
（操作できないときは、キーをシフトロック解除穴に差し込み、押しながらセレクトレバーを動かしてください。）

セレクトレバーが動かないとき　→121ページ

・エンジンスイッチを“II”にしてから操作していますか。

シフトロック装置の正しい理解を　→23ページ

●ドアを開けるとブザーが鳴る

・キーをエンジンスイッチに差し込んだままになっていませんか。

キー抜き忘れ警告ブザー　→97ページ

・ライトを消し忘れたままになっていませんか。

ライト消し忘れ警告ブザー　→98ページ

●走行するとブザーが鳴る

ブザーが鳴り、シートベルト非着用警告灯が点滅しているときは

・運転席シートベルトを着用していますか。
（運転席シートベルトを着用してください。）

シートベルトリマインダー　→67ページ

●キーを閉じ込めてしまった

・Honda販売店またはJAFへご連絡ください。

●水温計の針が“H”の目盛に入った
●エンジンルームから蒸気が立ちのぼっている

・オーバーヒートのおそれがあります。
（安全な場所に停車して、エンジンを冷やしてください。）

オーバーヒートしたとき　→218ページ

●走行中にブレーキを踏むと金属的な摩擦音がする

・ブレーキパッドが摩耗して使用限界になっているおそれがあります。
（ホンダプリモ店で点検を行ってください。）

HONDA
The Power of Dreams

万一、異常や故障などの不具合が生じた場合は、
ホンダプリモ店で点検整備を受けてください。
各所在地、電話番号については、別冊の「サービス網一覧」
をご覧ください。

インターネットでも取扱説明情報をお伝えしております。
Digital Owner's Manualのホームページ
http://www.honda.co.jp/manual/

30S6A630
00X30-S6A-6300

ⓃⒽⒸ2000.2003.08.4
©2003 本田技研工業株式会社